

# 海竜寺Ⅱ遺跡

—板鼻スポーツ広場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2019

群馬県安中市教育委員会  
有限会社毛野考古学研究所

# 海竜寺Ⅱ遺跡

—板鼻スポーツ広場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

2019

群馬県安中市教育委員会  
有限会社毛野考古学研究所



調査区遠景（南から）



M-6号溝出土石塔

口絵2



H-1号住居址カマド



H-2号住居址カマド

## 例言

- 1 本書は安中市教育委員会教育部体育課が計画した板鼻スポーツ広場建設事業に伴う海竜寺Ⅱ遺跡（遺跡略称：E-7）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 海竜寺Ⅱ遺跡は安中市板鼻字海竜寺1272-1、1273-1および1287-1に所在する。
- 3 発掘調査及び遺物整理は安中市教育委員会の負担により、平成29・30年度に安中市教育委員会の指導・監理のもと有限会社毛野考古学研究所が実施した。
- 4 発掘調査は、伊藤順一・山本杏子・田村貴広（有限会社毛野考古学研究所）が担当し、測量および空撮は小出拓磨（同）が行った。整理調査は土師器・須恵器の遺物実測を有山径世・渡辺博子（同）、土師器・須恵器の胎土観察を志村哲（同）、石器を土井道昭（同）、縄文土器・中世以降の遺物実測を伊藤、遺物写真撮影を井上太（同）、墨書土器の赤外線写真撮影を長井正欣（同）、編集を伊藤が行った。
- 5 発掘調査は平成29年11月13日から平成30年2月9日の期間で実施した。遺物整理および報告書作成は平成30年4月2日から平成31年3月22日の期間で実施した。
- 6 本書の執筆はⅠ-1を井上慎也（安中市教育委員会）、Ⅲを南田法正（有限会社毛野考古学研究所）Ⅵ-2を有山、Ⅶ-3を壁崇志（安中市教育委員会）、他を伊藤が行った。
- 7 本書に関わる資料は一括して安中市教育委員会が保管している。
- 8 現地調査から報告書作成に至るまで外山政子・三浦京子両氏に多大なるご教示をいただいた。
- 9 出土した人骨については楢崎修一郎氏（生物考古学研究所）に御教示いただいた。
- 10 発掘調査・整理調査に関わった方々は次のとおりである。  
【発掘調査】 生駒朝男 今井保美 岩井英雄 岩坂康男 大沢早知子 楠本正樹 小屋洋子 飯西武清水正 新聞昌代 竹井五郎 多胡栄夫 多胡茂子 多胡わぐり 遠間輝夫 土佐庸好 永井述史 中島徹 野口義則 原田道明 村瀬希久雄 村椿健 湯本久江  
【整理調査】 池内麻美 鬼形敦子 小野沢絹子 下條真美代 瀬尾則子 竹中美保子 真下弘美
- 11 発掘調査および整理調査の期間中下記の方々にご指導・ご協力をいただいた。記して感謝の意を表します。  
秋元太郎 合田幸美 笹森健一 笹森紀己子 佐野亨介 清水豊 早田勉 中島良農夫(板鼻5区区长) (株)野口組

## 凡例

- 1 遺構の実測図は、住居址・土坑・掘立柱建物址・溝・配石遺構1/80、カマド1/40を基本とした。
- 2 遺構図中の北マークは座標北である。座標は世界測地系を使用した。
- 3 遺物実測図の縮尺は1/4を基本とした。なお、遺物のサイズに応じて縮尺を変更したもののついては図中に個別にスケールを付した。
- 4 遺構図・遺物実測図に示したトーンは個別に凡例を示した。
- 5 土層説明中での記号、略称は次のとおりである。  
しまり、粘性 ○：強い ○：あり △：弱い ×：なし  
混入物の量 ○：大量（30～50%） ○：多量（15～25%） △：少量（5～10%）  
※：微量（1～3%）

混入物 RP：ローム粒子（溶け込んだ状態） RB：ロームブロック（塊の状態）  
 YP：板鼻黄色軽石（As-YP）

- 6 本文・図面で示す火山灰の名称は以下の記号を用いた。  
 浅間 A 軽石 = As-A 浅間 B 軽石 = As-B 浅間 C 軽石 = As-C  
 榛名二ツ岳渋川テフラ = Hr-FA
- 7 遺構略称については以下のとおりである。  
 H：古墳時代以降の住居址 D：土坑 S：配石 M：溝 HT：掘立柱建物址 SP：ピット
- 8 遺物写真の縮尺は遺物実測図に合わせてある。
- 9 住居主軸は、カマドのあるものについてはカマドの方位を、ないものについては長軸方向を基本とした。主軸方位は北を基準として方位を示した。
- 10 土師器・須恵器の遺物観察表中における胎土の項目に示した記号については以下のとおりである。  
 A. 透明石英 B. チャート C. 角閃石 D. 雲母 E. 片岩 F. 凝灰岩粒 G. 赤色岩粒  
 H. 骨針 I. 白色粒子 J. 赤色粒子 K. 泥岩 L. 長石 M. 頁岩 N. 安山岩粒  
 O. 角閃石安山岩
- 11 遺物出土量および住居址主柱穴トーンについては以下のとおりである。

< 遺物重量分布図マーク >

	10g	100g	1000g	
土師器環系	●	■	■	鉄製品
土師器甕系	●	■	■	石器(石製品)
須恵器環系	□	□	□	石
須恵器甕系	○	○	○	粘土塊
羽釜	●	●	●	
磁器	▽	▽	▽	
陶器	△	△	△	

< ピットの深さ >

○	: 0 ~ 19 cm
●	: 20 ~ 39 cm
●	: 40 ~ 59 cm
●	: 60 cm以上

## 目次

口絵	2. 整理調査の方法	3
例言	III 遺跡の地理的・歴史的環境	3
凡例	1. 地理的環境	3
目次	2. 歴史的環境	4
I 調査の経緯	IV 基本層序	5
1. 調査に至る経緯	V 検出された遺構	7
2. 調査の経過	1. 遺跡の概要	7
II 調査の方法	2. 住居址	7
1. 発掘調査の方法	3. 土坑	10

4. 掘立柱建物址・ピット列	11
5. 溝	11
6. 配石遺構	11
7. ピット	11
VI 出土遺物	56
1. 縄文時代の遺物	56
2. 古墳時代・平安時代の遺物	56

3. 中世の遺物	58
VII 成果と問題点	97
1. 海竜寺Ⅱ遺跡における遺構変遷	97
2. カマドについて	99
3. 中世の板敷—海龍寺を中心として—	100
写真図版1～24	
抄録	

## 挿図目次

第1図 調査区域図	1
第2図 安中市周辺地形図	3
第3図 周辺遺跡分布図	4
第4図 基本順序	5
第5図 全体図	6
第6図 H-1号住居址実測図(1)	12
第7図 H-1号住居址実測図(2)・H-2号住居址実測図(1)	13
第8図 H-2号住居址実測図(2)・H-3号住居址実測図(1)	14
第9図 H-3号住居址実測図(2)・H-4号住居址実測図(1)	15
第10図 H-4号住居址実測図(2)	16
第11図 H-5号住居址実測図(1)	17
第12図 H-5号住居址実測図(2)・H-6号住居址実測図(1)	18
第13図 H-6号住居址実測図(2)	19
第14図 H-7号住居址実測図(1)	20
第15図 H-7号住居址実測図(2)・H-8号住居址実測図	21
第16図 H-9・10号住居址実測図	22
第17図 H-11号住居址実測図・H-12号住居址実測図(1)	23
第18図 H-12号住居址実測図(2)・H-13号住居址実測図(1)	24
第19図 H-13号住居址実測図(2)	25
第20図 D-1～8号土坑実測図	26
第21図 D-9～11・13・16～24号土坑実測図	27
第22図 D-25～35・45・46号土坑実測図	28
第23図 D-36～43・47～51号土坑実測図	29
第24図 D-52・53・55～59・61号土坑実測図	30
第25図 D-60・62・63・65～70・134・135・138号土坑実測図	31
第26図 D-72～82号土坑実測図	32
第27図 D-83～87・91・92・94・95号土坑実測図	33
第28図 D-96～106・108・140号土坑実測図	34
第29図 D-107・109～119号土坑実測図	35
第30図 D-120～126・130・133・136号土坑実測図	36
第31図 D-142・143・145・147～149号土坑実測図	37
第32図 H T-1・2・4号掘立柱建物址実測図	38
第33図 H T-3・5・6・8号掘立柱建物址実測図	39
第34図 H T-7・9～11号掘立柱建物址実測図	40
第35図 1～5号ピット列実測図	41

第36図 6～10号ピット列実測図	42
第37図 11号ピット列・M-1・2・4・9号溝実測図	43
第38図 溝実測図	44
第39図 M-6・8号溝・S-1・3～6・15・23号配石遺構実測図	45
第40図 S-2・20号配石遺構実測図・ピット位置図(1)	46
第41図 ピット位置図(2)	47
第42図 ピット位置図(3)	48
第43図 住居址出土遺物(1)	60
第44図 住居址出土遺物(2)	61
第45図 住居址出土遺物(3)	62
第46図 住居址出土遺物(4)	63
第47図 住居址出土遺物(5)	64
第48図 住居址出土遺物(6)	65
第49図 住居址出土遺物(7)	66
第50図 住居址出土遺物(8)	67
第51図 住居址出土遺物(9)	68
第52図 住居址出土遺物(10)	69
第53図 土坑出土遺物(1)	70
第54図 土坑出土遺物(2)	71
第55図 土坑出土遺物(3)	72
第56図 土坑出土遺物(4)	73
第57図 土坑出土遺物(5)・溝出土遺物(1)	74
第58図 溝出土遺物(2)・配石遺構出土遺物(1)	75
第59図 溝出土遺物(3)・配石遺構出土遺物(2)	76
第60図 配石遺構出土遺物(2)	77
第61図 配石遺構出土遺物(3)・掘立柱建物址・ピット出土遺物(1)～78	78
第62図 掘立柱建物址・ピット出土遺物(2)・遺構外出土遺物(1)～80	80
第63図 遺構外出土遺物(2)	80
第64図 海竜寺Ⅱ遺跡における遺構変遷(1)	97
第65図 海竜寺Ⅱ遺跡における遺構変遷(2)	98
第66図 H-4号住居址カマドにおける空焚きの痕跡	99
第67図 カマドの構築手順(試案)(1)	99
第68図 カマドの構築手順(試案)(2)	100
第69図 享徳の民間関係	101
第70図 海竜寺Ⅱ遺跡位置図	105

## 表目次

第1表 遺構観察表(1)	49	第15表 遺物観察表(7)	86
第2表 遺構観察表(2)	50	第16表 遺物観察表(8)	87
第3表 遺構観察表(3)	51	第17表 遺物観察表(9)	88
第4表 遺構観察表(4)	52	第18表 遺物観察表(10)	89
第5表 遺構観察表(5)	53	第19表 遺物観察表(11)	90
第6表 遺構観察表(6)	54	第20表 遺物観察表(12)	91
第7表 遺構観察表(7)	55	第21表 遺物観察表(13)	92
第8表 遺構観察表(8)	56	第22表 遺物観察表(14)	93
第9表 遺物観察表(1)	80	第23表 遺物観察表(15)	94
第10表 遺物観察表(2)	81	第24表 遺物観察表(16)	95
第11表 遺物観察表(3)	82	第25表 遺物観察表(17)	96
第12表 遺物観察表(4)	83	第26表 遺物観察表(18)	97
第13表 遺物観察表(5)	84	第27表 カマド計測値	100
第14表 遺物観察表(6)	85		

## 写真図版目次

図版 1 調査区全量(上が南東)	D-3号土坑(北から)
図版 2 H-1号住居址(西から)	D-18号土坑(南東から)
H-1号住居址カマド燃焼室(西から)	D-28・29・30号土坑(南から)
H-1号住居址カマド煙道出土状態(南西から)	D-44号土坑(南東から)
H-1号住居址貯蔵穴遺物出土状態(北西から)	D-49・50・51号土坑(南東から)
H-2号住居址(南東から)	D-53号土坑上層断面(南東から)
H-2号住居址遺物出土状態(南東から)	D-75号土坑(南東から)
H-2号住居址カマド遺物出土状態(南東から)	D-81号土坑(南東から)
H-2号住居址カマド支脚出土状態(南東から)	D-83号土坑(南から)
図版 3 H-3号住居址(南西から)	D-103号土坑(南東から)
H-4号住居址(北東から)	D-107号土坑(南東から)
H-4号住居址カマド(北東から)	M-1・3・6・8・10号溝、D-53号土坑(上が北西)
H-4号住居址遺物出土状態(北東から)	図版 8 M-1号溝(南西から)
H-4号住居址遺物出土状態(北から)	M-6・8号溝(南東から)
H-4号住居址遺物出土状態(北から)	M-6号溝遺物出土状態(南から)
H-5号住居址(南東から)	M-6号溝遺物出土状態(北から)
H-5号住居址カマド(南東から)	M-6号溝遺物出土状態(北西から)
図版 4 H-6号住居址(西から)	M-9号溝(北東から)
H-6号住居址カマド(西から)	S-1号配石(南東から)
H-7号住居址(北西から)	S-4号配石(東から)
H-7号住居址カマド(北西から)	図版 10 S-2号配石(上が北西)
H-7号住居址上層断面(西から)	S-5号配石(東から)
H-7号住居址貯蔵穴(北西から)	S-6号配石(西から)
H-8号住居址(西から)	S-15号配石(東から)
H-8号住居址カマド(西から)	S-23号配石(南西から)
図版 5 H-9号住居址(南から)	図版 11 H-1号住居址出土遺物
H-9号住居址遺物出土状態(南から)	図版 12 H-2・3号住居址出土遺物
H-10号住居址(南から)	図版 13 H-4号住居址出土遺物(1)
H-10号住居址炉(北から)	図版 14 H-4号住居址出土遺物(2)・H-5号住居址出土遺物(1)
H-11号住居址(北西から)	図版 15 H-5号住居址出土遺物(2)
H-11号住居址カマド(北西から)	図版 16 H-6号住居址出土遺物・H-7号住居址出土遺物(1)
H-12号住居址(南から)	図版 17 H-7号住居址出土遺物(2)・H-8・9号住居址出土遺物
H-12号住居址遺物出土状態(南から)	図版 18 H-10~12号住居址出土遺物・H-13号住居址出土遺物(1)
図版 6 H-13号住居址(南西から)	図版 19 H-13号住居址出土遺物(2)
H-13号住居址カマド(南西から)	図版 20 土坑出土遺物(1)
H-13号住居址遺物出土状態(南から)	図版 21 土坑出土遺物(2)
H-13号住居址床下土坑(南西から)	図版 22 配石遺構出土遺物(1)
掘立柱建物址群(北東から)	図版 23 配石遺構出土遺物(2)・溝・ビット(掘立柱建物)出土遺物
図版 7 D-1号土坑(南から)	図版 24 遺構外出土遺物

# I 調査の経緯

## 1 調査に至る経緯

平成29年4月26日、安中市教育委員会教育部体育課から板鼻スポーツ広場建設事業に伴う埋蔵文化財の状況について文化財保護課へ照会があった。同年4月27日、照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地(市№369)内にあり、平成16年度に発掘調査された海竜寺遺跡の隣接地であることから、遺構が存在する可能性が十分考えられ、開発にあたっては埋蔵文化財の取り扱いについて文化財保護課と協議が必要である旨の意見書を提出した。その後、体育課との協議を重ねた結果、計画を変更することは現実的には困難な状況であり、工事方法の見直し等によっても、遺構への影響が避けられないとの結論に達した。そこで、事業実施に先立ち、工事によって影響を被る部分を対象に発掘調査による記録保存の措置を講じることで体育課と調査期間、調査費等の調整を進めることとなった。

同年9月12日付けで、必要書類(文化財保護法第94条通知)が提出され、通知に対して同年9月15日付けで体育課へ発掘調査の勧告を行った。

発掘調査については、体育課と調査への対応を協議した結果、文化財保護課の直営での発掘調査は、体制的に対応が困難である状況から、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財発掘調査における民間調査組織事務取扱要綱」に基づき、登録民間調査組織に発掘調査全般を依頼することになった。

同年9月25日付けで体育課より発掘調査の依頼書が提出され、登録民間調査組織を選定後、同年10



第1図 調査区域図

月10日付けで開発者(市教育委員会体育課)、登録民間調査組織(有限会社毛野考古学研究所)、市教育委員会(文化財保護課)で三者協定を締結し、必要書類(文化財保護法第92条関係)の届出、調査準備等を行い、同年11月13日から平成30年2月9日の期間で本発掘調査を実施した。

資料整理及び報告書作成については、発掘調査と同様、三者協定を締結し、平成30年4月2日～平成31年3月22日の期間で実施した。

## 2 調査の経過

### (1) 発掘調査の経過

平成29年11月期 13日：機材搬入及び重機掘削を開始する。14日：重機掘削を継続する。人力による遺構確認作業を開始する。15日：重機掘削を継続する。人力による遺構掘削を開始する。遺構測量用の基準点の設置を行う。16日：重機掘削・遺構掘削を継続する。遺構測量を開始する。17～24日：重機掘削・遺構掘削・遺構測量を継続する。27日：重機掘削を終了する。28～30日：遺構掘削・遺構測量を継続する。12月期 1日～26日：遺構掘削・遺構測量を継続する。27日：年末年始休暇に備えた安全対策を講じる。平成30年1月期 9日：作業を再開する。22日：降雪のため現場作業を中止する。23日：除雪作業を行う。31日：空撮を行う。2月期 1日：遺構掘削・遺構測量を継続する。プレハブを撤収する。2日：午前中は降雪のため除雪作業を行い午後から作業を開始する。6日：遺構掘削を終了する。7日：遺構測量を終了する。9日：機材を撤収し、現地における調査を終了する。

### (2) 資料整理の経過

資料整理は平成30年4月2日から平成31年3月22日の間で行った。

4月期：遺物洗浄・注記を行う。遺構ごとに遺物を器種分類しそれぞれの重量計測を行う。5月期：遺物の接合・復元を行う。遺構図の修正及びデジタルトレースを行う。6月期：遺物の接合・復元および遺構図の修正・デジタルトレースを継続する。7月期：遺物の接合・復元を継続する。掲載遺物を選別し写真撮影を開始する。8月期：遺物の接合・復元を継続する。遺物写真撮影を継続する。遺構図の修正およびデジタルトレースを継続する。9月期：遺物写真を掲載用に加工する。遺物実測を開始する。遺構図の修正およびデジタルトレースを継続する。10月期：遺物実測を継続する。11月期：遺物実測を継続する。12月期：遺物実測を継続する。遺物実測図のトレースを開始する。平成31年1月期：遺物トレースを継続する。報告書原稿執筆および編集を開始する。2月期：報告書編集作業を継続する。報告書データを入校した後校正を行う。3月期：校正を行う。印刷・製本を行う。

## II 調査の方法

### 1 発掘調査の方法

発掘調査の方法および手順は安中市の調査で採用している方法を原則として行った。詳細については安中市において既報の報告書を参照願いたい。

発掘調査は調査区を設定後、バックホー(0.7m)で遺構確認面(基本層序第Ⅵ層)まで掘削し、人力で鋤簾を用いて遺構確認を行った。検出された遺構については、遺構ごとに遺構略称と番号を付し、遺構の内容に応じた精査を行い、遺構埋没状態及び遺物出土状態・完掘状態など調査状況に即して写真撮影を行った。写真撮影には35mm判のフィルムカメラ(FM2：モノクロ・リバーサル)と1,200万画素相当のデジタルカメラを使用した。遺構測量は基準点を設定したのち、平面図はトータルステーション、断面図は基準点からの測り込みで行った。遺構調査終了後、ドローンを用いて空撮を行った。

## 2 整理調査の方法

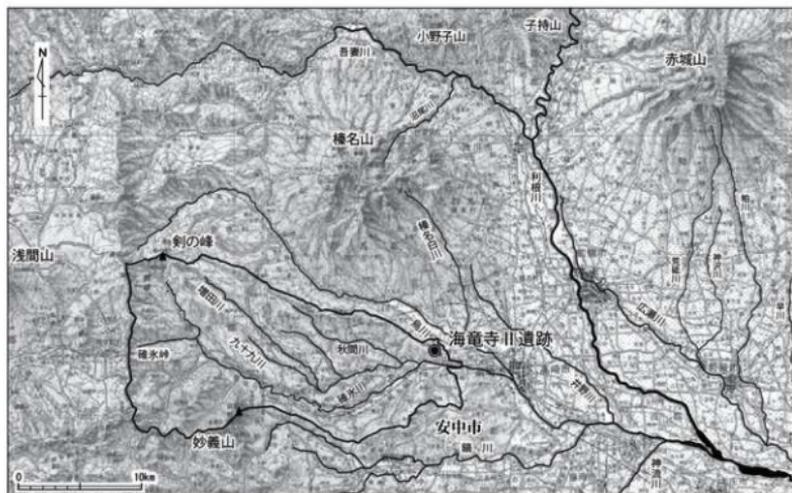
整理調査は、遺構図の修正を行いトレース原図を作成し Adobe Illustrator CS2 を用いてデジタルトレースを行った。出土遺物は洗浄・注記後に遺構単位で器種分類を行い、重量計測を行った。その後接合・復元を行い接合にはセメダインCを用い必要に応じてエポキシ系樹脂で補強・復元を行った。遺物の写真撮影には Nikon D750 を使用した。写真データにはそれぞれ番号を付し整理した後 Adobe Photoshop CS6 を使用して縮尺の変更・トリミングを行った。原稿執筆及び編集には Adobe InDesign CS2 を用いた。

## III 遺跡の地理的・歴史的環境

### 1 地理的環境

安中市の西端は長野県境であり、鼻曲山(1655m)を中心に連なる南北長約25kmの尾根筋を形成する。その南東には妙義山一帯の山塊があり、北東に榛名山がそびえる。両山間の山地には、霧積山・剣の峰・留夫山などを源流とする碓氷川や九十九川がおよそ南東方向へ流下し、安中台地や横野台地などの河岸段丘を発達させている。これらの山地・丘陵帯と榛名山との間には、いわゆる深谷断層(関東北西緑断層帯)の北西端部が走り、鼻曲山北側を源流とする烏川は断層と並走しながら南東流する。

烏川と碓氷川の合流点より西には八幡台地(高崎市)が広がり、大谷津川が開析した比高24mの深い谷によって秋間丘陵と分断される。本遺跡のある板鼻地域および海竜寺一帯は、秋間丘陵南東端部に位置する広大な緩斜面で、東西を小河川によって限られるため、南北に長い台地面を形成している。



(縮尺 40 万分の 1、国土地理院発行 20 万分の 1 地形図を改変)

第 2 図 安中市周辺地形図

## 2 歴史的環境

本遺跡周辺の秋間丘陵東端部と、八幡台地の遺跡を中心に、主要遺跡を通時的に列記しておく。

本遺跡の西側 200 m に位置する古城遺跡（2）では、A T 下位においてナイフ形石器や局部磨製石斧等を含む後旧石器時代の石器が多数出土しており、複数のユニットが確認されている。

縄文時代では、剣崎長瀬西遺跡（38）において草創期の爪形土器・多縄文土器・有舌尖頭器などが出土している。古城遺跡では前期前葉～後葉・後期前葉の土器が出土している。台地内の最高所にある若田原遺跡（34）では、前期末葉の住居址 1 軒、後期初頭の柄鏡形敷石住居址 2 軒、中期後葉の住居址が 20 軒以上という構成で、拠点の環状集落であると推測される。剣崎稲荷塚遺跡（39）も前期後葉と中期後葉を主体とした拠点集落の可能性が高い。また、本遺跡（1、平成 15 年度調査）においては、中期末葉の柄鏡形敷石住居址を 1 軒確認している。



第 3 図 周辺遺跡分布図（国土地理院発行 25,000 分の 1 図「富田」「下室田」を改変）

1. 海竜寺Ⅱ遺跡（本報告書）
2. 古城遺跡
3. 板鼻城
4. 市 No.1138（遠見石）
5. 鷹ノ巣出丸
6. 小丸田曲輪
7. 板鼻 4 号墳（道場塚）
8. 稲荷木遺跡
9. 板鼻 2 号墳（井ノ毛塚）
10. 板鼻 3 号墳（跳子塚）
- 11～13. 市 No.1130～1132・屏風岩遺跡（板鼻古墳群）
14. 板鼻 1 号墳（立的塚・荒木塚）
15. 市 No.1123
- 16～20. 市 No.1126・No.1127・No.1129・No.1128・No.1125（板鼻古墳群）
- 21・22. 市 No.1124・No.1122
23. 平塚古墳
24. 八幡遺跡
25. 八幡二子塚古墳
26. 観音塚古墳
27. 四ノ市遺跡
28. 八幡六枚遺跡（「片笠郎」刻印須惠器出土）
29. 若田屋敷裏Ⅰ・Ⅱ遺跡
30. 八幡中原遺跡（第 1 次）
31. 八幡中原遺跡（第 3 次・第 5 次）
32. 七五三引道跡
33. 榎ノ木古墳
34. 若田原遺跡
35. 若田大塚古墳
36. 剣崎長瀬西古墳
37. 大島原遺跡
38. 剣崎長瀬西遺跡
39. 剣崎稲荷塚遺跡
40. 剣崎天神山古墳

弥生時代では、八幡遺跡(24)・引間遺跡および烏川右岸の観音山丘陵上に位置する少林山台遺跡において、後期樽式期から古墳時代初頭にかけての集落が営まれ、それぞれ数基の礎床墓を伴う。

古墳時代になると、八幡台地南西崖一帯に板鼻古墳群が築造され、立的塚古墳(14、板鼻1号墳・荒木塚)は帆立貝形古墳とも言われている。本古墳群の東には、5世紀後半の平塚古墳(23)・6世紀前半の八幡2号墳古墳(25)・6世紀末～7世紀初頭の観音塚古墳(26)に代表される八幡古墳群が展開する。台地北側では、5世紀後半の大型円墳である剣崎長瀬西古墳(36)や剣崎・若田原各古墳群が築造される。本遺跡から栃谷戸を北上すると、板鼻2号墳(9、井ノ毛塚)と板鼻3号墳(10、銚子塚)が存在する。

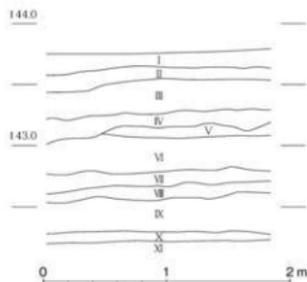
古墳時代の集落としては、本遺跡(平成15年度調査)で前期の住居址2軒、5世紀後半～6世紀初頭の住居址が9軒調査されている。剣崎長瀬西遺跡と大島原遺跡(37)では古墳中期の住居址が合わせて60棟以上確認されており、特に前者での韓式系土器の出土と馬埋葬土坑が注目される。

八幡中原遺跡(30～32)は古墳時代中期・後期から古代にかけての大集落で、墓壇状遺構や巨大な礎石が検出されたことから、七五三引遺跡(32)とともに片岡郡家に比定されている。東山道駅路の推定国府ルートは、八幡台地を北東―南西方向で横断し、板鼻1丁目辺りを通過するらしい。駅路推定位置に近い剣崎稲荷塚遺跡では、11世紀代の金銅製神像が出土している。

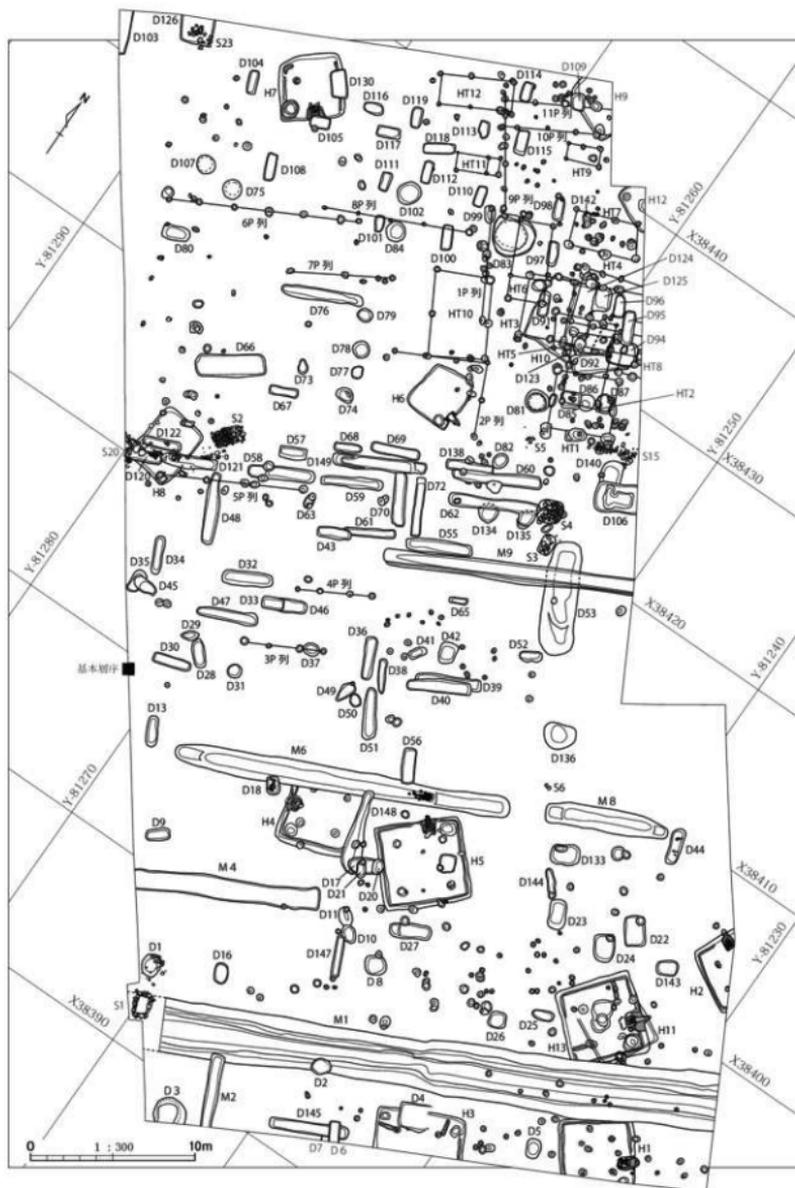
八幡宮は上野介頼信が10世紀半ば頃に勧請したと伝えられ、板鼻に至る一帯には八幡荘が成立した。鎌倉期には安達氏の守護所が板鼻に設置されていたようで、その後八幡荘は新田氏一族の所領となる。室町・戦国期には板鼻は上杉氏の拠点となっていたようで、16世紀初頭には上杉顯定の生母の回忌法要が海竜寺で行われている。周囲には古城遺跡の館跡(14～15世紀代)や板鼻城(3、戦国期)、鷹ノ巣出丸(5)などの城館が集中する。近世には中山道が整備され、板鼻宿は上州の中では最大規模の宿場であった。

## IV 基本層序

調査区南西壁中央付近で基本層序の確認を行った。I層は暗褐色土で現代の耕作土である。II層はAs-Aを大量に含む暗褐色土である。III層は黒褐色土でAs-AとAs-Bが混在する。IV層は黒褐色土でAs-Bを大量に含む。V層は褐灰色土でAs-Bが一時堆積に近い状態で堆積していた。V層については調査区全体で確認されたわけではなく調査区北西部のみで確認された。VI層は黒色土でAs-Cを含んでおり、本層位上面を遺構確認面として調査を行った。VII層は暗褐色土で褐色土ブロックを多く含む。本層位からは遺構の確認には至らなかったが縄文時代中期後半の遺物が出土した。VIII層はにぶい黄褐色土層でAs-YPを微量に含む。ローム層へと至る漸移層と捉えられる。IX層はローム層でAs-YPを少量含む。今回の調査では本層位より下層からは遺構・遺物ともに検出されなかった。X層は褐色土層、XI層は灰黄褐色土層でいずれもAs-YPを少量含んでいる。なお、M-1号溝やM-6号溝の壁面において本層位より下層でAs-YP層が確認された。



第4図 基本層序



第5図 全体図

## V 検出された遺構

### 1 遺跡の概要

海竜寺Ⅱ遺跡は平成16年度に実施された海竜寺遺跡(安中市教育委員会2006)の南東側に近接する。今回の調査では住居址13軒、掘立柱建物址12棟、ピット列(櫛列)11条、土坑13基、溝6条、配石遺構9基、ピット479基(掘立柱建物址・ピット列含む)が検出された。各時代に関する概要は以下のとおりである。

**縄文時代** 遺構の検出には至らなかったが、基本層序Ⅶ層から縄文時代中期後半に帰属する遺物が出土した。海竜寺遺跡では同時期に帰属する柄鏡形敷石住居址が確認されている。

**古墳時代** 5世紀後半～6世紀初頭に帰属する竪穴住居址が10軒(H-1～5・7・9・10・12・13)確認された。H-1・2・4号住居址ではカマドの遺存状態が良好で構造を知る上で好事例といえる。遺物についてもH-2・4・7・13号住居址において良好な一括資料を得ることができた。

**平安時代** 9世紀後半から10世紀前半に帰属する竪穴住居址が3軒(H-6・8・11)確認された。H-6・8号住居址は主軸方位がほぼ一致するが、H-11号住居址のみ異なる。

**中世** 埋没土にAsBを含む遺構を当該期とした。掘立柱建物址12棟、ピット列(櫛列)11条、井戸6基、配石遺構9基が該当する。出土した遺物から15世紀後半から16世紀前半に帰属するものと考えられる。M-6号溝からは朱墨により文字が書かれた石塔が出土しており特筆される。

**近世** 埋没土にAsA多量遺構を当該期とした。AsA降下以降の復旧溝が該当する。

### 2 住居址

#### 〈住居址の帰属時期〉

出土した遺物から検出された住居址は以下の時期に帰属する。

5世紀後半：H-7・9・10・12号住居址

6世紀初頭：H-1～5・13号住居址

9世紀後半：H-6・11号住居址

10世紀後半：H-8号住居址

#### 〈住居址の概要〉

**検出状態**：確認された住居址は古墳時代と平安時代に大別される。各時代に限ってみると近接した箇所に位置する住居址があるが重複は認められない。また、古墳時代の住居址については5世紀後半に帰属するものが調査区北側に、6世紀初頭に帰属するものが調査区南側に分布する状況が看取され時代毎における分布の差が認められる。

#### 5世紀後半に帰属する住居址の概要

H-7号住居址は埋没土中にHr-FAの一次堆積層が確認された住居址である。カマドは南東壁の中央に付設されており黄橙粘質土を構築材とし、焚口天井部及び袖部には河原石を芯材として用いていた。燃焼室天井部は破壊されていたが、側壁の被熱が顕著に認められた。貯蔵穴(D1)は南側コーナーに位置する。主柱穴は検出されなかった。壁周溝は北東・南西壁において検出された。遺物は大量に出土しており、特にカマド周辺及び住居址中央部に集中する傾向が認められた。

H-9号住居址は調査区北端部において検出された。1/2程が調査区外に及ぶため全容は不明である。

貯蔵穴と考えられる土坑が1基(D1)南東コーナー部において検出された。遺物はその周囲から集中して出土した。柱穴はピットが1基(P1)検出されているが深度が浅い。床面において台石と考えられる約30cmの扁平な河原石が2点出土した。

H-10号住居址は後世の遺構による削平が著しく残存状況は不良であった。主柱穴と考えられるピットが3基(P1~3)検出されている。本住居址では住居址中央やや北よりの位置で炉跡が検出された。炉跡が認められた住居址は今回の調査においては本遺構のみである。

H-12号住居址は調査区北端部に位置する。調査区外に2/3程が及ぶため全容は不明である。埋没土中にはHrFAをブロック状に含む。消失家屋と考えられ、屋根材と考えられる炭化物が大量に出土している。出土した遺物の中には消失による屋根材の落下によって破壊された状況を呈しているもの(土師器環(2))もあった。

H-9・12号住居址は炉を伴うH-10号住居址と東西軸がほぼ一致することを考慮するとカマドではなく炉を伴っていた可能性も考えられよう。それは、カマドを伴うH-7号住居址の主軸方向が他の3軒と異なるという点からも首肯され得るのではないかと考える。また、H-7号住居址はカマドを伴う事例としては今回の調査においては最古段階に位置するものである。

#### 6世紀初頭に帰属する住居址の概要

H-1号住居址は南東壁が調査区外に範囲が及ぶ。カマドは北東壁に付設されていた。遺存状態が極めて良好で黄橙粘質土を構築材とし焚口天井部には凝灰岩を、袖部には河原石を芯材として用いていた。煙道はほぼ破損がない状態で検出された。主柱穴は4本確認されており、壁周溝は検出された範囲においては全周していた。貯蔵穴(D1)は東コーナーに位置する。遺物はカマド燃焼室内及び周辺に集中する傾向が認められた。

H-2号住居址は1/2程が調査区外に及ぶ。焼失住居址と考えられ屋根材と考えられる炭化材が放射状に検出された。カマドは北西壁に付設されており焚口部は破損していたものの燃焼室や煙道は良好な状態で遺存していた。本住居址のカマドは他の住居址で検出されたカマドとは異なり構築材全体が著しく被熱しており焼土化が顕著であった。主柱穴は2基(P1・2)検出されており壁周溝は調査範囲においては全周していた。遺物は住居址全体に散在していた。なお、カマド右側において小型甕(3)が直口壺(5)の上に乗せられた状態で出土した。

H-3号住居址は1/2が調査区外に及ぶ。主柱穴は2基(P1・2)検出されており、間仕切り溝と考えられる溝状の掘り込みが3箇所確認された。

H-4号住居址は北西壁および北東壁の一部を削平されていた。消失住居址と考えられ屋根材と考えられる炭化材が検出されている。カマドは南西壁に付設されており、黄橙粘質土を構築材とし焚口天井部及び袖部には河原石を芯材として用いていた。また、カマド構築材に用いている粘質土と同様の粘質土を壁に貼り付けた状態が認められた。これについては壁の補強に用いたとも考えられるが、カマド右側において出土した甕(3)が粘質土に貼り付け固定されたような状態で正位で出土している点を鑑みると一概に補強のみに用いただけとは断定できない。この箇所からはそのほか、小型甕(9・10)や須恵器口もまとめて出土している。主柱穴は4基(P1~P4)検出されており、貯蔵穴(D1)は南側コーナーで検出された。壁周溝は検出された範囲においては全周していた。

H-5号住居址はH-4号住居址に近接した箇所位置する。カマドは北西壁やや北寄り位置し、黄橙粘質土を構築材とし焚口天井部及び袖部には河原石を芯材として用いていた。燃焼室および煙道側

壁は被熱が顕著に認められた。主柱穴は4基（P1～4）認められ、壁周溝は全周していた。貯蔵穴（D1）は北側コーナーに位置していた。遺物はカマド周辺において集中する傾向が認められた。

H-13号住居址はH-11号住居址と重複し切り合い関係及び出土遺物から本遺構が古い。カマドは北東壁に付設されており黄橙粘質土を構築材とし焚口天井部及び袖部には河原石を芯材として用いていた。燃焼室では火床面が明瞭に確認された。主柱穴は4基（P1～4）検出されており壁周溝は南西壁の中央部を除き廻っていた。また、間仕切り溝と考えられる溝状の掘り込みが2箇所で見られた。貯蔵穴は東コーナーに位置する。遺物が大量に出土しており特に住居址中央部に集中する傾向が認められた。また、床下土坑が2基（D2・3）検出されている。

#### 9世紀後半に帰属する住居址の概要

H-6・11号住居址が該当する。両遺構ともに主柱穴は検出されなかった。カマドはH-6号住居址は東壁に、H-11号住居址は南東壁に付設されていた。古墳時代のカマドとは異なり燃焼室及び煙道部に河原石による芯材を用いていた。H-6号住居址ではカマド右側に浅い土坑状の掘り込み（D1）が検出されており貯蔵穴と考えられる。

#### 10世紀後半に帰属する住居址の概要

調査区中央西側で検出された。H-8号住居址が該当する。今回の調査で検出された当該期の遺構は本住居址のみである。東壁やや南寄りにカマドは付設されていた。袖部の芯材には河原石が用いられていた。貯蔵穴と考えられる土坑が1基南東コーナーにおいて検出された。

#### 〈古墳時代の住居内施設について〉

貯蔵穴：5世紀後半に帰属するH-7号住居址ではカマド右側に位置し、床面からの深度は1.28mを測る。貯蔵穴上部には蓋を置くための施設と考えられるテラスが認められた。6世紀初頭に帰属するH-1・4・5・13号住居址では位置と床面からの深度に差が認められた。まず位置であるがH-1・5・13号住居址ではカマド右側の近接した位置に貯蔵穴が検出されたのに対し、H-4号住居址ではカマド左側のやや離れた位置に貯蔵穴が位置している。また、床面からの深度についてH-1・4・5号住居址ではその平均深度が0.70mであるのに対し、H-13号住居址では1.20mを測り、前段階のH-7号住居址とほぼ同じ値を示す。この貯蔵穴の位置や深度の差がどのような理由に起因するのか現段階では不明である。

カマド：今回の調査で5世紀後半～6世紀初頭に帰属する住居址において遺存状態の良いカマドが多く検出された。これらのカマドでは共通点と相違点がそれぞれ認められる。まず、共通点としてはいずれのカマドも構築材には黄橙粘質土を用いて構築しているという点である。この構築材については住居址床下において検出される土坑において採取していることが判明している。焚口天井部及び袖部には芯材として河原石を用いている住居址が大半であった。H-1号住居址のみ焚口天井部の芯材に凝灰岩の切石を用いていた。また、支脚にはすべての住居址で高環を逆位で用いていた。H-5号住居址では逆位で設置された高環の下部にさらに環1点を逆位で設置して使用していた。前述したが、H-2号住居址のカマドは他の住居址とは様相が異なりカマド構築材の被熱による焼土化が著しい。カマド焚口部は右側の芯材が抜き取られ破損した状態であったが、燃焼室は2個体の裏が設置された状態で検出された。右側の裏は袖部に食い込んだ状態で設置されており煮炊き用に用いた裏そのものをカマド補強のための部材として用いたことが想定される。また、カマド天井部中央には高環や環が正位で設置された

状態で出土しておりその状況からカマド廃絶時に設置された可能性が高いと考えられる。H-4号住居址についてはカマド構築材と同様の黄橙粘質土を住居址壁面にも貼り付ける形態をとっていた。他の住居址では同様の形態は認められなかったものの、カマド形態のバリエーションの一つとして捉えられよう。

床下土坑：H-13号住居址で確認された（D2・3）。これらの土坑はカマド構築材に用いている黄橙粘質土と同様の粘質土が堆積する層位まで掘りこまれており、住居構築の際にカマド構築材に用いる粘質土採取のために掘削された土坑と考えられる。

### 3 土坑

131基の土坑が検出され、埋没土に含まれるテフラから時期は大きく4時期（I～IV）に分類される。また、時期による分類のほかに形態・遺物出土状態を加え9種類に分類される。

#### I 埋没土にHr-FAを含む土坑

D-130号土坑が該当する。埋没土にHr-FAの一時堆積層が確認されたH-7号住居址と重複し、長軸方位が一致することからH-7号住居址に付随した施設の可能性も考慮されるがD-130号土坑の掘り方の範囲がH-7号住居址と想定される範囲を超えることから別の遺構と判断した。

#### II 埋没土にHr-FA・As-Bを含まない土坑

D-31号土坑が該当する。遺物の出土が認められないため詳細な編年時期については不明である。

#### III 埋没土にAs-Bを含みAs-Aが含まれない土坑

a) 井戸：D-3・75・81・83・107号土坑が該当する。なお、いずれの井戸址も安全面の配慮から底面の検出には至っていない。検出された井戸址は全て素掘りの井戸である。井戸の規模としてはD-83号土坑の直径が2.64mを測り今回調査した中では最も大型のものである。他の井戸址はおおよそ1.10～1.50mであった。遺物はかわらけや内耳鍋のほか、茶臼・穀物臼といった石製品が出土した。D-3号土坑では埋戻しの際に投棄されたと考えられる大量の礫が遺物と共に出土した。また、本遺構から出土した漆が塗布された茶臼（D3-3）はS-2・20から出土したものと接合が認められそれらの遺構の廃絶時期が一致する可能性が考慮される。

b) 掘立柱建物址に伴う施設の一部：D-53号土坑が該当する。後述するM-6・8号溝間にある土橋と掘立柱建物址群を直線で結んだ線上に平行する状態で位置していることから掘立柱建物址を防御する施設であった可能性も考慮される。

c) 土壌墓：D-18・44号土坑が該当する。D-18号土坑はM-6号溝と重複し切り合い関係から本遺構が新しい。人骨の遺存状態も良好で埋葬形態は横臥屈葬であった。また、人骨については30代・男性という所見を得ている。副葬品としてはかわらけや六道銭と考えられる銭貨が胸のあたりからまどまって出土した。D-44号土坑は人骨の遺存状態が不良であったが、残存していた人骨の状態から埋葬形態は横臥屈葬であったと考えられる。副葬品は出土していない。

d) 配石遺構であった可能性のある土坑：D-1号土坑が該当する。S-1号配石と近接した箇所にも位置することに加えて、土坑内からは他の配石遺構と同様の河原石が数点出土した。

e) 竪穴状遺構：D-103号土坑が該当する。大半が調査区外に及ぶため詳細は不明であるが、遺構形態から竪穴状遺構の可能性が考慮される。

f) 性格不明の土坑：D-2・5・8・10・11・16・17・19～21・24・26・29・42・49・52・

63・73・74・77～80・82・84～87・94・99・102・106号土坑が該当する。

#### IV 埋没土にAs-Aを含む土坑

D-4・6・7・9・13・22・23・25・27・28・30・32～34・36・38～40・43・46～48・51・54～62・65～70・72・76・91・92・95～98・100・101・104・105・109～126・138・145・147～149が該当する。これらの土坑は多くの平面形が隅丸長方形ないし楕円形を呈する。また、それぞれの位置関係についても平行ないし直行している点などを考慮すると機能が一致していた可能性が考えられる。埋没土にAs-A軽石が大量に含まれている点や他の遺跡の事例を鑑みるとAs-Aを処理するための復旧溝(坑)であると考えられる。

## 4 掘立柱建物址・ピット列

調査区北部で12棟の掘立柱建物址を検出した。これらの掘立柱建物址には著しい重複が認められることから数度の建て替えが行われたことが想定される。また、柱穴埋没土にはAs-Bが含まれていることからAs-B降下以降に帰属する建物といえる。検出された掘立柱建物址はすべて側柱式の形態をとっており、HT-6・11号掘立柱建物址については庇が付属していたことを示す柱穴配列をとっていた。ピット列は11条確認された。これらは掘立柱建物址や後述する溝と平行ないし直行する走行方向をとっている点、柱穴埋没土にAs-Bを含んでいる点を考慮すると同時期に機能していた可能性が高いと考えられる。

## 5 溝

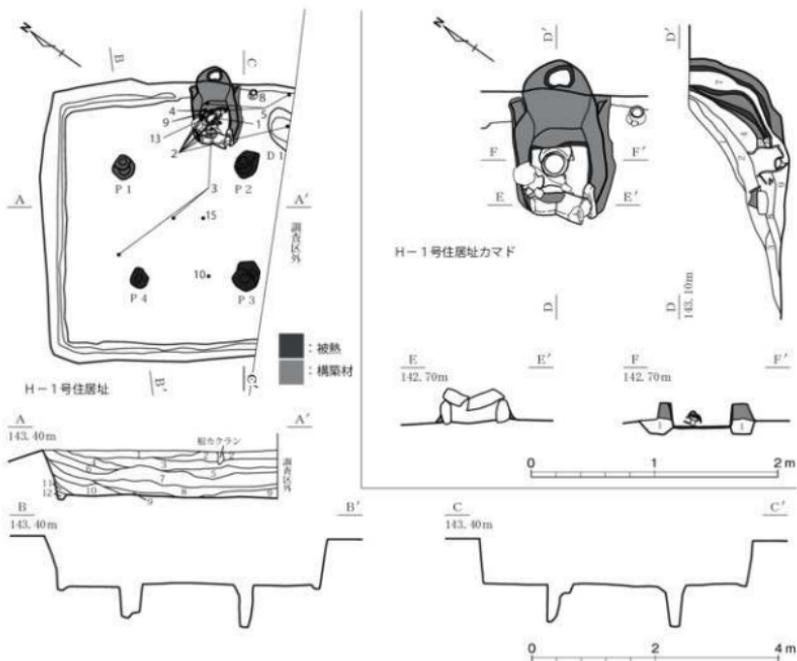
6条の溝を検出した。M-2号溝は溝として扱ったが、As-A降下に伴う復旧溝の可能性が高いと考えられる。また、M-4号溝についても深度が浅く他の溝とはやや様相が異なる。埋没土にはAs-Bを多く含んでいた。M-1号溝は南西-北東方向に直線的に走行する。S-1号配石と重複し切り合い関係から本遺構が古い。M-6・8号溝は両溝とも南西-北東方向の走行方向を示し同一線上に位置することからM-6号溝とM-8号溝の間は土橋として使用されていたことが想定される。M-9号溝は調査区中央北東側に位置する。北東-南西方向に走行し、D-53号土坑と重複する。切り合い関係から本遺構が新しい。M-1・6・8・10号溝は埋没土や出土物から前述の掘立柱建物址やピット列との有機的関係が強いと考えられる。

## 6 配石遺構

9基の河原石を用いた配石遺構を検出した。配石遺構は土坑状の掘り込みを伴うもの(S-1～4号配石遺構)と平面的に石を集石したもの(S-5・6・15・20・23号配石遺構)に分類される。埋没土及び覆土にはAs-Bが含まれている。S-1号配石遺構は平面形が長方形で土坑壁際に河原石を2～3段積んで構築されていた。

## 7 ピット

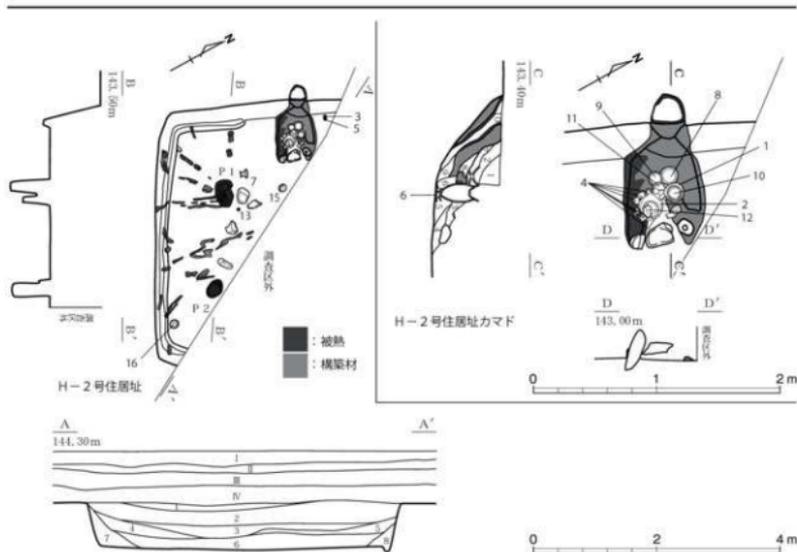
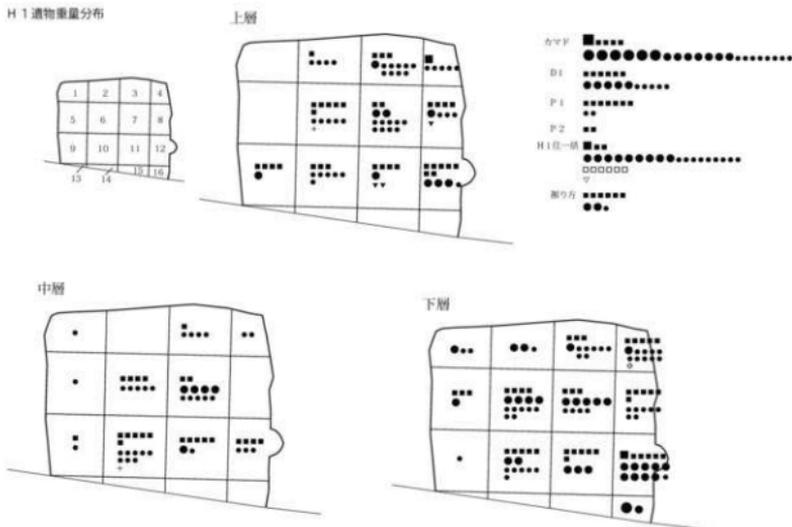
479基のピットを検出した。9割以上のピットで埋没土にAs-Bを含んでいた。なお、ピット総数の中には掘立柱建物址・ピット列に伴うものも含まれている。



遺構名	順番	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物				炭	埴土	備考
								As-C	Hr-FA	As-B				
HIA-A'	1	灰褐色 (10YR4/2)	△	○	●	●	×	△	×	×	×	×	×	
	2	黒褐色 (10YR3/2)	△	○	●	×	×	×	×	×	×	×	×	
	3	黒褐色 (10YR3/2)	△	○	●	×	×	×	△	×	×	×	×	
	4	黒褐色 (10YR3/1)	△	○	●	×	×	×	○	×	×	×	×	
	5	灰黄褐色 (10YR4/2)	△	○	●	●	×	×	×	×	×	×	×	褐色土ブロック多量
	6	暗褐色 (10YR3/3)	△	○	●	●	×	×	×	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	7	にぶい黄褐色 (10YR4/3)	△	○	●	×	○	○	●	×	×	×	×	褐色土ブロック多量
	8	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	●	●	○	×	×	×	×	●	●	黒色土ブロック少量
	9	黒褐色 (10YR3/2)	△	○	△	×	△	×	×	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	10	暗褐色 (10YR3/2)	△	○	×	×	△	×	×	×	×	×	×	
	11	黒褐色 (10YR3/2)	△	○	×	×	△	×	×	×	×	×	×	
HID-B'	12	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	×	○	×	×	×	×	×	×	
	1	黒褐色 (10YR3/2)	△	○	●	×	●	×	×	×	×	×	×	
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	△	○	○	○	△	×	×	×	×	×	×	
	3	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	○	○	●	×	×	×	×	×	×	
	4	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	○	○	●	×	×	×	×	×	×	
	5	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	○	△	×	×	×	×	×	×	○	
	6	にぶい黄褐色 (10YR4/4)	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	○	灰少量
	7	黒褐色 (10YR3/2)	△	○	△	△	△	×	×	×	×	×	×	
	8	黒褐色 (10YR3/2)	△	○	△	△	×	×	×	×	×	×	×	
HIF-F'	9	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	△	○	○	●	●	×	×	×	×	×	
	1	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	第2層ブロック少量

第6図 H-1号住居址実測図(1)

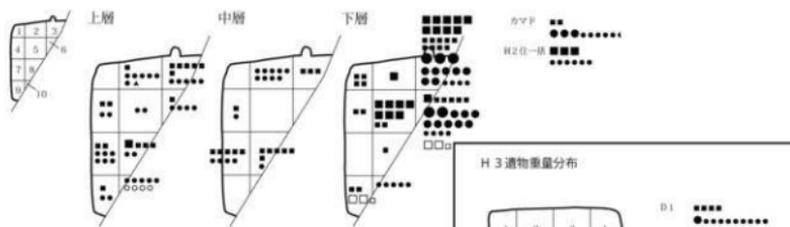
H 1 遺物重量分布



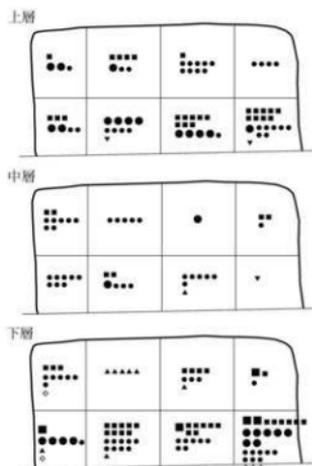
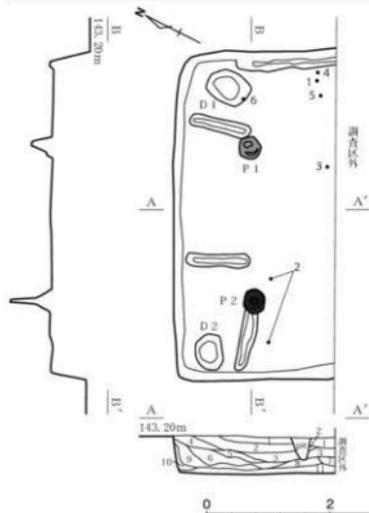
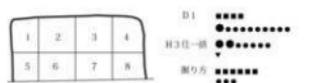
第7図 H-1号住居址実測図(2)・H-2号住居址実測図(1)

遺構名	層番	色調	しまり	粘性	SP	RB	YP	混入物	As-C	Hr-FA	As-B	炭	焼土	備考
H2A-A'	1	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	△	△	△	○	×	×	×	×	○	
	2	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	△	△	△	○	×	×	×	△	○	
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	△	△	△	○	×	×	×	○	○	
	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	△	△	△	×	×	×	×	○	○	
	5	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	△	△	△	○	×	×	×	×	×	
	6	黒褐色 (10YR3/1)	○	○	△	△	△	○	×	×	×	×	○	
	7	褐色 (10YR4/4)	△	△	○	○	○	○	×	×	×	×	○	
	8	灰黄褐色 (10YR4/2)	△	△	○	○	○	○	×	×	×	×	○	
H2C-C'	1	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	△	×	×	×	×	△	
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	△	黄褐色粘質土微量
	3	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	△	黄褐色粘質土多量
	4	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	△	黄褐色粘質土少量
	5	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	△	△	△	×	×	×	×	×	△	灰少量
	6	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	○	○	○	×	×	×	×	×	△	
	7	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	○	○	○	×	×	×	×	×	△	黄褐色粘質土少量
	8	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	○	○	○	×	×	×	×	×	△	黄褐色粘質土多量
	9	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	○	○	○	×	×	×	×	×	○	
	10	灰黄褐色 (10YR4/2)	△	△	○	○	○	×	×	×	×	×	○	

H 2 遺物重量分布

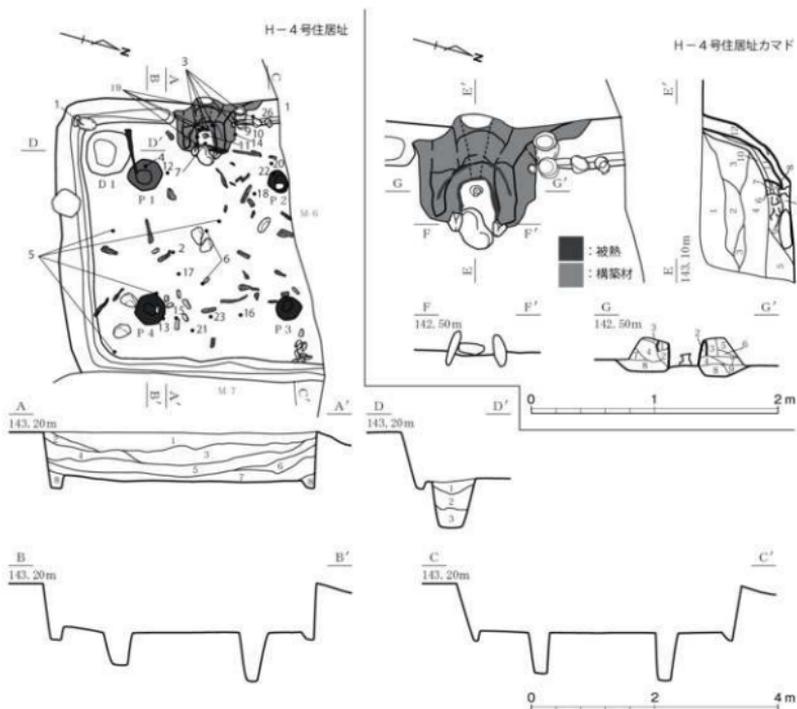


H 3 遺物重量分布



第8図 H-2号住居址実測図(2)・H-3号住居址実測図(1)

遺構名	層番	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物			炭	焼土	備考
								As-C	Hr-FA	As-B			
H3A-A'	1	黒褐色 (10YR3/1)	○	○	×	×	×	△	×	×	×	×	
	2	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	△	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	3	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	△	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	4	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	△	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	5	黒褐色 (10YR3/1)	○	○	×	×	×	△	×	×	×	×	
	6	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	×	△	△	△	×	×	×	×	
	7	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	×	△	△	△	×	×	×	×	
	8	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	△	△	△	×	×	×	×	
	9	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	△	△	△	×	×	×	×	
	10	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	
	11	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	△	△	○	×	×	×	×	×	

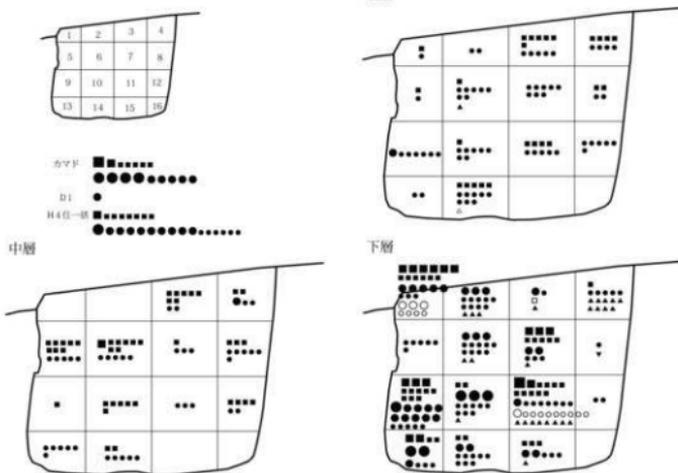


遺構名	層番	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物			炭	焼土	備考
								As-C	Hr-FA	As-B			
H4A-A'	1	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	
	2	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	3	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	×	△	△	△	×	×	×	×	黄褐色粘土大量
	5	暗褐色 (10YR3/2)	○	○	×	○	○	○	×	×	△	×	
	6	暗褐色 (10YR3/2)	○	○	×	△	△	△	×	×	×	×	黒褐色土ブロック微量
	7	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	×	△	△	△	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	8	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	×	○	×	×	×	×	×	

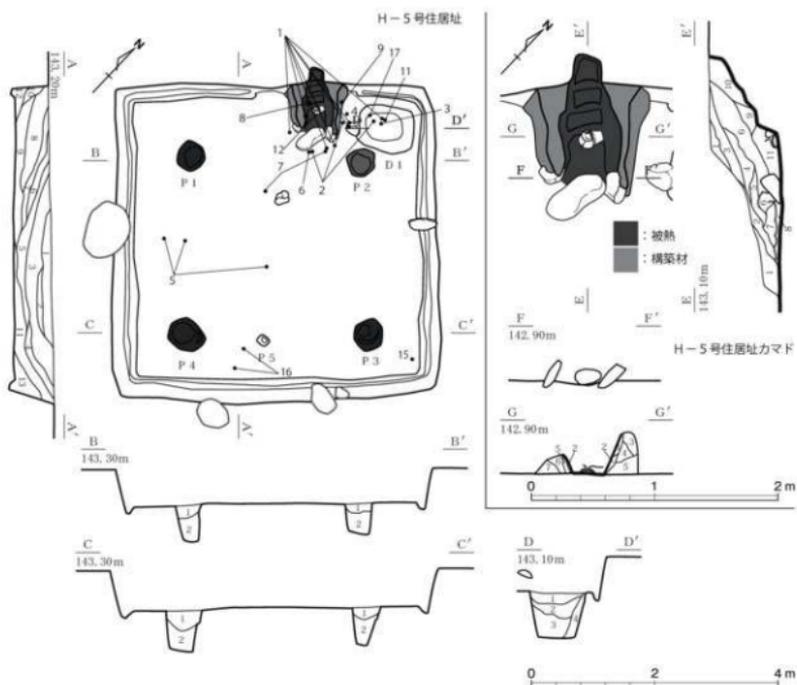
第9図 H-3号住居址実測図(2)・H-4号住居址実測図(1)

遺構名	順番	色調	しまり	粘性	SP	RB	YP	混入物				炭	焼土	備考	
								As-C	Hr-FA	As-B					
H4D-D'	1	黒褐色 (10YR3/2)	△	○	×	●	●	×	×	×	×	×			
	2	黒褐色 (10YR3/2)	△	○	×	●	△	×	×	×	×	×			
	3	黒褐色 (10YR3/2)	△	○	×	△	●	×	×	×	×	×			
H4E-E'	1	黒褐色 (10YR3/2)	△	○	×	×	●	●	×	×	×	×	●	黒褐色土微量	
	2	暗褐色 (10YR3/3)	△	△	×	×	△	△	×	×	×	×	●	黒褐色土微量	
	3	暗褐色 (10YR3/3)	△	△	×	○	△	△	●	×	×	×	●	黒褐色土少量	
	4	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	●	△	●	×	×	×	×	●		
	5	黒褐色 (10YR3/2)	△	○	×	●	△	●	×	×	×	×	●		
	6	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	●	×	●	×	×	×	×	×	●		
	7	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	●	×	●	●	×	×	×	×	△		
	8	暗褐色 (10YR3/3)	○	○	×	×	●	●	×	×	×	×	△		
	9	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	●	×	●	●	×	×	×	△	△		
	10	黄褐色 (10YR7/8)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×		方々下構築材
	11	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	●	×	●	×	×	×	×	×	×		
	12	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	●	×	●	○	×	×	×	×	×		
H4G-G'	13	暗褐色 (10YR3/3)	○	○	●	●	×	●	×	×	×	○	○		
	1	灰白 (5Y8/2)	○	○	×	×	○	●	×	×	×	×	△	黒褐色粘質土多量	
	2	糖 (7.5YR7/6)	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	△	燃焼至極熟粉	
	3	糖 (7.5YR7/6)	○	×	×	×	△	×	×	×	×	×	×	△	黒褐色土少量
	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	○	△	黒褐色土少量
	5	黄褐色 (10YR5/8)	○	○	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	黒褐色土少量
	6	黄褐色 (10YR5/8)	○	○	×	×	△	×	×	×	×	×	×	×	焼熟粉
	7	仁白・黄褐色 (10YR7/4)	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	黒褐色土多量
	8	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	○	△	黒褐色土多量
9	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×		

H 4 遺物重量分布



第 10 圖 H-4 号住居址実測圖 (2)



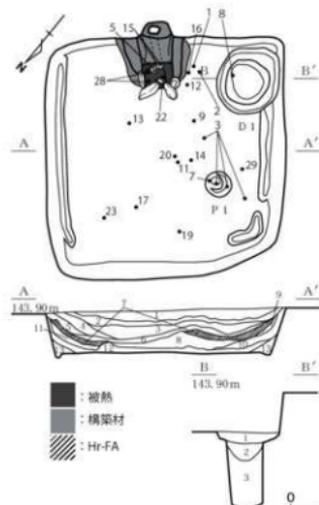
遺構名	層番	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	As-C	As-A	As-B	炭	焼土	備考
H5A-A'	1	黒褐色 (10YR3/1)	△	△	×	○	※	△	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	2	黒褐色 (10YR3/1)	△	△	×	○	※	△	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	3	黒褐色 (10YR2/2)	△	△	×	○	△	△	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	4	黒褐色 (10YR2/2)	△	△	×	○	※	△	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	5	灰黄褐色 (10YR4/2)	△	△	×	○	△	△	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	6	暗褐色 (10YR3/3)	△	△	×	×	×	△	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	7	黒 (10YR2/1)	△	△	×	○	※	△	×	×	×	×	褐色土ブロック微量
	8	黒褐色 (10YR2/2)	△	△	×	○	※	△	×	×	×	×	褐色土ブロック微量
	9	黒褐色 (10YR2/3)	△	△	×	○	※	△	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	10	黒褐色 (10YR2/3)	△	△	×	○	※	△	×	×	×	×	褐色土ブロック微量
	11	黒褐色 (10YR2/2)	△	△	×	○	△	△	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	12	黒褐色 (10YR2/2)	△	△	×	○	※	△	×	×	×	×	褐色土ブロック微量
	13	黒褐色 (10YR2/2)	△	△	×	○	※	△	×	×	×	×	褐色土ブロック微量
H5B-B'	1	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	○	○	※	△	×	×	×	×	
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	○	○	※	△	×	×	×	×	
H5C-C'	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	○	○	※	△	×	×	×	×	
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	○	○	※	△	×	×	×	×	
H5D-D'	1	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	○	※	△	×	×	×	×	○
	2	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	○	※	△	×	×	×	×	※
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	△	△	×	×	○	※	×	×	×	×	※
	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	△	△	×	△	○	※	×	×	×	×	×

第11図 H-5号住居址実測図(1)

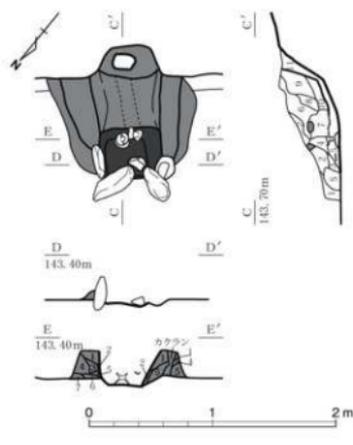




H-7号住居址



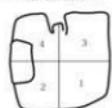
H-7号住居址カマド



遺構名	層系	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物				備考	
								As-C	Hr-FA	As-B	炭		
HTA A'	1	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	2	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	褐色土ブロック微層
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	×	×	△	△	×	×	×	×	
	4	黒 (10YR2/1)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	
	5	黒 (10YR2/1)	○	○	×	×	×	×	△	×	×	×	
	6	黒 (10YR2/1)	○	○	×	×	×	×	△	×	×	×	
	7	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	×	×	△	○	○	×	×	×	
	8	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	○	○	○	○	○	△	×	×	×	×	人為埋没土
	9	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	
	10	黒褐色 (10YR3/1)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	
	11	黒褐色 (10YR3/1)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	
	12	黒 (10YR2/1)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	
	13	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	
HTB B'	1	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	△	△	×	×	×	×	×	
	2	黒褐色 (10YR3/2)	△	○	×	△	×	×	×	×	×	×	
HTC C'	3	黒褐色 (10YR3/2)	×	△	×	×	×	×	×	×	×	×	
	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	×	×	○	×	×	×	×	×	
	2	暗褐色 (10YR3/3)	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	黄褐色粘質土少量
	3	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	△	×	×	×	×	×	×	
	4	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	黄褐色粘質土多量
	5	黒褐色 (10YR3/1)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	黄褐色粘質土少量
	6	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	黄褐色粘質土多量
	7	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	
	8	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	第7層とはほぼ同じ
	9	黄褐色 (10YR7/8)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	
	10	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	鏡土はブロック状
HTE E'	11	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	黄褐色粘質土粒多量
	1	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	黄褐色粘質土多量
	2	橙 (7.5Y6/8)	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	被熱層
	3	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	△	△	×	×	×	△	×	×	×	×	△
	4	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	被熱層著
	5	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	
	6	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	
7	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	×	△	×	×	×		

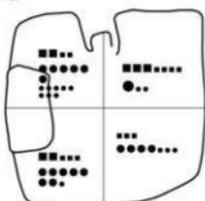
第14図 H-7号住居址実測図(1)

H 7 遺物重量分布

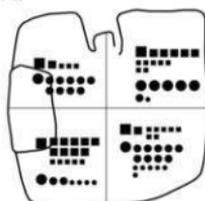


- カマド ●●●●●●●●●●  
 ●●●●●●●●●●  
 D1 ●●●●●●●●●●  
 ●●●●●●●●●●  
 P1 ●●●●●●●●●●  
 ●●●●●●●●●●  
 H7位一住 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

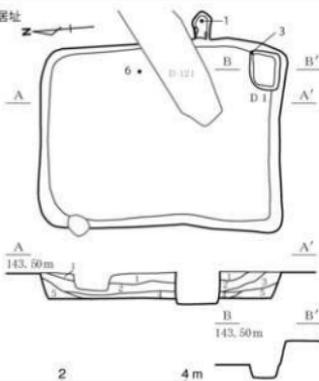
上層



下層



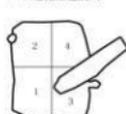
H-8号住居址



H-8号住居址カマド

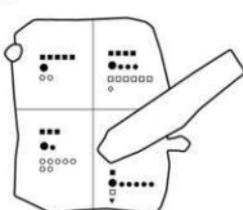


H 8 遺物重量分布

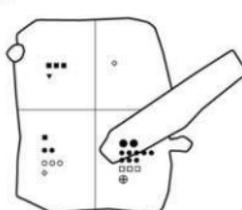


- カマド ●●●●●●●●●●  
 ●●●●●●●●●●  
 D1 ●●●●●●●●●●  
 ●●●●●●●●●●  
 H8位一住 ●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●  
 ●●●●●●●●●●

上層

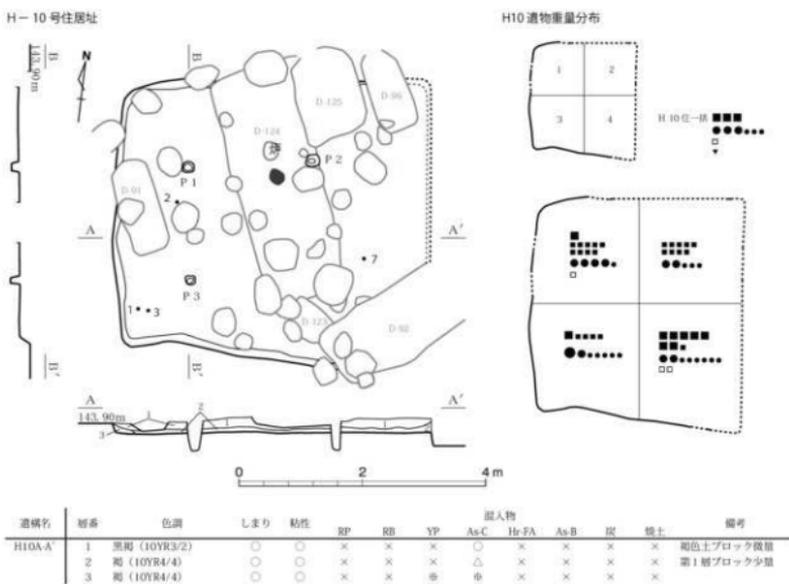
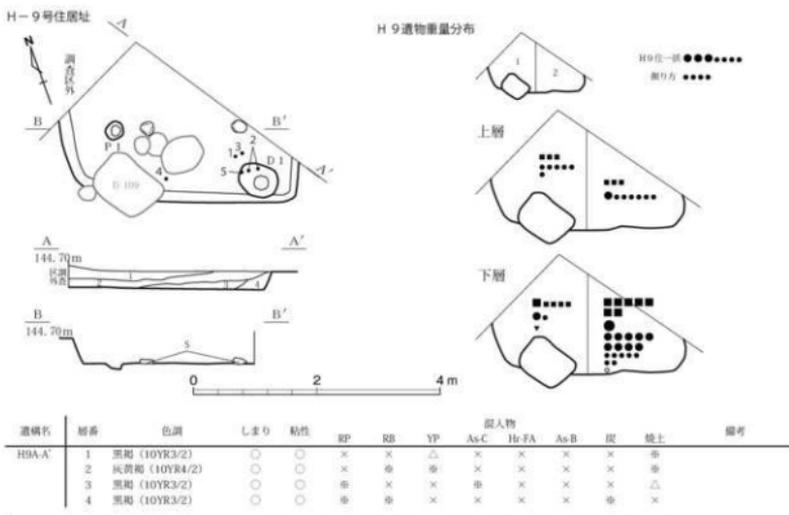


下層



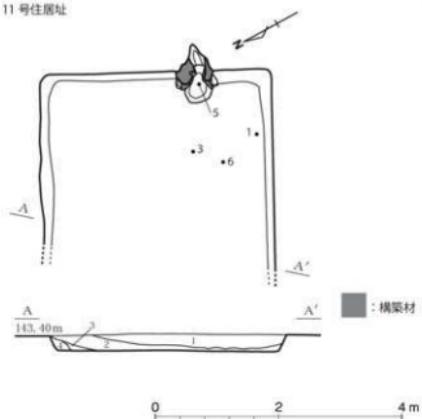
遺構名	順番	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物			珪	埴土	備考
								As-C	Hr-FA	As-B			
HBA-A'	1	黒周 (10YR3/2)	○	○	×	×	△	○	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	2	黒周 (10YR3/2)	○	○	×	×	△	○	×	×	×	×	
	3	黒周 (10YR3/2)	○	○	×	×	△	○	×	×	×	×	
	4	黒 (10YR4/4)	○	○	×	×	△	△	×	×	×	×	
HBC-C'	5	黒 (10YR4/4)	○	○	×	×	△	△	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	1	黒周 (10YR3/2)	○	○	×	×	△	×	×	×	×	×	褐色土ブロック微量
	2	黒 (10YR4/4)	○	○	×	×	△	×	×	×	×	△	褐色土ブロック微量
	3	灰黄周 (10YR4/2)	○	○	△	×	×	⊕	×	×	×	⊕	

第 15 図 H-7号住居址実測図(2)・H-8号住居址実測図

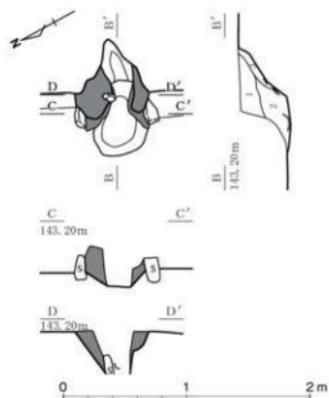


第 16 図 H-9・10号住居址実測図

H-11号住居址

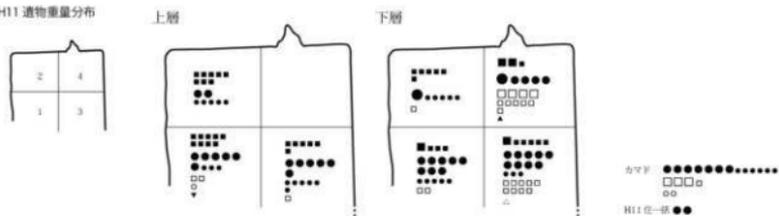


H-11号住居址カマド



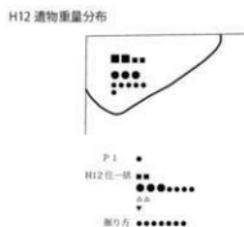
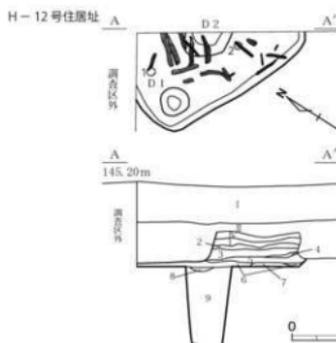
遺構名	層番	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物				備考	
								As-C	Hr-FA	As-B	炭	焼土	
H11A'	1	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	●	×	×	●	○	×	×	●	●
	2	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	△	△	●	○	×	×	△	●	●
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	○	●	●	○	×	×	×	●	●
	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	○	△	●	●	×	×	×	●	●
H11B'	1	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	○	×	×	●	●	●
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	●	×	●	○	×	×	●	●	●
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	●	●	●	○	×	×	●	△	●

H11 遺物重量分布



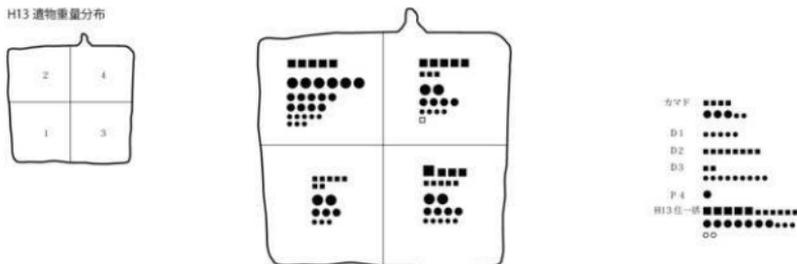
遺構名	層番	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物				備考	
								As-C	Hr-FA	As-B	炭	焼土	
H12A'	1	黒褐色 (10YR3/2)	○	△	×	×	●	●	●	×	●	●	●
	2	黒褐色 (10YR3/2)	○	△	×	×	●	●	△	×	△	●	●
	3	暗褐色 (10YR3/3)	○	△	×	×	●	●	●	×	△	●	●
	4	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	●	●	×	●	●	●
	5	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	●	×	●	●	●	×	△	×	●
	6	黒褐色 (10YR3/1)	△	△	×	×	●	●	●	×	△	●	●
	7	黒褐色 (10YR3/1)	△	△	●	●	●	●	●	×	○	●	●
	8	黒褐色 (10YR3/1)	○	△	●	△	×	●	△	×	△	×	●
	9	黒褐色 (10YR3/1)	△	△	●	○	○	●	△	×	×	×	●

第17図 H-11号住居址実測図・H-12号住居址実測図(1)

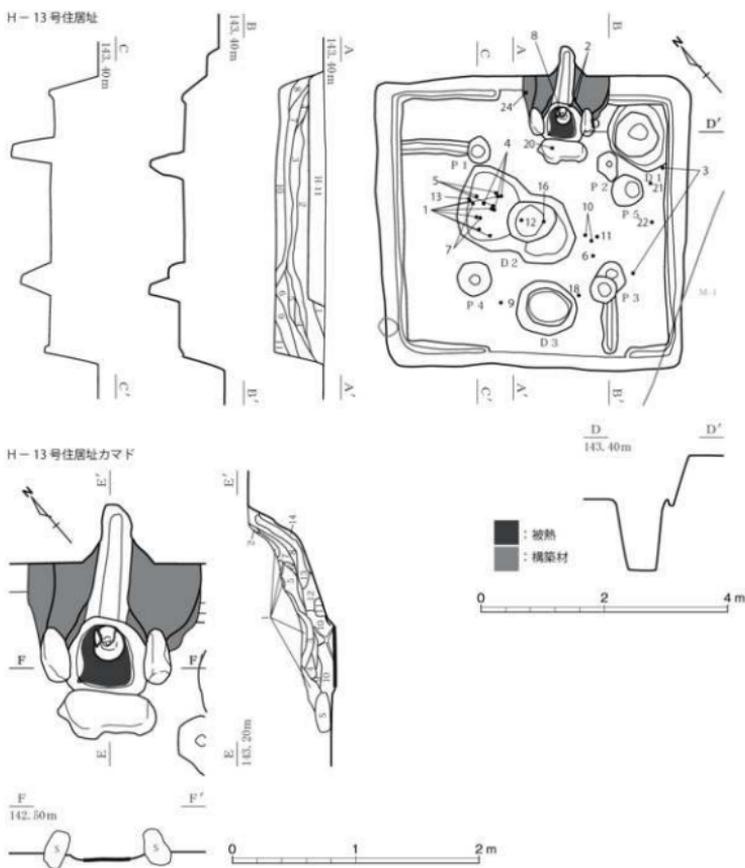


遺構名	層番	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	As-C	混人物 Hr-FA	As-B	炭	焼土	備考		
H13A'	1	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	●	●	○	×	×	×	●	●		
	2	黒褐色 (10YR3/1)	○	○	●	△	●	○	×	×	△	●	●		
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	●	●	●	○	×	×	△	△	●		
	4	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	○	×	○	○	×	×		
	5	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	●	×	●	○	×	×	×	△	△		
	6	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	○	●	●	○	×	×	×	△	△		
	7	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	●	△	●	○	×	×	×	×	×		
	8	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	○	○	△	●	△	△	×	×	×	×	×		
	9	暗褐色 (10YR3/3)	○	○	●	×	●	○	×	×	×	×	●		
	10	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	○	△	△	●	●	×	×	×	△	△		
	11	にぶい黄褐色 (10YR6/4)	○	○	△	△	●	●	×	×	×	×	●		
H13E'	1	黒褐色 (10YR3/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	●	黄褐色粘質土少量	
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	△	△	×	×	×	×	×	×	△	△	●	黄褐色粘質土少量	
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	△	×	×	×	×	×	×	×	△	●	黄褐色粘質土少量	
	4	灰黄褐色土 (10YR4/2)	○	△	×	×	×	×	×	×	×	●	○	黄褐色粘質土多量	
	5	黄褐色 (10YR8/8)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	○	粘質土	
	6	黄褐色 (10YR8/8)	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	粘質土
	7	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	●	×	×	×	×	×	●	黄褐色粘質土少量	
	8	黄褐色 (10YR8/8)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	△	○	粘質土	
	9	灰黄褐色 (10YR4/2)	○	△	×	×	×	×	×	×	×	△	○	黄褐色粘質土多量	
	10	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	●	×	●	●	×	×	×	●	○	●	
	11	黄褐色 (10YR8/8)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	黄褐色粘質土ブロック
	12	黒褐色 (10YR3/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	●
	13	灰黄褐色 (10YR4/2)	△	△	×	×	●	×	×	×	×	×	○	●	黒褐色土多量
	14	黄褐色 (10YR8/8)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○

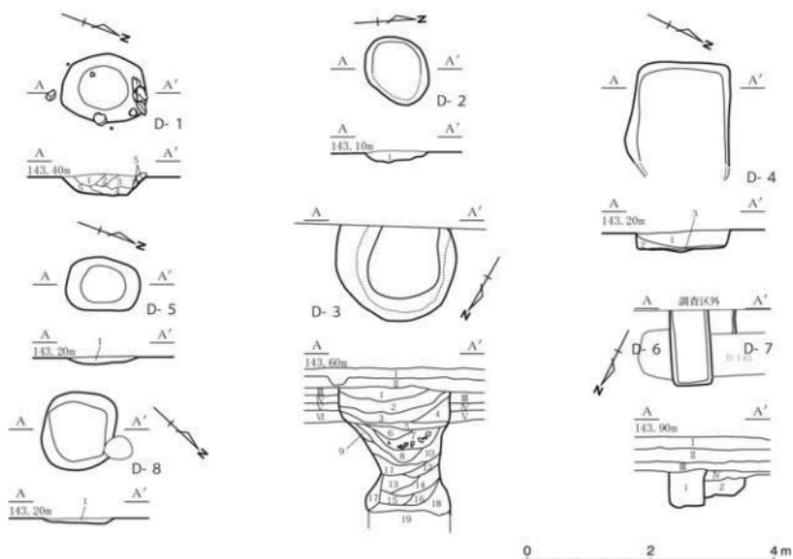
H13 遺物重量分布



第 18 図 H-12号住居址実測図(2)・H-13号住居址実測図(1)

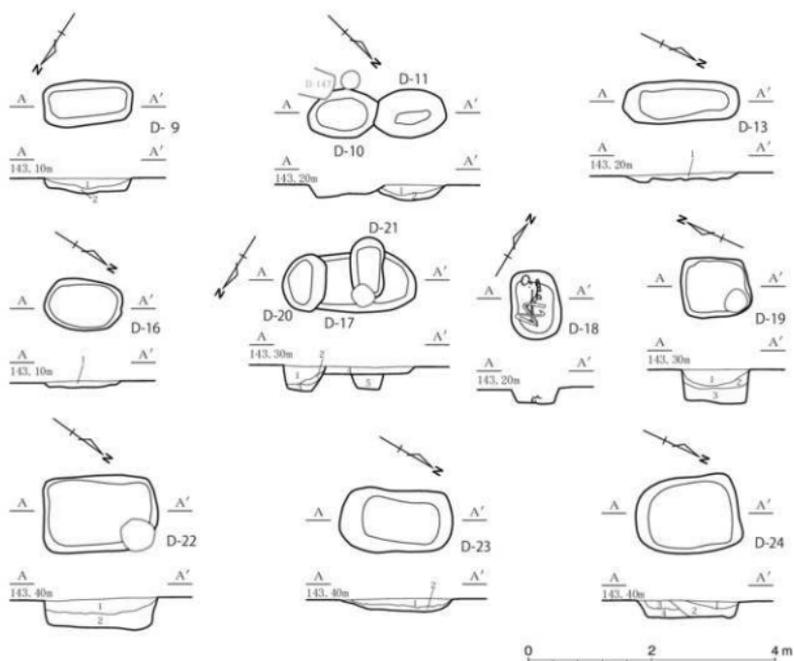


第19图 H-13号住居址实测图(2)



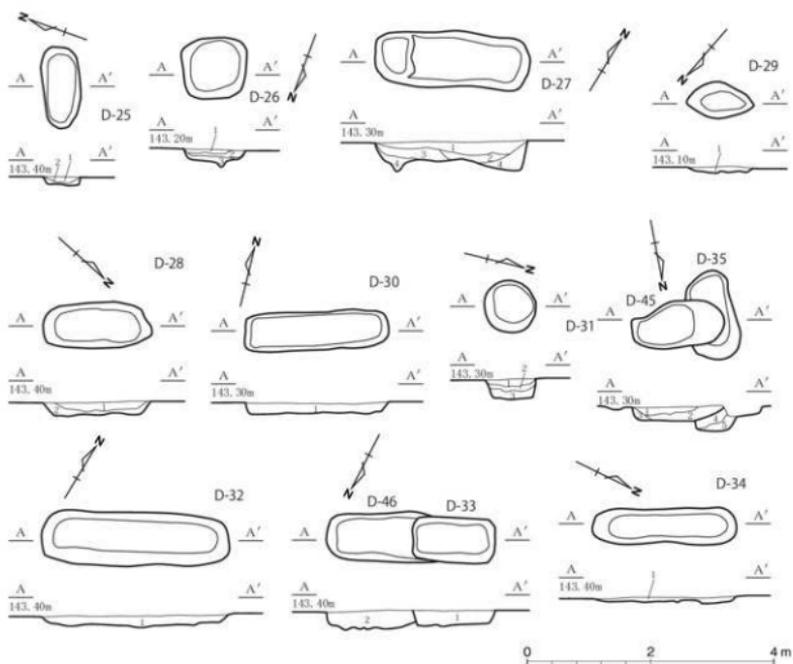
遺構名	層系	色調	Lまわり	粘性	炭人物										備考
					RP	RB	YP	As-C	Hr-FA	As-B	炭	焼土			
D-1	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	△	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	
	2	黒褐色 (10YR3/2)	△	○	△	×	△	×	×	○	×	×	×	×	
	3	黒褐色 (10YR3/2)	△	○	△	×	△	×	×	○	×	×	×	×	
	4	黒 (10YR2/1)	△	△	×	△	△	×	×	○	×	×	×	×	
	5	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	×	△	×	×	○	×	×	×	×	
D-2	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
D-3	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	3	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	4	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	△	×	×	○	×	×	×	×	小礫多量
	5	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	△	×	×	○	×	×	×	×	礫多量
	6	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	△	×	×	○	×	×	×	×	
	7	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
	8	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
	9	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	Ⅲ層IV層ブロック少量
	10	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	Ⅲ層IV層ブロック少量
	11	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	Ⅲ層IV層ブロック多量
	12	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
	13	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×	
	14	黒褐色 (10YR3/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	
	15	黒褐色 (10YR3/1)	△	△	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×	
	16	黒褐色 (10YR3/1)	△	△	×	○	○	×	×	○	×	×	×	×	
	17	黄褐色 (10YR7/6)	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	崩落土
	18	黄褐色 (10YR7/8)	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	崩落土
	19	黒褐色 (10YR3/1)	△	△	×	×	△	×	×	○	×	×	×	×	
D-4	1	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	×	△	×	×	○	×	×	×	×	As-A・礫を含む
	2	黒褐色 (10YR2/2)	△	△	×	×	△	×	×	○	×	×	×	×	As-A多量
D-5	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A多量
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A多量
D-6・7	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A多量
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A多量
D-8	1	暗灰 (10YR4/1)	×	△	×	×	×	△	×	○	×	×	×	×	

第20図 D-1～8号土坑実測図



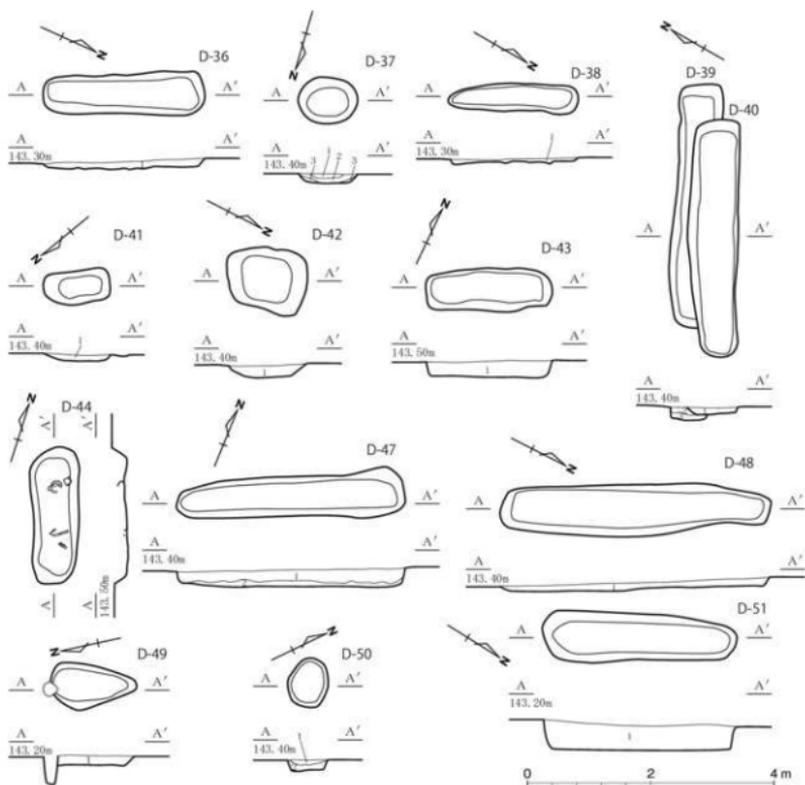
遺構名	層番	色調	しまり	粘性	SP	RB	YP	混入物			炭	植土	備考
								As-C	Hr-FA	As-B			
D-9	1	黒褐色 (10YR3/2)	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
	2	黒褐色 (10YR3/2)	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
D-10・11	1	黒褐色 (10YR3/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	褐色土ブロック少量
D-13	1	暗灰 (10YR4/1)	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A 多量
D-16	1	暗灰 (10YR4/1)	○	△	×	×	×	×	×	○	×	×	
D-17・20・21	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	褐色土ブロック多量
	2	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	
D-19	3	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	4	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	
	5	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	△	×	×	×	×	
	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	
	2	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	
D-22	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	△	△	×	○	×	×	×	○	×	×	
	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A 多量
D-23	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A 多量
	1	暗褐色 (7.5YR3/3)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	黒色土ブロック多量
D-24	2	暗褐色 (7.5YR3/4)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A 多量
	1	暗灰 (10YR4/1)	○	△	×	×	×	×	×	△	×	×	褐色土ブロック微量
	2	暗 (7.5YR4/3)	○	△	×	×	×	×	×	△	×	×	黒色土ブロック微量
	3	暗褐色 (7.5YR3/3)	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	褐色土ブロック多量
D-24	3	暗褐色 (7.5YR3/3)	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	褐色土ブロック多量
	4	暗褐色 (10YR3/3)	△	△	×	×	×	×	×	△	×	×	黒色土ブロック微量 褐色土ブロック少量

第21図 D-9～11・13・16～24号土坑実測図



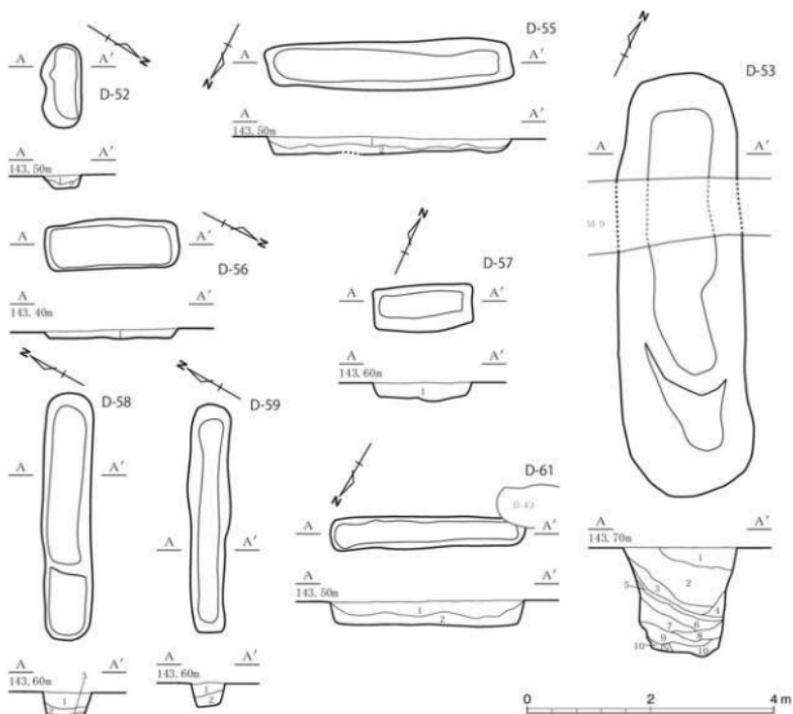
遺構名	層番	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	As-C	H-Fs	As-B	炭	埴土	備考
D-25	1	灰褐色 (7.5YR4/2)	○	△	×	×	●	△	×	△	×	×	As-A 多量
	2	暗褐色 (10YR3/3)	△	○	×	×	●	●	×	△	×	×	As-A 多量
D-26	1	灰褐色 (7.5YR4/2)	○	△	×	×	●	△	×	△	×	×	褐色土ブロック散在
	2	灰褐色 (7.5YR4/2)	○	△	×	×	●	△	×	△	×	×	褐色土ブロック散在
	3	暗褐色 (10YR3/3)	○	○	×	×	●	●	×	×	×	×	
D-27	1	灰褐色 (7.5YR4/2)	○	○	×	×	●	△	×	●	×	×	褐色土ブロック少量
	2	灰褐色 (7.5YR4/2)	○	○	×	×	●	△	×	●	×	×	褐色土ブロック少量
	3	灰褐色 (7.5YR4/2)	○	○	×	×	●	●	×	●	×	×	褐色土ブロック散在
	4	暗褐色 (10YR3/3)	○	○	×	×	●	×	×	×	×	×	褐色土ブロック散在
D-28	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	○	×	×	○	×	×	As-A 多量
D-29	1	暗灰 (10YR4/1)	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	
D-30	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
D-31	1	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	褐色土ブロック散在
	2	黒 (10YR2/1)	○	○	×	×	×	△	×	×	×	×	褐色土ブロック少量
	3	黒褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	△	×	×	×	×	褐色土ブロック散在
D-32	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
	2	灰黄褐色 (10YR4/2)	△	△	○	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
D-33・46	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
D-34	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
	2	黒 (10YR2/1)	○	○	×	×	×	△	×	×	×	×	褐色土ブロック散在
D-35・45	1	暗褐色 (10YR3/3)	○	○	×	×	×	△	×	×	×	×	褐色土ブロック散在
	2	黒 (10YR2/1)	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	褐色土ブロック散在
	3	暗褐色 (10YR3/3)	○	○	×	×	×	△	×	×	×	×	褐色土ブロック散在
	4	暗褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	△	×	×	×	×	褐色土ブロック散在
	5	暗褐色 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	△	×	×	×	×	褐色土ブロック散在

第 22 図 D-25 ~ 35・45・46 号土坑実測図



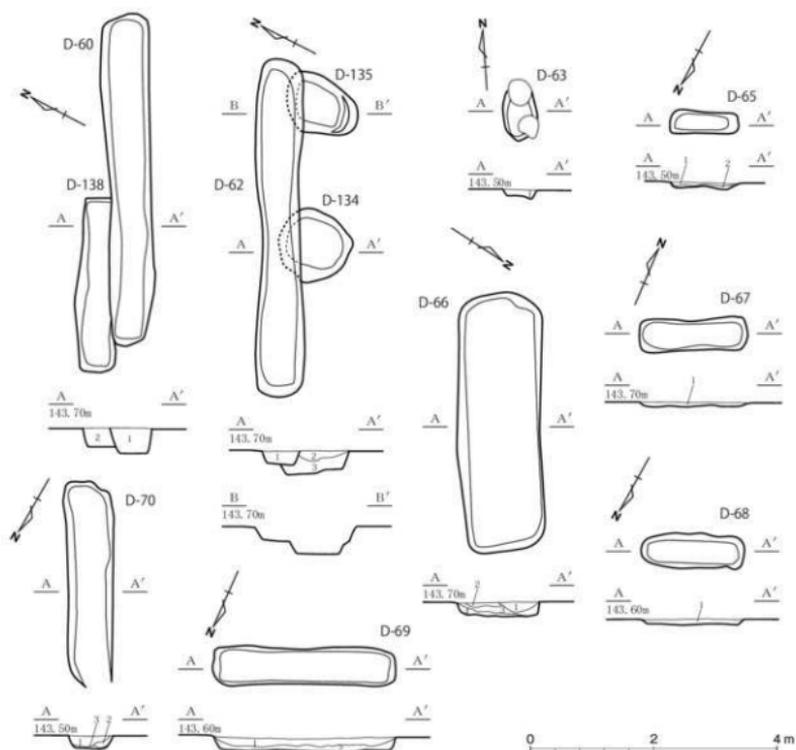
遺構名	層番	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物				炭	焼土	備考
								As-C	Hr-FA	As-B				
D-36	1	相灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
D-37	1	黒珉 (10YR3/1)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	2	黒珉 (10YR3/1)	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	
	3	暗珉 (10YR3/3)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	第2層ブロック少量
D-38	1	相灰 (10YR4/1)	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	As-A 多量
	2	黒珉 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	As-A 多量
D-39・40	1	相灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	As-A 多量
	3	黒珉 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A 多量
D-41	1	黒珉 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	1	相灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
D-42	1	相灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A 多量
D-43	1	相灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	As-A 多量
D-47	1	相灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A 多量
	2	黒珉 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	As-A 多量
D-48	1	相灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	As-A 多量
D-49	1	暗珉 (10YR3/3)	○	○	×	×	×	△	×	△	×	×	×	
D-50	1	黒珉 (7.5YR3/2)	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	黒色土ブロック少量
	2	黒珉 (7.5YR3/2)	○	△	×	×	×	△	×	×	×	×	×	黒色土ブロック少量
D-51	1	黒珉 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A 多量

第 23 図 D - 36 ~ 43・47 ~ 51 号土坑実測図



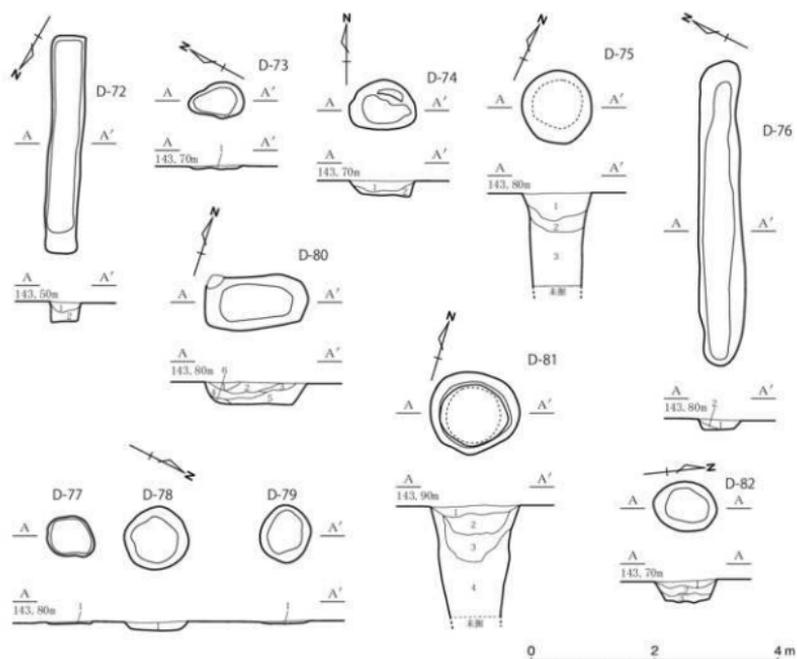
遺構名	順番	色調	しまり	粘性	SP	RB	YP	図人物			灰	焼土	備考
								As-C	Hr-FA	As-B			
D-52	1	灰黄褐 (10YR4/2)	○	○	x	x	x	x	x	○	x	x	黒褐色土ブロック残片
	2	黒褐 (10YR3/2)	△	○	x	x	垂	x	x	△	x	x	
D-53	1	暗褐 (10YR3/3)	△	△	○	○	○	x	x	○	x	x	黒褐色土ブロック少量
	2	黒褐 (10YR3/2)	△	△	○	○	○	x	x	○	x	x	
	3	灰黄褐 (10YR4/2)	△	△	○	○	x	x	x	○	x	x	
	4	灰黄褐 (10YR4/2)	△	△	○	○	垂	x	x	○	x	x	
	5	黒褐 (10YR3/2)	△	△	△	x	△	x	x	○	x	x	
	6	灰黄褐 (10YR4/2)	△	△	○	○	○	x	x	○	x	x	
	7	暗褐 (10YR3/3)	△	△	○	○	○	x	x	○	x	x	
	8	黒褐 (10YR3/2)	○	○	x	△	垂	x	x	○	x	x	
	9	暗灰 (10YR4/1)	○	○	x	x	垂	x	x	○	x	x	
	10	暗灰 (10YR4/1)	○	○	x	△	△	x	x	○	x	x	
D-55	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	x	x	x	x	x	x	x	x	As-A多量
	2	黒褐 (10YR3/2)	△	△	x	x	x	x	x	○	x	x	As-A多量
D-56	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	x	x	x	x	x	○	x	x	As-A多量
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	x	x	x	x	x	○	x	x	As-A多量
D-57	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	x	x	x	x	x	○	x	x	As-A多量
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	x	x	x	x	x	○	x	x	As-A多量
D-58	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	x	x	x	x	x	○	x	x	As-A多量
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	x	x	x	x	x	○	x	x	As-A多量
D-59	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	x	x	x	x	x	○	x	x	As-A多量
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	x	x	x	x	x	○	x	x	As-A多量
D-61	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	x	x	x	x	x	○	垂	x	As-A多量
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	垂	x	x	x	x	○	x	x	As-A多量

第24図 D-52・53・55～59・61号土坑実測図



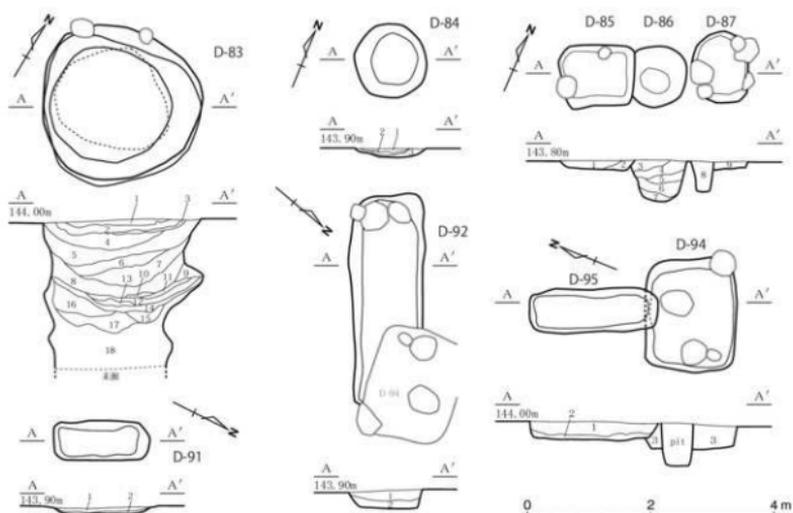
遺構名	層系	色調	Lまわり	粘性	RP	RB	YP	泥入物			炭	粘土	備考
								As-C	Hr-FA	As-B			
D-60・138	1	潮灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A多量
	2	潮灰 (10YR4/1)	△	△	△	×	×	×	×	○	×	×	As-A微量
D-62・134	1	潮灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A多量
	2	灰黄褐 (10YR4/2)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A微量
	3	灰黄褐 (10YR4/2)	△	△	△	×	×	×	×	×	×	×	As-A微量
D-63	1	潮灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A大量
	2	黒褐 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A微量
D-65	1	潮灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A大量
	2	黒褐 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A大量
	3	潮灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A大量
	4	黒褐 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A大量
D-66	1	潮灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A大量
	2	黒褐 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A大量
D-67	1	潮灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A多量
	2	黒褐 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A多量
D-68	1	潮灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A多量
	2	黒褐 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A多量
D-69	1	潮灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A多量
	2	黒褐 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A多量
	3	潮灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A多量
D-70	1	暗褐 (7.5YR3/3)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A大量
	2	暗褐 (7.5YR3/3)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A大量
	3	暗褐 (10YR3/3)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A大量

第25図 D-60・62・63・65～70・134・135・138号土坑実測図



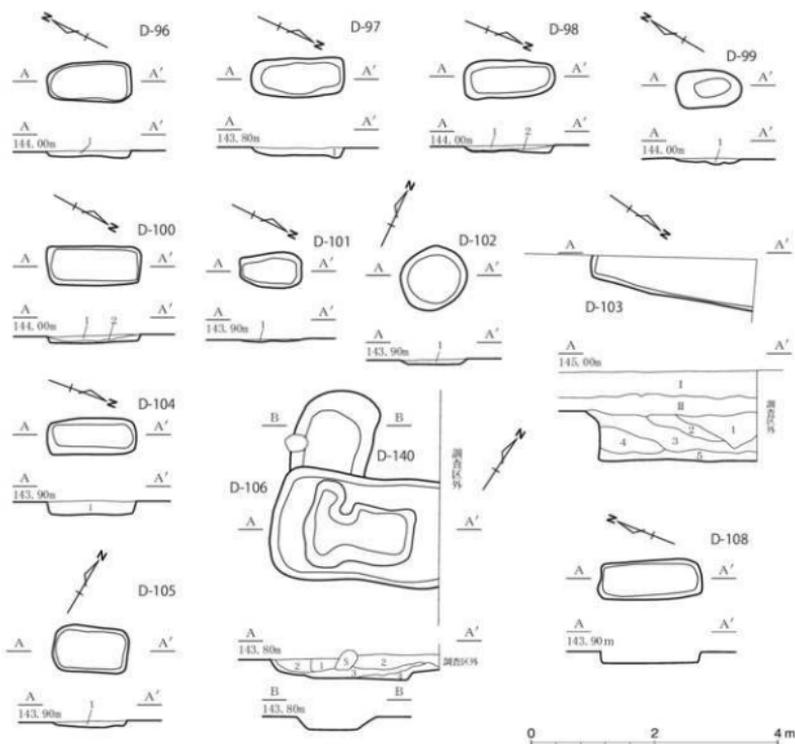
遺構名	層番	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	炭化物				炭	焼土	備考
								As-C	Hr-Fa	As-B	炭			
D-72	1	暗褐色 (7.5YR3/3)	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A 大量
	2	暗褐色 (7.5YR3/3)	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A 大量
D-73	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	
D-74	1	暗褐色 (10YR3/4)	○	○	×	×	×	×	×	×	△	×	×	
	2	暗褐色 (10YR3/3)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
D-75	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
	2	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	○	×	×	×	×	○	×	×	
	3	灰黄褐色 (10YR4/2)	△	○	○	○	×	×	×	×	×	×	×	
D-76	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 大量
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A 大量
D-77	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	
D-78	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	
D-79	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	
D-80	1	暗 (10YR4/4)	○	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	白色粘質土微層
	2	暗 (10YR4/4)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	白色粘質土多層
	3	暗灰 (10YR4/1)	○	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	白色粘質土少層
	4	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	△	×	×	×	○	×	×	白色粘質土少層
	5	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	×	△	×	×	×	×	×	×	白色粘質土少層
	6	黒褐色 (10YR3/2)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	砂がツミナ枝層積する
D-81	1	灰黄褐色 (10YR4/2)	△	△	×	△	×	×	×	×	×	×	×	
	2	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	第1層ブロック多層
	3	黒褐色 (10YR3/2)	△	△	×	○	×	×	×	×	×	×	×	小礫少層
	4	暗 (10YR4/4)	△	△	×	×	△	×	×	×	○	×	×	
D-82	1	暗褐色 (10YR3/3)	△	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	褐色土ブロック微層
	2	暗褐色 (10YR3/4)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	褐色土ブロック微層
	3	暗褐色 (10YR3/4)	△	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	褐色土ブロック少層

第26図 D-72～82号土坑実測図



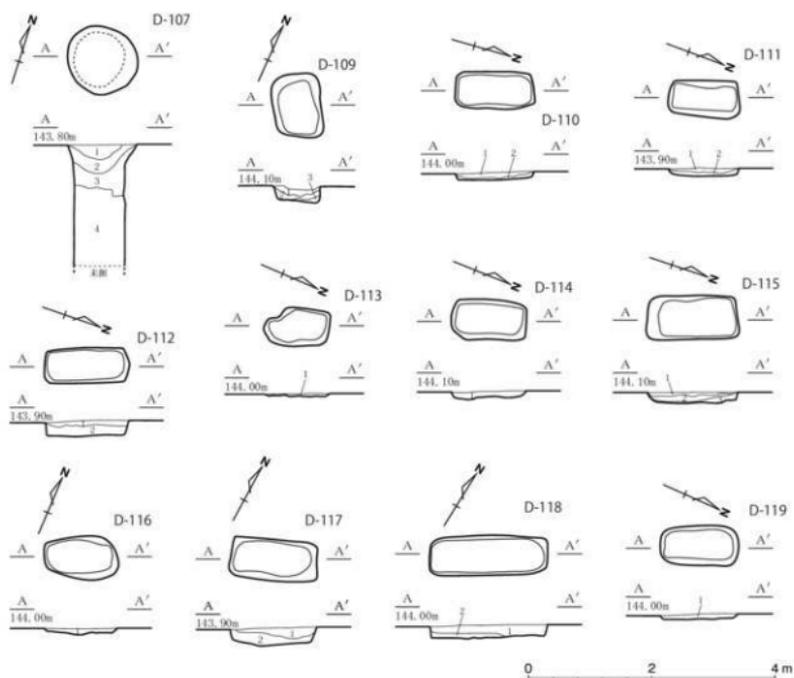
遺構名	順番	色調	しまり	粘性	混入物										備考		
					RP	RB	YP	As-C	Hr-FA	As-B	炭	硝土					
D-83	1	黒褐 (10YR3/2)	○	○	×	△	×	×	×	×	○	×	×	×	×		
	2	黄褐 (10YR5/8)	○	○	×	×	○	×	×	×	○	×	×	×	×		
	3	黒褐 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×		
	4	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×		
	5	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	△	×	×	○	×	×	×	×	×		
	6	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×		小礫燻炭
	7	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	△	×	×	○	×	×	×	×	×		小礫燻炭
	8	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×		白色粘質土燻炭
	9	褐灰 (10YR4/1)	×	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×		
	10	褐 (10YR4/4)	○	○	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×		
	11	黒褐 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×		黒色土ブロック多量
	12	褐灰 (10YR4/1)	○	○	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×		
	13	褐灰 (10YR4/1)	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×		
	14	褐灰 (10YR4/1)	○	○	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×	×		
	15	暗褐 (10YR3/3)	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×		
	16	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
	17	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×	×		白色粘質土燻炭
	18	褐灰 (10YR4/1)	△	△	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
D-84	1	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×			
	2	黒褐 (10YR3/2)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		第1層ブロック少量	
	3	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		第2層ブロック燻炭	
D-85 ~ 87	1	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×			
	2	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
	3	灰黄褐 (10YR4/2)	△	△	×	×	△	×	×	○	×	×	×	×			
	4	黒褐 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		黒褐色土ブロック少量	
	5	黒褐 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
	6	灰黄褐 (10YR4/2)	○	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
	7	黒褐 (10YR3/2)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
	8	灰黄褐 (10YR4/2)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			
D-91	1	褐灰 (10YR4/1)	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		As-A 少量	
	2	褐灰 (10YR4/1)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		As-A 微量	
D-92	1	褐灰 (10YR4/1)	○	△	×	×	×	×	×	△	×	×	×	×		As-A 大量	
	2	褐灰 (10YR4/1)	○	△	△	×	×	×	×	△	×	×	×	×		As-A 大量	
D-94・95	1	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×		As-A 多量	
	2	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×		As-A 多量	
	3	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	×	×		As-A 多量	

第 27 図 D-83 ~ 87・91・92・94・95 号土坑実測図



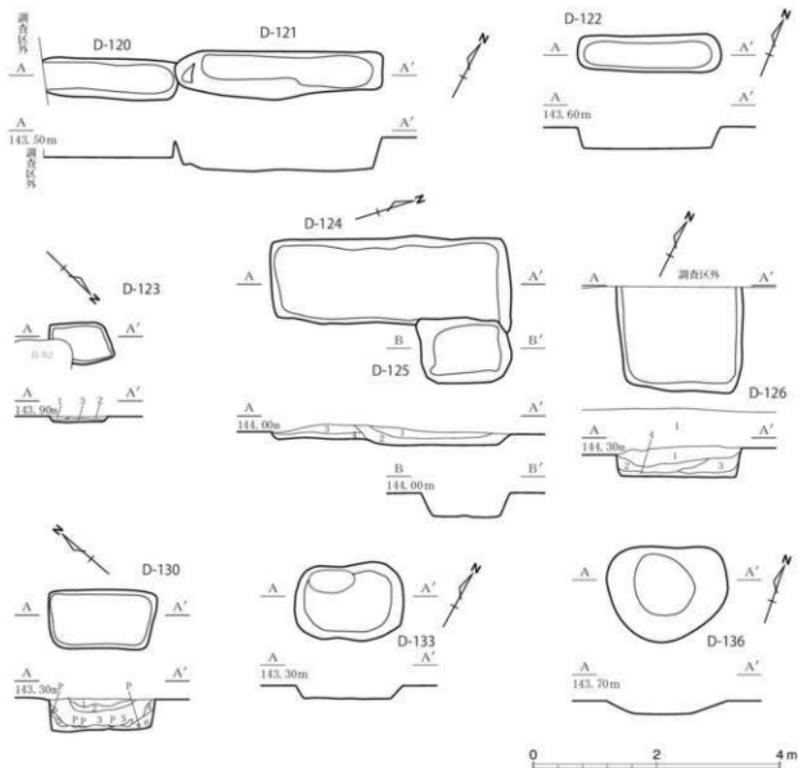
遺構名	部番	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物					備考
								As-C	Hr-FA	As-B	炭	埴土	
D-96	1	灰黄層 (10YR4/2)	○	△	×	△	●	×	×	●	●	×	As-A 大量
D-97	1	褐灰 (10YR4/1)	○	△	×	×	●	×	×	△	×	×	As-A 大量
D-98	1	褐灰 (10YR4/1)	○	△	×	●	●	×	×	●	×	×	As-A 少量
	2	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	●	×	×	●	×	×	As-A 微量
D-99	1	褐灰 (10YR4/1)	○	△	×	×	●	×	×	△	×	×	褐色土プロット少量
	2	暗褐 (10YR3/3)	○	△	×	×	●	×	×	△	×	×	As-A 大量
D-100	1	暗褐 (10YR3/4)	△	△	×	×	●	×	×	△	×	×	As-A 大量
	2	暗褐 (10YR3/4)	△	△	○	×	●	×	×	●	×	×	As-A 大量
D-101	1	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A 大量
	2	暗褐 (10YR3/3)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	
D-102	1	暗褐 (10YR3/3)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A 多量
	2	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
	3	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
	4	褐灰 (10YR4/1)	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量 砂粒少量
	5	褐灰 (10YR4/1)	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
D-104	1	褐灰 (10YR4/1)	△	△	△	●	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
	2	灰黄層 (10YR4/2)	○	○	○	○	×	×	×	○	×	×	
D-105	3	灰黄層 (10YR4/2)	○	○	△	○	×	×	×	×	×	×	
	4	灰黄層 (10YR4/2)	○	○	×	●	×	×	×	△	×	×	

第 28 图 D-96 ~ 106・108・140 号土坑实测图



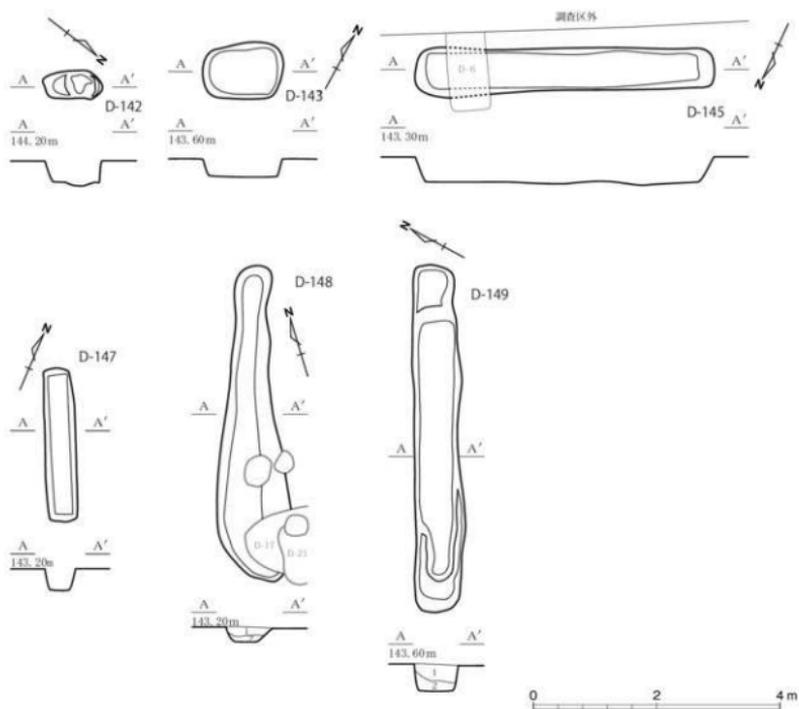
遺構名	層番	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物				瓦	埴土	備考
								As-C	HrFA	As-B				
D-107	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	○	△	×	微砂質
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	△	×	×	×	○	×	×	
	3	灰黄褐 (10YR4/2)	△	△	○	×	×	×	×	×	○	×	×	
	4	灰黄褐 (10YR4/2)	○	○	○	●	○	●	×	×	×	×	×	
D-109	1	黒色 (10YR3/2)	△	○	○	○	×	×	×	×	△	×	×	As-A 多量
	2	黒色 (10YR3/2)	△	○	△	△	×	×	×	×	△	×	×	As-A 多量
	3	黒色 (10YR3/2)	△	△	○	●	×	×	×	×	△	×	×	As-A 多量
D-110	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
	2	暗褐 (10YR3/3)	△	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	As-A 多量
D-111	1	暗灰 (10YR4/1)	○	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	As-A 多量
	2	暗灰 (10YR4/1)	○	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	As-A 多量
D-112	1	暗灰 (10YR4/1)	○	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	As-A 多量
	2	暗褐 (10YR3/3)	△	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	As-A 多量
D-113	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	As-A 少量
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	As-A 多量
D-114	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	As-A 多量
	2	暗褐 (10YR3/3)	△	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	As-A 微量
D-115	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	As-A 多量
	2	暗褐 (10YR3/3)	△	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	As-A 微量
	3	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	As-A 微量
D-116	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
D-117	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
D-118	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
	2	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量
D-119	1	暗灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 多量

第 29 图 D-107・109～119 号土坑实测图



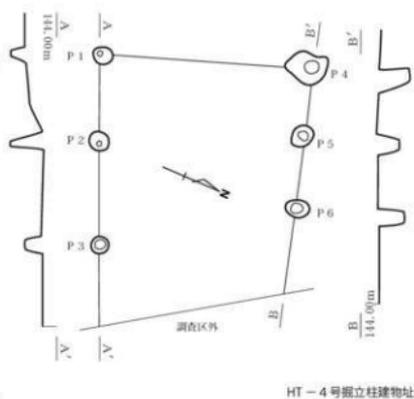
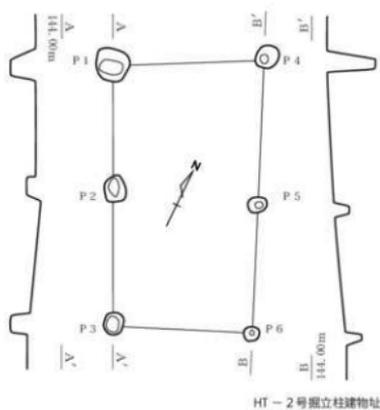
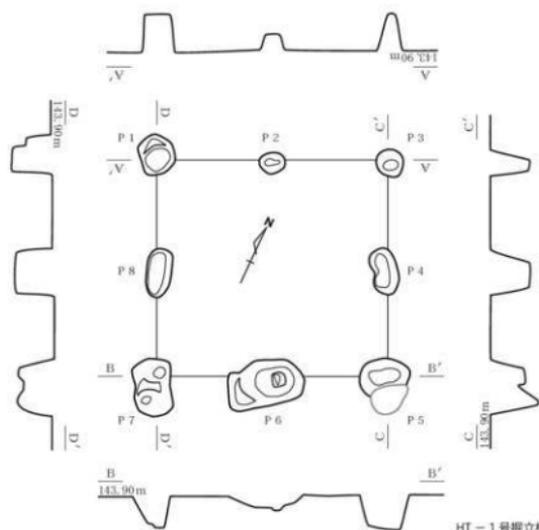
遺構名	層番	色調	しまり	粘性	RP	BB	YP	混入物				礎土	備考
								As-C	Hr-FA	As-B	炭		
D-123	1	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A大層
	2	褐灰 (10YR4/1)	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A大層
	3	暗褐色 (10YR3/3)	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A大層
D-124・125	1	褐灰 (10YR4/1)	△	△	○	×	×	×	×	×	×	×	As-A大層
	2	灰黄褐色 (10YR4/1)	△	△	○	○	×	×	×	×	×	×	As-A大層
	3	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A大層
	4	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	×	×	×	As-A大層
D-126	1	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A大層
	2	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A大層
	3	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A大層
D-130	4	灰黄褐色 (10YR4/2)	△	△	○	×	×	×	×	○	×	×	As-A大層
	1	褐灰 (7.5YR4/1)	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	As-A大層
	2	褐灰 (7.5YR4/1)	△	×	×	×	×	×	×	△	×	×	As-A大層
	3	にぶい・黄褐色 (10YR4/3)	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	Hr-FAの二次埋積
	4	黒褐色 (7.5YR3/1)	△	△	×	×	×	×	×	△	×	×	As-A大層
	5	黒褐色 (7.5YR3/1)	△	△	×	×	×	×	×	△	×	×	As-A大層
	6	黒褐色 (7.5YR3/1)	△	△	×	×	×	×	△	×	×	As-A大層	

第30図 D-120～126・130・133・136号土坑実測図

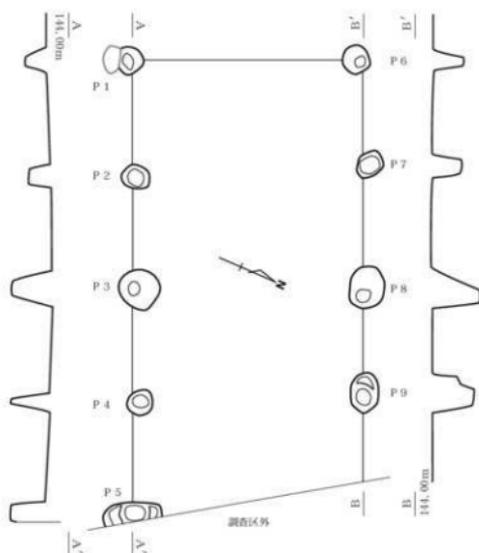


遺構名	層系	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物					備考
								As-C	Hr-FA	As-B	炭	焼土	
D-148	1	褐灰 (10YR4/1)	×	×	×	×	●	×	×	○	×	×	As-A 大量
	2	黒褐色 (10YR3/2)	×	×	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 大量
D-149	1	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 大量
	2	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	As-A 大量

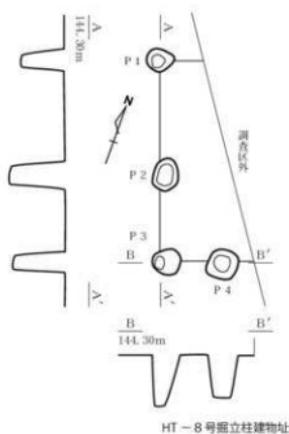
第31図 D-142・143・145・147～149号土坑実測図



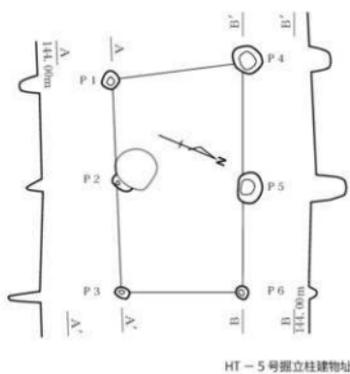
第32图 HT-1・2・4号据立柱建物址实测图



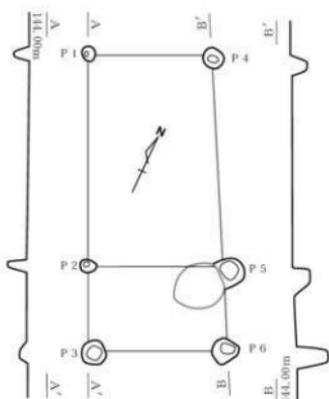
HT-3号掘立柱建物址



HT-8号掘立柱建物址



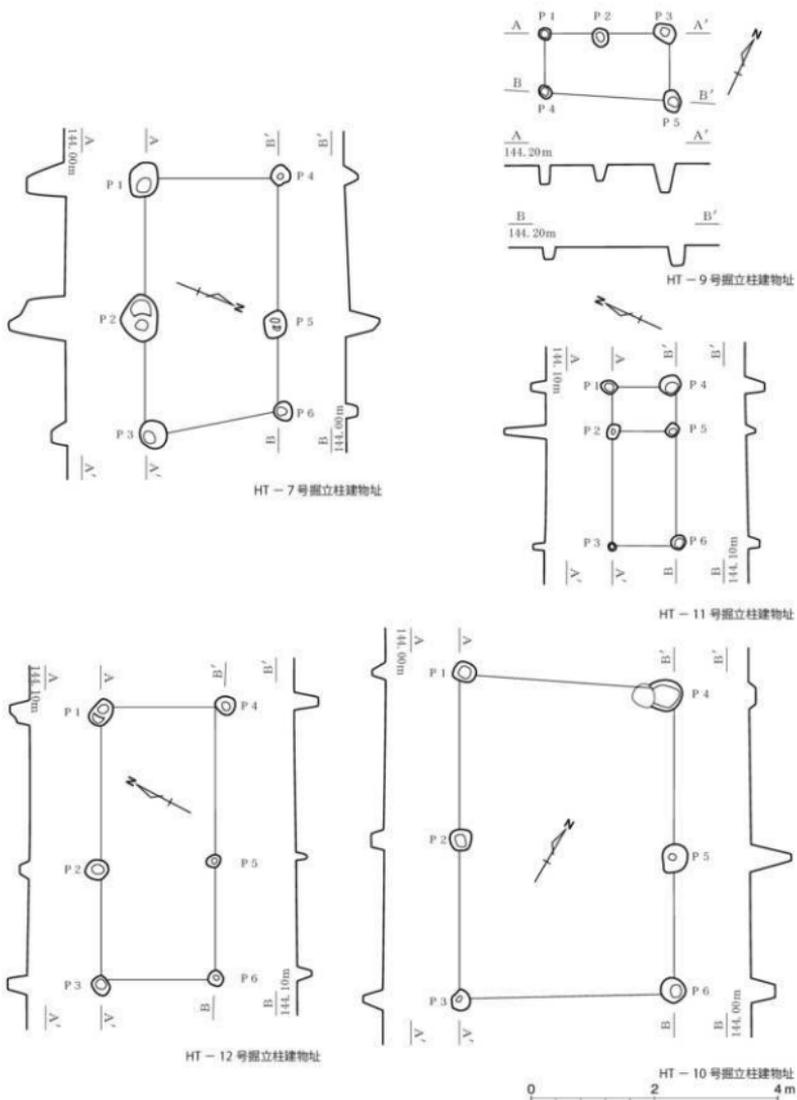
HT-5号掘立柱建物址



HT-6号掘立柱建物址

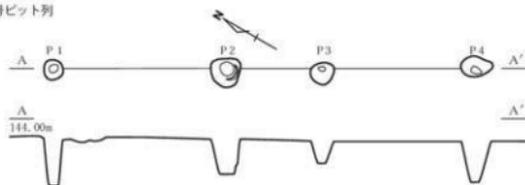


第33图 HT-3·5·6·8号掘立柱建物址实测图

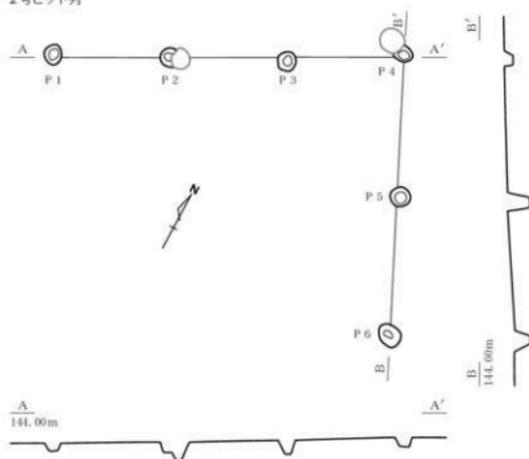


第34图 HT-7·9~11号掘立柱建物址实测图

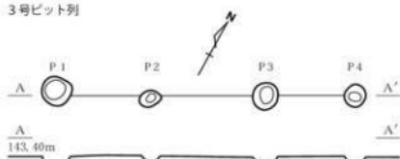
1号ビット列



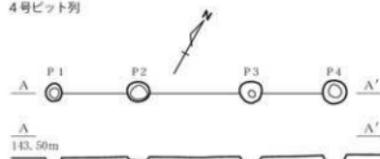
2号ビット列



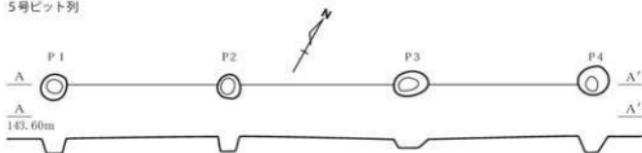
3号ビット列



4号ビット列

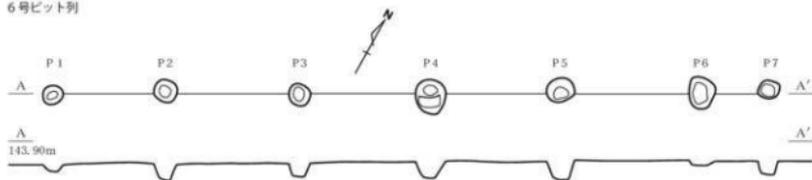


5号ビット列

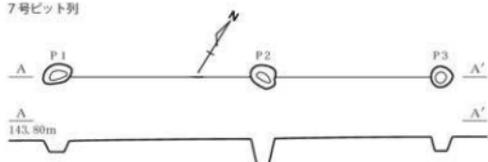


第35図 1～5号ビット列実測図

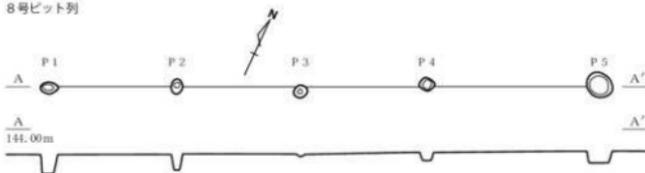
6号ビット列



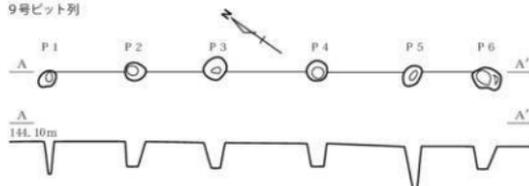
7号ビット列



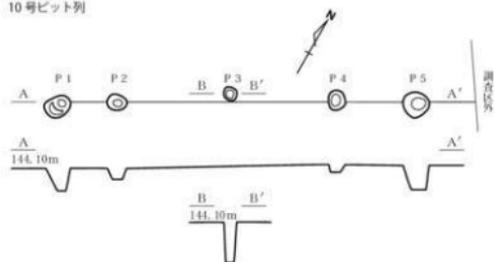
8号ビット列



9号ビット列

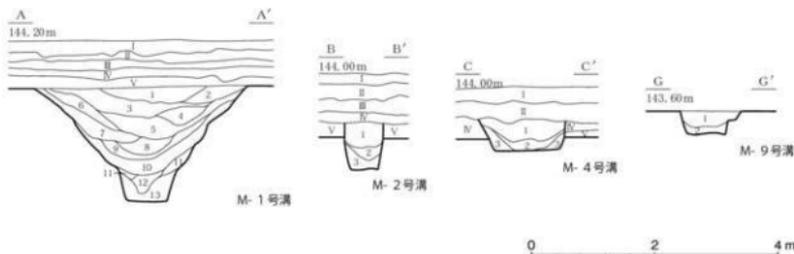
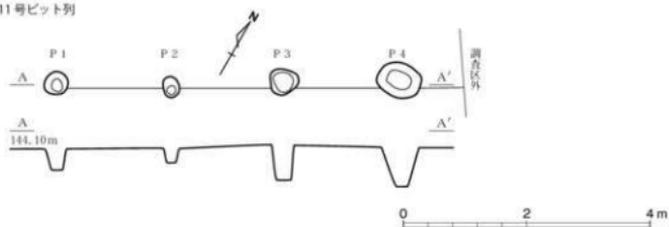


10号ビット列



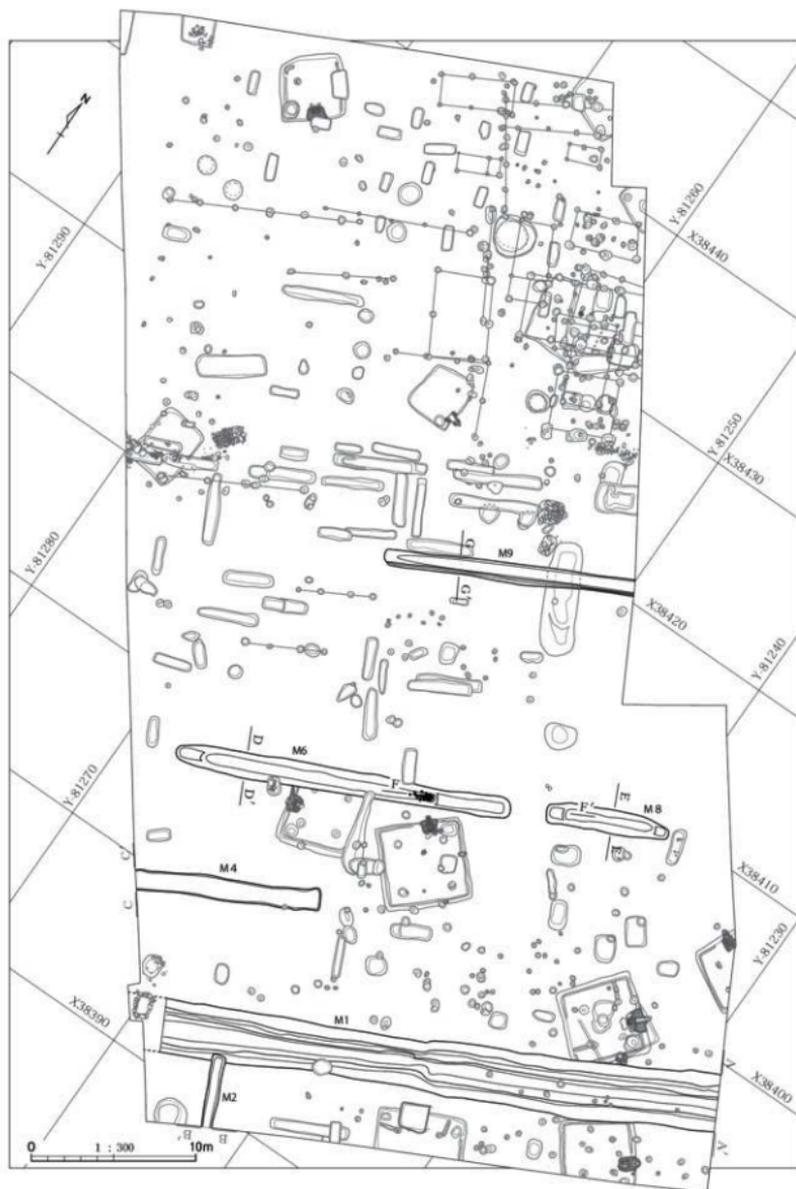
第36図 6～10号ビット列実測図

11号ピット列

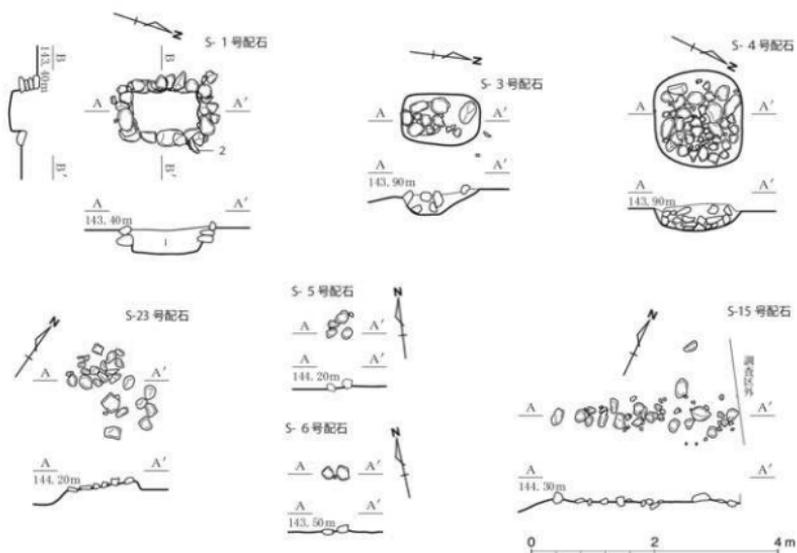
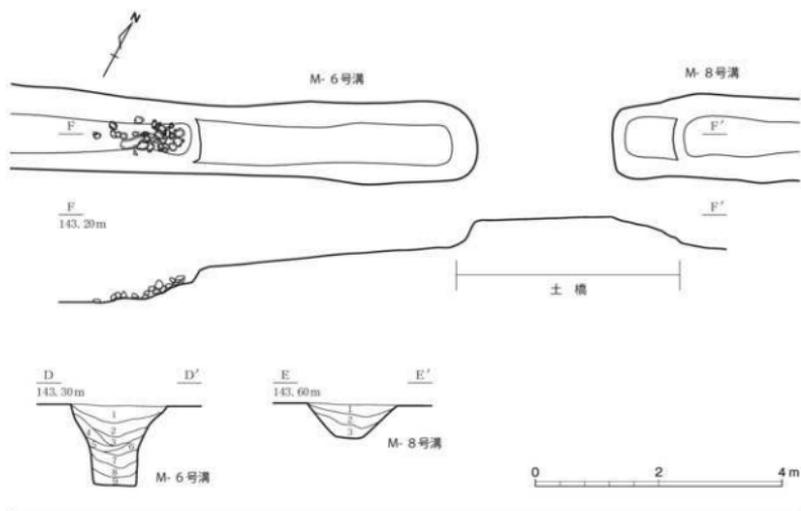


遺構名	層番	色調	しまり	粘性	RP	RB	YP	混入物			炭	焼土	備考
								As-C	Hr-FA	As-B			
M1A-A'	1	灰黄期 (10YR4/2)	△	△	△	△	●	○	×	○	×	×	
	2	灰黄期 (10YR4/2)	△	△	△	○	○	●	×	○	×	×	
	3	暗褐 (10YR3/3)	△	△	△	△	△	●	×	○	×	×	
	4	黒期 (10YR3/2)	△	△	×	●	△	×	×	○	×	×	
	5	灰黄期 (10YR4/2)	△	△	×	●	○	●	×	○	×	×	
	6	にふい-黄期 (10YR4/3)	△	○	×	×	△	●	×	○	×	×	黒褐色土ブロック少量
	7	灰黄期 (10YR4/2)	△	△	×	×	●	×	×	○	×	×	褐色土ブロック少量
	8	にふい-黄期 (10YR4/3)	△	○	×	●	○	●	×	○	×	×	褐色土ブロック少量
	9	黒期 (10YR3/2)	○	○	×	×	●	×	×	○	×	×	褐色土ブロック少量
	10	黒期 (10YR3/2)	△	△	×	×	△	●	×	○	×	×	
	11	褐 (10YR4/4)	△	○	×	×	○	×	×	○	×	×	
	12	黒期 (10YR3/2)	△	△	×	△	△	●	×	○	×	×	
	13	褐 (10YR4/4)	△	△	×	△	○	×	×	○	×	×	
M2B-B'	1	褐灰 (10YR4/1)	△	△	△	●	×	×	×	○	×	×	As-A多量
	2	灰黄期 (10YR4/2)	△	△	×	△	△	×	×	○	×	×	As-A少量
	3	灰黄期 (10YR4/2)	△	△	×	△	●	×	×	○	×	×	As-A少量
M4C-C'	1	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	
	2	黒 (10YR2/1)	×	△	×	×	×	×	×	○	×	×	
M6D-D'	1	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	
	2	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	
	3	黒期 (10YR3/2)	○	○	●	△	×	●	×	○	×	×	
	4	暗褐 (10YR3/3)	○	○	●	●	●	×	×	○	×	×	
	5	黒期 (10YR3/2)	△	○	×	×	●	×	×	○	×	×	
	6	黒 (10YR2/1)	△	△	×	×	×	●	×	○	×	×	
	7	黒 (10YR2/1)	△	△	△	●	●	×	×	○	×	×	
	8	黒 (10YR2/1)	△	△	△	△	△	●	×	○	×	×	
	9	黒期 (10YR3/2)	△	△	×	×	○	×	×	○	×	×	
M8E-E'	1	褐灰 (10YR4/1)	○	○	×	×	×	×	×	○	△	×	
	2	褐灰 (10YR4/1)	○	○	×	×	×	×	×	○	●	●	黒褐色土ブロック少量
	3	暗褐 (10YR3/3)	○	○	×	×	×	●	×	○	×	×	
M9G-G'	1	褐灰 (10YR4/1)	△	△	×	×	×	×	×	○	×	×	黒褐色土ブロック多量
	2	灰黄期 (10YR4/2)	△	○	×	×	×	×	×	△	×	×	

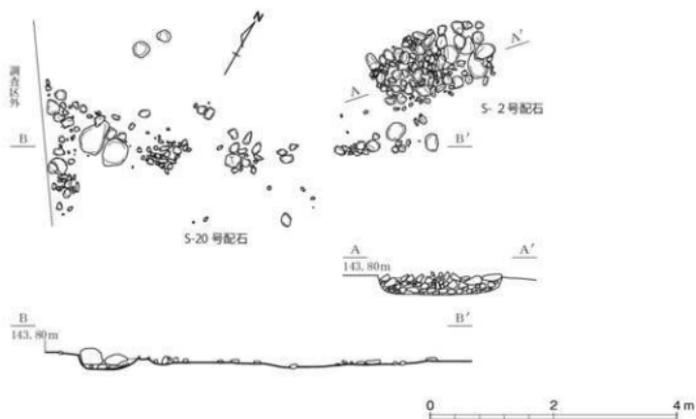
第37図 11号ピット列・M-1・2・4・9号溝実測図



第38图 清湫湖图



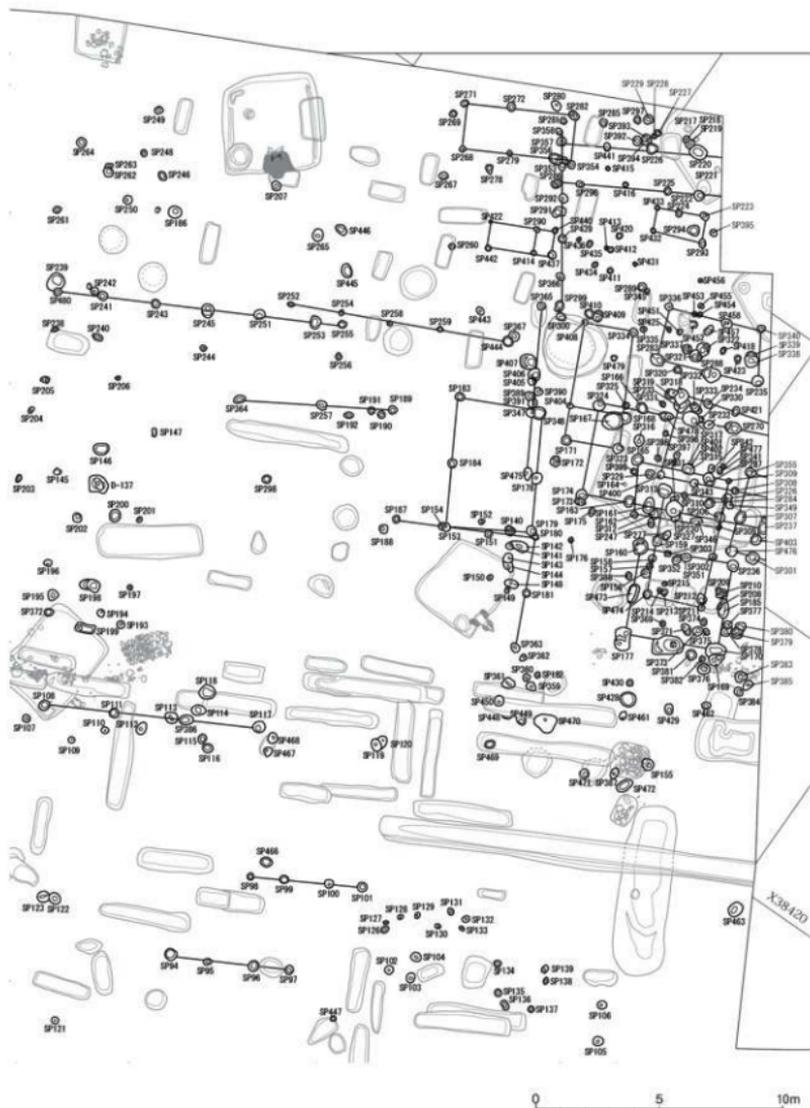
第39圖 M-6・8号溝・S-1・3~6・15・23号配石遺構実測図



第40図 S-2・20号配石遺構実測図・ピット位置図(1)



第41図 ビット位置図(2)



第 42 図 ビット位置図 (3)

竪穴住居址観察表（単位：m, < >：残存値）

住居名	規模 (m)			主軸方位	住居内土坑 貯蔵(区) 床下(基)		土柱穴 数	燃焼施設 炉 カマド		時期 (世紀)	備考 [その他付属施設]
	長軸	短軸	深さ								
H-1	4.64	<4.16>	0.80	N54°-E	16	2	4		北東	6 I	[原周溝] カマドは黄楡粘質土を構築材とし焚口天井部に凝灰岩の切石、袖部に河原石を使用。
H-2	4.40	(3.00)	0.80	N60°-W			2		北西	6 I	[原周溝] 消失住居址。炭化した部材が良好な状態で検出された。カマド構築材には全体的に顕著な凝結が認められる。焚口部は破損しているものの燃焼室は良好な状態で遺存していた。袖部に河原石を使用。
H-3	5.44	(2.64)	0.64	N63°-E	1・4		2			6 I	[原周溝・間仕切り溝] [原周溝] 消失住居址。炭化した部材が全体的に散在していた。カマドは黄楡粘質土を構築材とし焚口天井部・袖部ともに河原石を使用。
H-4	(4.72)	(4.40)	0.80	N75°-E	13		4		西	6 I	[原周溝] 消失住居址。炭化した部材が全体的に散在していた。カマドは黄楡粘質土を構築材とし焚口天井部・袖部ともに河原石を使用。
H-5	5.36	5.28	0.72	N43°-W	4		4		北西	6 I	[原周溝] カマドは黄楡粘質土を構築材とし焚口には天井部・袖部ともに河原石を使用。
H-6	3.52	3.04	0.36	N82°-W	4				東	9 IV	カマドは褐色粘質土を構築材とし袖部及び壁面に河原石を芯材として使用。
H-7	4.00	3.92	0.76	N39°-W	3		1		南西	5 IV	[原周溝] He-FAのレンズ状堆積物が認められた。カマドは黄楡粘質土を構築材とし焚口天井部・袖部には河原石を芯材として使用。
H-8	4.08	3.20	0.44	N86°-W	3				東	10 III・IV	カマドは芯材として河原石を使用。
H-9	3.92	(2.64)	0.40		2		1			5 IV	
H-10	(5.20)	4.80	0.28	N7°-W			3	中央北寄り		5 III	遺構の重複による削平が著しい。
H-11	3.80	(3.28)	0.28	N61°-W					南西	9 III	H-13と重複し切り合い関係及び出土遺物から本遺構が新しい。カマドは白色粘質土を構築材とし芯材には河原石を使用。
H-12	2.96	<1.76>	0.48		1	1				5 III	消失住居址。炭化した部材が良好な状態で検出された。埋設土にHe-FAをブロック状に含む。
H-13	5.16	4.84	0.80	N41°-E	4	2	4		北東	6 I	[原周溝・間仕切り溝] H-11と重複し切り合い関係及び出土遺物から本遺構が古い。カマドは黄楡粘質土を構築材とし焚口天井部・袖部には河原石を使用。

土坑観察表 (1)

遺構名	平面形態	規模			断面形態	遺物	時期	備考
		長軸	短軸	深さ				
D-1	楕円形	1.40	1.20	0.32	逆台形	陶器(鏝)	1108～1783年	灰土遺構の可能性が考慮される。
D-2	楕円形	1.12	1.04	0.16	皿形		1108～1783年	
D-3	楕円形	1.96	<1.60>	<2.12>	不整形	飲食関連(内貝類)、磁器(皿)、石製品(穀物臼・碁石・板碑)貯蔵関連遺物(椀形煎治津)、瓦葺	1108～1783年	井戸址。
D-4	楕丸長方形	1.72	<1.68>	0.40	箱形		1783年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-5	楕丸長方形	1.20	0.92	0.12	皿形		1108～1783年	
D-6	長方形	<1.20>	0.72	0.64	箱形		1783年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-7	—	<0.48>	<0.40>	0.32	<逆台形>		1783年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-8	楕丸方形	1.28	1.24	0.08	逆台形		1108～1783年	復旧溝の可能性が考えられる。
D-9	楕丸長方形	1.48	0.80	0.24	箱形		1783年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-10	楕円形	<1.16>	0.88	0.20	逆台形		1108～1783年	
D-11	楕円形	1.20	0.80	0.28	皿形	かわらけ		
D-12	欠座							
D-13	楕丸長方形	1.92	0.72	0.16	不整形		1783年以降	復旧溝の可能性が考えられる。
D-14	欠座							
D-15	欠座							
D-16	楕円形	1.28	0.84	0.12	逆台形		1108～1783年	
D-17	楕円形	<1.60>	1.00	0.12	<逆台形>		1108～1783年	

第1表 遺構観察表(1)

土坑観察表(2)

遺構名	平面形態	規模 (m)			断面形態	遺物	時期	備考
		長軸	短軸	深さ				
D-18	楕円形	1.12	0.80	0.28	逆台形	かわらけ、六道瓦、人骨	16世紀	土曜墓、竊塚跡。
D-19	楕円方	1.16	1.00	0.56	箱形	瓦片	1108～1783年	
D-20	楕円形	0.96	0.72	0.40	逆台形	かわらけ	1108～1783年	
D-21	楕円形	1.04	0.56	0.36	逆台形		1108～1783年	
D-22	楕丸長方形	1.92	1.28	0.52	箱形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-23	楕丸長方形	1.88	1.08	0.20	箱形	かわらけ	1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-24	楕丸長方形	1.76	1.36	0.28	逆台形		1108～1783年	
D-25	楕円形	1.36	0.64	0.12	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-26	楕丸方	1.08	1.00	0.32	逆台形		1108～1783年	
D-27	楕丸長方形	2.56	1.00	0.48	不整形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-28	不整形	1.80	0.80	0.24	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-29	不整形	1.12	0.60	0.12	不整形		1108～1783年	
D-30	楕丸長方形	2.36	0.72	0.24	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-31	円形	0.88	0.84	0.32	逆台形		古墳～平安時代	
D-32	楕丸長方形	3.08	0.96	0.24	逆台形	陶器	1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-33	楕丸長方形	1.36	0.76	0.28	逆台形	陶器、瓦(丸瓦)	1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-34	楕円形	2.36	0.64	0.16	不整形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-35	不整形	1.48	0.92	0.40	逆台形		古墳～平安時代	
D-36	不整形	2.64	0.72	0.16	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-37	楕円形	1.80	0.76	0.16	箱形		古墳～平安時代	
D-38	不整形	2.0	0.52	0.12	不整形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-39	楕丸長方形	4.00	0.92	0.24	箱形	簡易副遺物(鉄鏟)	1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-40	楕丸長方形	3.88	0.84	0.16	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-41	楕丸長方形	1.12	0.64	0.12	箱形		古墳～平安時代	
D-42	不整形	1.36	1.12	0.24	箱形		1108～1783年	
D-43	楕丸長方形	2.08	0.72	0.28	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-44	楕円形	2.24	0.84	0.28	逆台形	人骨	1108～1783年	土曜墓、竊塚跡と想定される。
D-45	不整形	1.52	0.80	0.24	逆台形		古墳～平安時代	
D-46	楕丸長方形	(1.84)	0.84	0.32	不整形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-47	楕円形	3.76	0.88	0.32	逆台形	青磁(碗)	1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-48	楕丸長方形	4.40	0.84	0.24	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-49	不整形	1.44	0.80	0.16	逆台形		1108～1783年	
D-50	楕円形	0.84	0.68	0.16	逆台形		1108～1783年	
D-51	楕円形	3.20	0.88	0.52	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-52	不整形	1.36	0.68	0.24	逆台形	陶器(碗)	1108～1783年	
D-53	楕丸長方形	6.88	2.24	1.80	逆台形	かわらけ、陶器(壺・甕鉢)、土製品(竹製土製品)、鉄製品(小刀)、露石関連遺物(榎車組立、鉄釘)	15世紀後半	海境寺関連遺構に伴う遺構の可能性が考慮される。
D-54	欠番							
D-55	楕丸長方形	4.08	0.88	0.32	逆台形	陶器(碗)	1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-56	楕丸長方形	2.20	0.88	0.20	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-57	楕丸長方形	1.68	0.80	0.32	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-58	楕丸長方形	4.04	0.88	0.44	逆台形	軟質陶器(内耳罎)	1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-59	楕丸長方形	3.76	0.72	0.40	逆台形	かわらけ	1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-60	楕丸長方形	5.44	0.92	0.40	逆台形	陶器(皿)、鉄製品(棒状品)	1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-61	楕丸長方形	3.20	0.60	0.44	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-62	楕丸長方形	5.52	0.84	0.24	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-63	楕円形	(0.84)	0.60	0.16	逆台形		1108～1783年	
D-64	欠番							
D-65	楕丸長方形	1.12	0.40	0.12	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-66	楕丸長方形	4.28	1.48	0.24	逆台形	軟質陶器(内耳罎)	1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-67	楕丸長方形	1.76	0.60	0.08	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-68	楕円形	1.68	0.64	0.12	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-69	楕丸長方形	3.00	0.68	0.28	逆台形	陶器(碗)	1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-70	楕丸長方形	(3.36)	0.84	0.24	逆台形	陶器(壺)	1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-71	欠番							
D-72	楕丸長方形	3.56	0.68	0.32	箱形	軟質陶器(内耳罎)	1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-73	不整形	0.92	0.64	0.08	箱形		1108～1783年	
D-74	楕円形	1.12	0.84	0.24	逆台形		1108～1783年	
D-75	円形	1.28	1.16	(1.52)	逆台形	かわらけ、軟質陶器(内耳罎)	1108～1783年	井戸址。
D-76	楕円形	4.06	0.76	0.20	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-77	不整形	0.80	0.68	0.08	逆台形		1108～1783年	
D-78	円形	1.04	1.04	0.16	箱形		1108～1783年	
D-79	楕円形	0.96	0.84	0.08	箱形		1108～1783年	
D-80	楕丸長方形	1.68	0.96	0.36	逆台形		1108～1783年	
D-81	楕円形	1.48	1.36	(1.84)	—	かわらけ、石製品(砥石)鉄製品(釘)	1108～1783年	井戸址。
D-82	楕円形	1.48	1.36	(1.84)	—		1108～1783年	

第2表 遺構観察表(2)

土坑観察表(3)

遺蹟名	平面形態	規模			断面	遺物	時期	備考
		長軸	短軸	深さ				
D-83	楕円形	2.64	2.64	(2.44)	—	かわらけ、石製品(動物骨)	1108～1783年	井戸址。
D-84	円形	1.24	1.20	0.16	竪形		1108～1783年	
D-85	楕丸長方形	1.28	1.04	0.12	逆台形		1108～1783年	
D-86	(円形)	1.04	(0.88)	0.68	U字形		1108～1783年	
D-87	(楕円形)	1.20	0.92	0.12	(逆台形)		1108～1783年	
D-88								
D-89								
D-90	穴溝							
D-91	楕丸長方形	1.60	0.68	0.16	竪形	陶器(甕)	1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-92	(楕丸長方形)	3.44	1.28	0.32	逆台形	瓦片	1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-93	穴溝							
D-94	楕丸長方形	1.88	1.52	0.44	(逆台形)	かわらけ	1108～1783年	
D-95	楕丸長方形	2.08	0.76	0.32	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-96	楕丸長方形	1.40	0.68	0.12	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-97	楕丸長方形	1.52	0.68	0.16	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-98	楕丸長方形	1.52	0.64	0.12	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-99	楕円形	1.12	0.64	0.08	竪形		1108～1783年	
D-100	楕丸長方形	1.60	0.64	0.16	竪形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-101	楕丸長方形	1.04	0.60	0.08	竪形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-102	円形	1.12	1.12	0.12	逆台形		1108～1783年	
D-103	—	(2.68)	(0.88)	0.84	(竪形)		1108～1783年	部分状遺構の可能性が考慮される。
D-104	楕丸長方形	1.48	0.64	0.24	竪形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-105	楕丸長方形	1.28	0.80	0.12	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-106	(楕丸長方形)	(2.80)	2.00	0.40	(逆台形)	かわらけ、陶器(甕鉢)	1108～1783年	
D-107	円形	1.16	1.12	(1.96)	—	かわらけ	1108～1783年	井戸址。
D-108	楕丸長方形	1.68	0.68	0.20	逆台形	瓦葺	—	
D-109	楕丸長方形	1.08	0.88	0.24	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-110	楕丸長方形	1.36	0.64	0.16	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-111	楕丸長方形	1.20	0.64	0.16	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-112	楕丸長方形	1.44	0.60	0.24	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-113	不整形	1.12	0.64	0.08	竪形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-114	楕丸長方形	1.24	0.68	0.16	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-115	楕丸長方形	1.52	0.76	0.16	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-116	楕円形	1.24	0.72	0.08	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-117	楕丸長方形	1.44	0.76	0.32	逆台形	陶器(甕)	1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-118	楕丸長方形	1.92	0.72	0.24	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-119	楕丸長方形	1.32	0.72	0.08	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-120	楕丸長方形	(2.24)	0.72	0.32	逆台形		1783年以降	形状から復旧の可能性が考えられる。
D-121	楕丸長方形	3.36	0.80	0.56	逆台形		1783年以降	形状から復旧の可能性が考えられる。
D-122	楕丸長方形	2.32	0.64	0.36	逆台形		1783年以降	形状から復旧の可能性が考えられる。
D-123	楕丸長方形	1.08	0.68	0.08	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-124	楕丸長方形	3.92	1.60	0.36	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-125	不整形	1.52	1.08	0.40	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-126	楕丸長方形	2.08	(1.76)	0.48	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-127	穴溝							
D-128	穴溝							
D-129	穴溝							
D-130	楕丸長方形	1.76	1.00	0.56	竪形	土師器(甕)	6世紀初頭	H-Eの一次埋藏層が認められた。
D-131	穴溝							
D-132	穴溝							
D-133	楕丸長方形	1.76	1.28	0.24	逆台形	土製品(円筒土製品)	—	
D-134	円形	1.24	(0.88)	0.40	逆台形		1108～1783年	
D-135	不整形	1.04	(0.92)	0.44	逆台形		—	
D-136	不整形	2.00	1.60	0.24	逆台形		—	
D-137	穴溝							
D-138	楕丸長方形	2.84	0.72	0.32	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-139	穴溝							
D-140	(楕丸長方形)	1.48	(1.40)	0.20	逆台形		—	
D-141	穴溝							
D-142	不整形	0.96	0.48	0.40	逆台形		—	
D-143	楕丸長方形	1.32	0.96	0.32	逆台形		—	
D-144	穴溝							
D-145	楕丸長方形	4.88	0.84	0.48	逆台形		1783年以降	形状から復旧の可能性が考えられる。
D-146								
D-147	楕丸長方形	2.52	0.56	0.36	逆台形		1783年以降	形状から復旧の可能性が考えられる。
D-148	不整形	5.20	1.20	0.24	逆台形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。
D-149	楕丸長方形	5.68	0.88	0.48	竪形		1783年以降	復旧の可能性が考えられる。

第3表 遺構観察表(3)

掘立柱建物址・ピット列観察表

遺構名	平面形	規模 (m)			主軸方位	時期	備考
		長軸	短軸	柱間			
HT-1	側柱	3.76	3.44	1.96	N-65°-E	1108年以降	
HT-2	側柱	4.48	2.28	2.36	N-25°-W	1108年以降	
HT-3	側柱	7.36	3.76	2.16	N-65°-E	1108年以降	
HT-4	側柱	<4.44>	3.44	1.64	N-70°-E	1108年以降	
HT-5	側柱	3.76	1.92	2.04	N-67°-E	1108年以降	
HT-6	側柱	4.88	2.04	3.44	N-27°-W	1108年以降	
HT-7	側柱	4.12	2.16	2.32	N-67°-E	1108年以降	
HT-8	側柱	3.28	<1.52>	1.84	N-20°-W	1108年以降	
HT-9	側柱	2.08	1.16	1.04	N-66°-E	1108年以降	
HT-10	側柱	5.32	3.28	2.72	N-30°-W	1108年以降	
HT-11	側柱	2.60	1.00	1.84	N-64°-E	1108年以降	
HT-12	側柱	4.48	2.00	2.60	N-63°-E	1108年以降	
P列-1	南北方向	6.88	—	1.56~2.80	N-30°-W	1108年以降	
P列-2.1	東西方向	5.68	—	1.88~1.92	N-60°-E	1108年以降	
P列-2.2	南北方向	4.52	—	2.20~2.32	N-25°-W	1108年以降	
P列-3	東西方向	4.88	—	1.44~1.88	N-60°-E	1108年以降	
P列-4	東西方向	4.56	—	1.32~1.84	N-61°-E	1108年以降	
P列-5	東西方向	8.72	—	2.80~2.96	N-60°-E	1108年以降	
P列-6	東西方向	11.60	—	1.08~2.24	N-61°-E	1108年以降	
P列-7	東西方向	6.24	—	2.88~3.36	N-59°-E	1108年以降	
P列-8	東西方向	8.96	—	2.00~2.80	N-65°-E	1108年以降	
P列-9	南北方向	7.08	—	1.12~1.64	N-35°-W	1108年以降	
P列-10	東西方向	<5.80>	—	0.88~1.84	N-60°-E	1108年以降	
P列-11	東西方向	<5.56>	—	1.84~1.88	N-60°-E	1108年以降	

溝観察表

遺構名	規模 (m)			走行方向	遺物	時期	備考
	上端幅	下端幅	深さ				
M-1	2.80~3.65	0.30~1.10	1.88	N-64°-E	陶器(鉢・甕)、銅治関連遺物(埴形銅治淨)	1108~1783年	海竜寺関連施設に伴う区画溝と考えられる。
M-2	0.60~0.80	0.40~0.50	0.80	N-24°-W		1783年以降	溝として扱ったが復旧溝の可能性も考慮される。
M-3	欠番						
M-4	1.10~1.40	0.90~1.20	0.56	N-63°-E		1108~1783年	海竜寺関連施設に伴う区画溝と考えられる。
M-5	欠番						
M-6	0.50~1.60	0.25~0.75	1.32	N-65°-E	かわらけ、燈明皿、軟質陶器(内耳鍋)、瓦(平瓦)、石製品(石塔・穀物臼)、銅治関連遺物(輪狹口)	1108~1783年	海竜寺関連施設に伴う区画溝と考えられる。
M-7	欠番						
M-8	0.50~1.50	0.30~0.65	0.56	N-65°-E	かわらけ、軟質陶器(内耳鍋)	1108~1783年	海竜寺関連施設に伴う区画溝と考えられる。
M-9	0.50~1.20	0.10~0.70	0.40	N-63°-E		1108~1783年	海竜寺関連施設に伴う区画溝と考えられる。

配石遺構観察表

遺構名	平面形	規模		遺物	時期	備考
		長軸	短軸			
S-1	長方形	1.76	1.20	陶器(皿)、石製品(茶臼・穀物臼)	1108~1783年	土坑状の覆り込みが認められ、石積みが施される。
S-2	楕丸長方形	2.08	1.20	陶器(播鉢)、石製品(茶臼・穀物臼)	1108~1783年	平らに石が敷かれる。
S-3	不整形	1.20	0.64	銅治関連遺物(輪狹口)	1108~1783年	土坑状の覆り込みが認められる。
S-4	楕丸長方形	1.36	1.32	陶器(皿)	1108~1783年	土坑状の覆り込みが認められる。
S-5	不整形	0.48	0.44		1108~1783年	
S-6	不整形	0.44	0.24	陶器(播鉢)	1108~1783年	
S-15	円状	<3.04>	0.96		1108~1783年	
S-20	列状	<6.36>	1.76	陶器(鉢)・石製品(砥石・鞍碁)	1108~1783年	
S-23	不整形	1.52	1.52		1108~1783年	

第4表 遺構観察表(4)

ビット観察表(1)

遺構名	層位			備考	遺構名	層位			備考	遺構名	層位			備考
	1層	2層	3層			1層	2層	3層			1層	2層	3層	
SP01	0.36	0.33	0.32		SP50	0.49	0.40	0.23		SP99	0.38	0.34	0.07	4P列P2
SP02	0.46	0.36	0.27		SP51	0.37	0.36	0.48		SP100	0.38	0.37	0.21	4P列P3
SP03	0.41	0.36	0.35		SP52	0.32	0.28	—		SP101	0.41	0.40	0.16	4P列P4
SP04	0.50	0.37	0.36		SP53	0.41	0.37	—		SP102	0.38	0.37	0.22	
SP05	0.39	0.36	0.24		SP54	0.40	0.38	0.94		SP103	0.42	0.37	0.17	
SP06	0.28	0.26	0.22		SP55	0.34	0.28	0.15		SP104	0.44	0.39	0.09	
SP07	0.38	0.36	0.36		SP56	0.76	0.49	0.47		SP105	0.44	0.40	0.18	
SP08	0.47	0.42	0.36		SP57	0.79	0.51	0.30		SP106	0.40	0.36	0.24	
SP09	0.28	0.26	0.31		SP58	0.50	0.50	0.26		SP107	0.34	0.33	0.39	
SP10	0.41	0.30	0.10		SP59	0.29	0.27	0.18		SP108	0.45	0.44	0.23	5P列P1
SP11	0.20	0.18	0.33		SP60	0.56	0.55	0.29		SP109	0.28	0.28	0.34	
SP12	0.27	0.25	0.07		SP61	0.50	0.47	0.31		SP110	0.33	0.28	0.72	
SP13	0.36	0.33	0.13		SP62	0.39	0.34	0.21		SP111	0.41	0.39	0.24	5P列P2
SP14	0.33	0.31	0.08		SP63	0.56	0.41	0.30		SP112	0.52	0.43	0.33	
SP15	0.30	0.29	0.08		SP64	0.66	0.64	0.20		SP113	0.53	0.48	0.28	5P列P3
SP16	0.25	0.24	0.10		SP65	0.45	0.39	0.18		SP114	0.60	0.43	0.20	
SP17	0.37	0.36	0.22		SP66	0.26	0.22	0.30		SP115	0.41	0.35	0.24	
SP18	0.26	0.26	0.40		SP67	0.29	0.28	0.59		SP116	0.44	0.39	0.12	
SP19	0.26	0.25	0.19		SP68	0.61	0.52	0.25		SP117	0.52	0.48	0.26	5P列P4
SP20	0.21	0.19	0.20		SP69	0.31	0.30	0.28		SP118	0.68	0.59	0.15	
SP21	0.22	0.20	0.21		SP70	0.28	0.28	0.17		SP119	0.53	0.43	0.44	
SP22	0.44	0.37	0.22		SP71	0.32	0.32	0.35		SP120	0.58	0.45	0.32	
SP23	0.31	0.30	0.54		SP72	0.31	0.29	0.34		SP121	0.31	0.30	0.30	
SP24	0.33	0.32	0.38		SP73	0.43	0.42	0.19		SP122	0.49	0.49	0.08	
SP25	0.34	0.34	0.14		SP74	0.34	0.33	0.26		SP123	0.50	0.48	0.02	
SP26	0.31	0.31	0.12		SP75	0.32	0.25	0.29		SP124	0.34	0.33	—	
SP27	0.35	0.34	0.17		SP76	0.28	0.27	0.05		SP125	0.34	0.32	—	
SP28	0.44	0.41	0.29		SP77	0.29	0.27	0.26		SP126	0.34	0.29	0.11	
SP29	0.45	0.38	0.15		SP78	0.32	0.30	0.17		SP127	0.24	0.17	—	
SP30	0.42	0.38	0.20		SP79	0.21	0.20	0.05		SP128	0.25	0.21	0.24	
SP31	0.37	0.34	0.23		SP80	0.36	0.32	0.11		SP129	0.27	0.23	0.21	
SP32	0.47	0.45	0.07		SP81	0.32	0.30	0.21		SP130	0.25	0.21	0.25	
SP33	0.43	0.39	0.33		SP82	0.34	0.33	0.02		SP131	0.31	0.26	0.25	
SP34	0.51	0.44	0.23		SP83	0.38	0.37	0.33		SP132	0.33	0.29	0.38	
SP35	0.62	0.48	—		SP84	0.24	0.24	0.24		SP133	0.23	0.21	0.18	
SP36	0.52	0.47	0.26		SP85	0.34	0.28	0.39		SP134	0.33	0.28	0.12	
SP37	0.32	0.32	0.52		SP86	0.37	0.31	0.16		SP135	0.33	0.31	0.30	
SP38	0.80	0.62	0.22		SP87	0.28	0.26	0.47		SP136	0.41	0.35	0.14	
SP39	0.28	0.21	0.08		SP88	0.52	0.52	0.41		SP137	0.29	0.29	0.08	
SP40	0.32	0.26	0.06		SP89	0.23	0.22	0.11		SP138	0.31	0.22	0.13	
SP41	0.47	0.47	0.52		SP90	0.48	0.41	0.45		SP139	0.35	0.31	0.37	
SP42	0.35	0.35	0.22		SP91	0.48	0.42	0.22		SP140	0.45	0.42	0.17	
SP43	0.53	0.51	0.59		SP92	0.55	0.50	0.31		SP141	0.33	0.30	0.22	
SP44	0.53	0.50	0.42		SP93	0.48	0.45	0.34		SP142	0.76	0.48	0.46	
SP45	0.53	0.50	0.37		SP94	0.52	0.50	0.21	3P列P1	SP143	0.42	0.41	0.54	
SP46	0.54	0.47	0.38		SP95	0.38	0.29	0.12	3P列P2	SP144	0.47	0.41	0.18	
SP47	0.47	0.46	0.47		SP96	0.46	0.43	0.13	3P列P3	SP145	0.34	0.29	0.02	
SP48	0.41	0.40	0.65		SP97	0.39	0.37	0.13	3P列P4	SP146	0.65	0.49	0.09	
SP49	0.43	0.42	0.71		SP98	0.31	0.28	0.16	4P列P1	SP147	0.37	0.21	0.02	

第5表 遺構観察表(5)

ビット観察表(2)

道橋名	原形			備考	道橋名	原形			備考	道橋名	原形			備考
	比類	別類	深さ			比類	別類	深さ			比類	別類	深さ	
SP148	0.56	0.38	0.47		SP197	0.22	0.22	0.23		SP246	0.00	0.34	0.13	
SP149	0.28	0.20	0.30		SP198	0.84	0.57	0.52		SP247	0.39	0.28	0.37	
SP150	0.26	0.25	0.07		SP199	0.86	0.48	0.61		SP248	0.31	0.27	0.35	
SP151	0.33	0.31	0.22	2P列P3	SP200	0.53	0.47	0.21		SP249	0.38	0.33	0.43	
SP152	0.27	0.24	0.10		SP201	0.24	0.24	0.12		SP250	0.38	0.38	0.55	
SP153	0.36	0.32	0.31	HT10P3	SP202	0.40	0.36	0.25		SP251	0.47	0.41	0.31	6P列P5
SP154	0.33	0.29	0.16	2P列P2	SP203	0.33	0.25	0.11		SP252	0.31	0.21	0.30	8P列P1
SP155	0.50	0.49	0.41		SP204	0.28	0.26	0.10		SP253	0.55	0.45	0.08	6P列P6
SP156	0.39	0.38	0.48		SP205	0.39	0.29	0.12		SP254	0.26	0.21	0.26	8P列P2
SP157	0.28	0.24	0.30		SP206	0.24	0.19	0.10		SP255	0.38	0.32	0.24	6P列P7
SP158	0.32	0.31	0.43		SP207	0.40	0.38	0.20		SP256	0.32	0.28	0.15	
SP159	0.45	0.37	0.25	HT2P2	SP208	0.31	0.23	0.07		SP257	0.46	0.37	0.41	7P列P2
SP160	0.68	0.60	0.62	HT1P1	SP209	0.28	0.25	0.54		SP258	0.25	0.22	0.11	8P列P3
SP161	0.65	0.48	0.66		SP210	0.43	0.41	0.42		SP259	0.27	0.24	0.14	8P列P4
SP162	0.32	0.30	0.28	HT5P1	SP211	0.28	0.25	0.38	HT2P6	SP260	0.30	0.29	0.30	
SP163	0.47	0.43	0.35	HT3P2	SP212	0.43	0.40	0.47		SP261	0.37	0.30	0.09	
SP164	0.18	0.18	0.11		SP213	0.31	0.28	0.25		SP262	0.41	0.40	0.19	
SP165	0.52	0.44	0.29	HT5P4	SP214	0.24	0.21	0.29		SP263	0.35	0.21	0.13	
SP166	0.42	0.43	0.48		SP215	0.23	0.22	0.31		SP264	0.43	0.41	0.14	
SP167	0.85	0.75	0.26		SP216	0.56	0.49	-		SP265	0.53	0.45	0.21	
SP168	0.49	0.46	0.23	HT6P5	SP217	0.33	0.30	0.45		SP266	0.45	0.41	-	
SP169	0.67	0.49	-		SP218	0.30	0.30	0.23		SP267	0.40	0.34	0.18	
SP170	0.86	0.60	0.56	HT1P	SP219	0.39	0.39	0.27		SP268	0.26	0.26	0.22	HT12P6
SP171	0.42	0.41	0.00	HT6P3	SP220	0.74	0.61	0.65	10P列P4	SP269	0.32	0.31	0.34	
SP172	0.47	0.41	0.21		SP221	0.69	0.57	0.53		SP270	0.69	0.48	0.67	HT3P9
SP173	0.48	0.30	0.65		SP222	0.44	0.44	0.38	10P列P5	SP271	0.33	0.27	0.31	HT12P3
SP174	0.48	0.44	0.37	HT3P1	SP223	0.39	0.31	0.43	HT9P3	SP272	0.40	0.35	0.45	HT12P2
SP175	0.39	0.28	0.45		SP224	0.32	0.27	0.25	HT9P2	SP273	0.28	0.28	-	
SP176	0.23	0.22	0.08		SP225	0.34	0.29	0.11	10P列P4	SP274	0.59	0.53	-	
SP177	0.98	0.69	0.51	HT1P7	SP226	0.49	0.45	0.57	10P列P3	SP275	0.42	0.31	-	
SP178	0.52	0.44	0.65	HT10P5	SP227	0.29	0.29	0.28		SP276	0.28	0.24	-	
SP179	0.42	0.40	0.39	HT10P6	SP228	0.23	0.22	0.28		SP277	0.40	0.35	0.18	
SP180	0.32	0.28	0.14	2P列P4	SP229	0.42	0.41	0.40		SP278	0.41	0.31	0.06	
SP181	0.34	0.34	0.34	2P列P5	SP230	0.68	0.65	0.65	HT3P3	SP279	0.25	0.22	0.17	HT12P5
SP182	0.28	0.25	0.23		SP231	0.36	0.27	0.52		SP280	0.45	0.40	0.33	
SP183	0.39	0.33	0.19	HT10P1	SP232	0.43	0.38	0.69		SP281	0.30	0.30	0.36	
SP184	0.38	0.37	0.20	HT10P2	SP233	0.66	0.61	0.49		SP282	0.47	0.35	0.32	HT12P1
SP185	0.80	0.44	0.56	HT1P4	SP234	0.41	0.34	0.33	HT4P5	SP283	0.62	0.50	0.59	
SP186	0.55	0.52	0.59		SP235	0.49	0.46	0.22	HTTP3	SP284	0.44	0.39	0.35	
SP187	0.34	0.31	0.12	2P列P1	SP236	0.49	0.46	0.59	HT1P3	SP285	0.35	0.33	0.34	
SP188	0.37	0.37	0.22		SP237	0.98	0.36	0.85	HT3P5	SP286	0.44	0.35	0.36	10P列P1
SP189	0.35	0.35	0.22	7P列P3	SP238	0.34	0.21	0.37		SP287	0.58	0.48	0.74	
SP190	0.32	0.32	0.29		SP239	0.74	0.75	0.12		SP288	0.78	0.63	0.89	HT7P2
SP191	0.33	0.31	0.26		SP240	0.43	0.32	0.05		SP289	0.37	0.36	0.30	
SP192	0.41	0.27	0.19		SP241	0.41	0.40	0.27	6P列P2	SP290	0.27	0.22	0.67	HT11P2
SP193	0.34	0.34	0.24		SP242	0.34	0.33	0.34		SP291	0.40	0.35	0.60	
SP194	0.33	0.31	0.24		SP243	0.39	0.36	0.23	6P列P3	SP292	0.40	0.35	0.41	9P列P3
SP195	0.46	0.44	0.21		SP244	0.28	0.27	0.13		SP293	0.38	0.29	0.30	HT9P5
SP196	0.35	0.29	0.24		SP245	0.59	0.51	0.30	6P列P4	SP294	0.51	0.45	0.53	

第6表 道橋観察表(6)

ビット観察表(3)

遺構名	層位			備考	遺構名	層位			備考	遺構名	層位			備考
	比層	別層	深さ			比層	別層	深さ			比層	別層	深さ	
SP295	0.61	0.44	0.28		SP344	0.53	0.38	-		SP303	0.35	0.30	0.37	
SP296	0.34	0.29	0.38	10P列P 2	SP345	0.26	0.20	0.29		SP394	0.44	0.27	0.37	
SP297	0.35	0.30	0.29		SP346	0.52	0.25	0.16		SP395	0.31	0.31	0.39	
SP298	0.38	0.35	0.40		SP347	0.40	0.38	0.35	1 P 列 P 3	SP396	0.26	0.23	0.26	
SP299	0.49	0.37	0.36	9 P 列 P 6	SP348	0.54	0.63	0.12	HT10P 4	SP397	0.31	0.28	0.30	
SP300	0.39	0.32	0.45		SP349	0.31	0.30	-		SP398	0.28	0.26	0.22	
SP301	0.51	0.50	0.39	HT8P 4	SP350	0.58	0.55	-		SP399	0.31	0.27	0.37	
SP302	0.33	0.27	0.24	HT 2 P 5	SP351	0.44	0.36	0.24	HT1P 2	SP400	0.26	0.30	0.23	HT 4 P 1
SP303	0.28	0.24	0.32		SP352	0.38	0.35	-		SP401	0.25	0.22	0.56	HT5P 5
SP304	0.24	0.21	-		SP353	0.36	0.31	0.44	9 P 列 P 2	SP402	0.25	0.22	0.04	
SP305	0.25	0.19	0.23	HT5P 3	SP354	0.34	0.32	0.48	HT12P 4	SP403	0.45	0.43	0.04	
SP306	0.46	0.43	0.66	HT3P 4	SP355	0.46	0.40	0.32	HT8P 1	SP404	0.28	0.24	0.29	HT 6 P 2
SP307	0.56	0.43	0.30	HT8P 2	SP356	0.79	0.52	0.59		SP405	0.36	0.29	0.31	
SP308	0.30	0.30	0.25	HT 4 P 3	SP357	0.41	0.39	0.33	11P列P 1	SP406	0.51	0.50	0.59	1 P 列 P 2
SP309	0.24	0.21	0.12	HT5P 6	SP358	0.34	0.26	0.53	9 P 列 P 1	SP407	0.68	0.63	0.64	
SP310	0.28	0.25	0.51		SP359	0.41	0.37	0.16		SP408	0.27	0.23	0.23	HT 6 P 1
SP311	0.54	0.43	-		SP360	0.33	0.32	0.11		SP409	0.49	0.39	0.19	
SP312	0.41	0.40	0.44		SP361	0.56	0.46	0.43		SP410	0.41	0.40	0.30	
SP313	0.58	0.55	0.67	HT 2 P 1	SP362	0.29	0.29	0.25		SP411	0.26	0.26	0.25	
SP314	0.38	0.34	-		SP363	0.42	0.34	0.27	2 P 列 P 6	SP412	0.29	0.25	0.15	
SP315	0.52	0.41	0.64		SP364	0.51	0.33	0.18	7 P 列 P 1	SP413	0.18	0.17	0.16	
SP316	0.50	0.41	0.58		SP365	0.34	0.33	0.39	1 P 列 P 1	SP414	0.25	0.22	0.14	HT11P 5
SP317	0.71	0.59	0.73	HT3P 8	SP366	0.39	0.29	0.29	9 P 列 P 5	SP415	0.20	0.20	0.14	
SP318	0.72	0.58	0.50	HT 4 P 4	SP367	0.46	0.44	0.12		SP416	0.26	0.23	0.22	10P列P 3
SP319	0.55	0.42	0.45		SP368	0.45	0.43	-		SP417	0.40	0.35	-	
SP320	0.34	0.31	0.40		SP369	0.27	0.24	0.22		SP418	0.30	0.24	0.19	
SP321	0.50	0.50	0.44	HT7P 1	SP370	0.38	0.35	-		SP419	0.77	0.41	-	
SP322	0.60	0.54	0.31		SP371	0.53	0.34	0.34		SP420	0.28	0.28	0.22	
SP323	0.45	0.44	0.48	HT 6 P 6	SP372	0.39	0.33	0.60		SP421	0.40	0.32	0.39	HT 4 P 6
SP324	0.49	0.46	0.45	HT3P 6	SP373	0.43	0.38	0.44		SP422	0.15	0.14	0.15	HT11P 3
SP325	0.30	0.30	0.24		SP374	0.33	0.27	0.07		SP423	0.36	0.27	0.14	
SP326	0.42	0.40	0.77	HT 2 P 4	SP375	0.31	0.24	0.16		SP424	0.44	0.41	-	
SP327	0.36	0.26	0.23	HT5P 2	SP376	0.51	0.43	0.23		SP425	0.26	0.19	0.09	
SP328	0.52	0.46	-		SP377	0.37	0.33	0.40		SP426	0.92	0.81	0.88	HT8P 3
SP329	0.38	0.36	0.44		SP378	0.39	0.52	0.41		SP427	0.56	0.48	-	
SP330	0.27	0.26	0.38		SP379	0.46	0.45	0.48		SP428	0.67	0.63	0.22	
SP331	0.27	0.26	0.49		SP380	0.44	0.39	0.28		SP429	0.46	0.34	0.86	
SP332	0.39	0.37	0.33		SP381	0.46	0.44	-		SP430	0.29	0.28	0.08	
SP333	0.29	0.21	0.34		SP382	0.27	0.26	-		SP431	0.20	0.18	0.16	
SP334	0.36	0.34	0.22	HT 6 P 4	SP383	0.51	0.47	0.34		SP432	0.24	0.20	0.18	HT 9 P 2
SP335	0.29	0.23	0.19		SP384	0.38	0.04	0.24		SP433	0.22	0.22	0.29	HT 0 P 1
SP336	0.33	0.32	0.21	HT7P 4	SP385	0.43	0.42	0.62		SP434	0.26	0.25	0.28	
SP337	0.40	0.38	0.44		SP386	0.58	0.41	0.14		SP435	0.32	0.27	0.24	
SP338	0.58	0.49	0.35		SP387	0.46	0.37	0.52		SP436	0.20	0.20	0.18	
SP339	0.49	0.25	0.30		SP388	0.34	0.28	0.28		SP437	0.37	0.34	0.31	HT11P 4
SP340	0.34	0.31	0.20	HT7P 6	SP389	0.42	0.36	0.61		SP438	0.35	0.34	0.12	
SP341	0.32	0.24	0.45		SP390	0.37	0.34	0.54		SP439	0.35	0.34	0.37	9 P 列 P 4
SP342	0.32	0.28	0.43		SP391	0.40	0.39	0.74		SP440	0.28	0.24	0.24	HT11P 1
SP343	0.36	0.33	0.53	HT 4 P 2	SP392	0.41	0.36	0.39		SP441	0.36	0.28	0.23	11P列P 2

第7表 遺構観察表(7)

遺構名	層位			備考	遺構名	層位			備考	遺構名	層位			備考
	1層	2層	3層			1層	2層	3層			1層	2層	3層	
SP442	0.26	0.25	0.16	HT1P 6	SP455	0.25	0.23	0.19		SP468	0.46	0.40	-	
SP443	0.34	0.32	0.19		SP456	0.19	0.18	0.04		SP469	0.45	0.35	-	
SP444	0.46	0.40	0.19	基P列P 5	SP457	0.42	0.40	0.23		SP470	0.95	0.78	-	
SP445	0.59	0.43	0.25		SP458	0.44	0.39	0.50	HTP 5	SP471	0.40	0.39	-	
SP446	0.48	0.46	0.24		SP459	0.37	0.34	-		SP472	0.72	0.45	-	
SP447	0.24	0.23	-		SP460	0.51	0.51	-		SP473	0.82	0.43	-	
SP448	0.39	0.13	0.18		SP461	0.36	0.31	0.24		SP474	0.38	0.36	0.32	HT 2P 3
SP449	0.42	0.36	0.25		SP462	0.39	0.30	0.98		SP475	0.54	0.48	0.80	1P列P 4
SP450	0.44	0.40	0.27		SP463	0.62	0.61	0.22		SP476	0.48	0.44	-	
SP451	0.27	0.24	0.38		SP464	0.57	0.48	-		SP477	0.25	0.22	-	
SP452	0.32	0.31	0.36		SP465	0.59	0.51	-		SP478	0.58	0.38	-	
SP453	0.22	0.22	0.07		SP466	0.50	0.41	-		SP479	0.27	0.26	-	
SP454	0.22	0.21	0.30		SP467	0.40	0.36	-		SP480	0.32	0.28	0.12	6P列P 1

第8表 遺構観察表(8)

## VI 出土遺物

### 1 縄文時代の遺物

遺構の検出には至らなかったが、早期末(外-1)、前期末(外-2・3)及び中期後半(外-4～8)の遺物が出土した。外-1はM-1号溝埋没土中からの出土で混入遺物と考えられる。それ以外の遺物は基本層序Ⅶ層からの出土である。Ⅶ層から出土した遺物の大半は中期後半に帰属する。石器は石鏃1点(外-1)、打製石斧2点(外-10・11)を図示した。いずれも基本層序Ⅶ層からの出土である。

### 2 古墳時代・平安時代の遺物

1) 土師器・須恵器：古墳時代中期後半から後期初頭と平安時代の土器群が出土した。

住居址出土の古墳時代の土器群は5世紀第3四半期(H-10・12号住居址)、5世紀第4四半期(H-7・9号住居址)、6世紀第1四半期(H-1～5・13号住居址)に区分される。土師器の器種には甕、甗、壺、大形鉢、小形甕、小形壺、直口壺、高坏、鉢、碗、坏、手捏ね土器が確認される。甕は丸底と平底があり、平底の甕は胴部が球形に張るものと、中～下位にやや膨らみをもつ長胴のものに大別される。甗は前代の有孔鉢の系譜にある小形甗と、須恵器の影響により出現したと考えられる大形甗がある。大形甗の底部は筒抜け状を呈する。高坏は前代の系譜にある、脚部が下位で屈折し短い裾部を作るものと、新たに出てくる短脚のものがある。坏は丸底で、いわゆる内湾口縁坏、内斜口縁坏、須恵器模倣坏に分けられる。高坏・坏の内面には放射状ヘラミガキが多くみられ、黒色処理が施される個体も確認される。また、5世紀第4四半期～6世紀第1四半期には、内底面に「×」の暗文を施すものが目立つ。この暗文は、高坏では前代の系譜にあるものに、坏では内湾口縁坏と内斜口縁坏に認められる。須恵器の器種には坏と甗が確認される。須恵器はH-2・4・10号住居址で数点出土したのみで、客体的な様相である。以下、各住居址の概要を記す。

H-10号住居址 小形甕、高坏、坏、須恵器坏が出土した。小形甕(1～3)は上げ底気味の平底を呈する。高坏(4)は前代の系譜にあるもので、口縁部と体部の境に明瞭な稜をもつ。坏(5)は内斜口縁坏で、

歪みがなく整った形状を呈する。須恵器環(7)は受部が上方へのび、たちあがりは内傾する。口唇部には面をもち、内稜は鋭い。

H-12号住居址 内湾口縁環と内斜口縁環が出土した。H-10号住居址と同様に整った形状である。内斜口縁環(1)は身が深く、口縁部の作りは端正である。

H-9号住居址 甕、甗、高環、鉢が出土した。甕(1)は丸底で肩が張る器形である。口縁部は「く」の字状に外反し、頸部の括れが強い。甗(2)は甕の底部を切り抜いた形状で、括れの弱い頸部から口縁部が短く外反する。外底面と内面下部に丁寧なヘラミガキが施される、やや特異なものである。高環(3)は器厚が厚く、環部外面には粗いハケメが施される。鉢(5)は平底気味で、底部は焼成後に穿孔される。

H-7号住居址 甕、直口壺、高環、埴、環が出土している。甕は平底で、胴部が長胴化の傾向にあり、口縁部が「く」の字状に外反するもの(1)と、球胴で口縁部が直立するもの(2)がある。また、やや小形の甕(3)もみられる。高環は前代の系譜にあるものと短脚のものが共存する。短脚の環部には模倣環(9)が選択される。埴(15・16)は器厚が厚くやや粗雑な作りである。環は内湾・内斜口縁環があり、内斜口縁環の割合が多い。20・21の内斜口縁環の内底面には暗文が施されるが、「×」ではなく「一」である。時期は5世紀第4四半期の中でも、より6世紀第1四半期に近い段階と考えられる。

H-5号住居址 甕、大形甗、壺、高環、環が出土した。甕は丸底と平底がある。丸底(3・11)には粗いミガキ調整が施される。平底は長胴で、調整にハケメを残すような古い要素をもつ甕(5・8)もある。環は内湾・内斜口縁環である。時期は6世紀第1四半期に比定されるが、やや古相を示す。

H-1号住居址 甕、小形甕、小形甗、直口壺、高環、環が出土した。甕は平底で球胴状と長胴がある。球胴甕(5)の胎土は非常に精選されている。小形甕(6)にはミガキ調整が施される。環は内湾口縁環、内斜口縁環、須恵器模倣環が共存する。同時期に比定されるH-2~4・13号住居址の環の組成も同様である。14の内湾口縁環は外底面にもヘラミガキが施されている。15はミニチュア土器というべき小形の模倣環で、胎土が精選され精緻な作りである。

H-2号住居址 甕、小形甗、直口壺、高環、環、須恵器環が出土した。甕は平底で球胴状と長胴がある。球胴甕(2)は口縁部が直立し、口縁部内面にハケメ調整が施される。直口壺(5)は平底で木葉痕が残る。模倣環(12)は口縁部が大きく外傾して開くタイプである。短脚の高環(7・8)に付く環部は12に似る。須恵器環(15・16)は受部が水平で、たちあがりは内傾する。口唇部の内稜はH-10号住居7に比べてシャープさに欠ける。MT-15型式と考えられる。15には漆が付着している。

H-3号住居址 小形甗、環が出土した。小形甗(1)は逆ハの字状に開く鉢形で、底部は筒抜けである。

H-4号住居址 甕、大形甗、小形甗、高環、環、須恵器甕が出土した。甕は長胴甕が主体となる。7は胴部中に膨らみをもつやや小形の甕で、胴部内面にはハケメ調整が施される。小形甗には逆ハの字状に開く鉢形で単孔のもの(10)と、小形甗の形態で筒抜けのもの(9)がみられる。環では24・25は丸底で、体部と口縁部の境に稜をもたず、口縁部が大きく外反して開く形態である。内面には緻密なヘラミガキと黒色処理が施されている。当該期の西毛地域に特徴的にみられるタイプである。須恵器甕(26)は還元焼成の堅緻なもので、陶器産の可能性はある。

H-13号住居址 甕、大形甗、大形鉢、小形甕、小形壺、高環、環、手捏ね土器が出土した。甕は長胴甕がみられ、2の胴部にはミガキ調整が施されている。大形鉢(3)は平底で口の広い、胴ともいえる形態である。小形甕(6)はまばらなミガキ調整が施される。小形壺(7)は丸底で、直立する口縁

部と下彫れの胴部をもつ。外面には密なヘラミガキが施される。高環には、脚部に長い透かし孔があくもの(12)があり、須恵器の模倣と考えられる。透かしは1段で、三方に開くと推測される。環では、17は内斜口縁環の崩れた形態で、内面には粗雑な放射状ヘラミガキと螺旋状ヘラミガキが施される。21は小形で、扁平な体部から口縁部が直立する。

住居址出土の平安時代の土器群は9世紀第3四半期(H-11号住居址)、9世紀第4四半期(H-6号住居址)、10世紀後半(H-8号住居址)に区分される。器種は土師器甕、小形ロクロ甕、須恵器環、須恵器碗、羽釜が確認される。以下、各住居址の概要を記す。

H-11号住居址 甕、須恵器環、須恵器碗が出土した。1・2の甕は口縁部が「コ」の字状を呈する。須恵器環・碗はともに還元焰焼成である。底部の切り離しは回転系切りである。

H-6号住居址 甕、小形ロクロ甕が出土した。1・2の甕はコの字状口縁を呈すが、H-11号住より口縁部の器厚が厚く、器高もやや縮む。6と7の甕は色調が在地の甕に比べて白く、胎土も類似している。口縁部は緩やかに外反するのみでコの字を呈さないが、肩部が張り出す形状や器面調整の手法はコの字甕と同様である。小形ロクロ甕の底部切り離しは回転系切りである。

H-8号住居址 羽釜、小形ロクロ甕、須恵器環が出土した。羽釜(1)は口縁部が内湾し、鈔は断面三角形を呈する。ロクロ整形の後、外面胴下部にヘラケズリが施される。焼成は酸化焰である。小形ロクロ甕(2)の底部にはナデ調整が施される。須恵器環(3~5)は小振りで、酸化焰焼成のものである。

住居址以外では、D-130号土坑から土師器甕、SP-166号ピットから土師器甕、遺構外から土師器のS字状口縁台付甕、須恵器の高環形器台・甕・碗が出土した。遺構外13の高環形器台は脚部の破片で、長方形と円形の透かし孔があり、外面調整はカキメの後に波状文が施される。

2) 土製品：古墳時代のH-13号住居址から土玉が出土した。

3) 石製品：古墳時代ではH-3号住居址から滑石製の未成品が出土した。その形状から鏡の模造品の可能性が考えられる。H-12号住居址からは小形の磨石が出土した。平安時代ではH-6号住居址およびH-11号住居址から小形の磨石が出土した。

4) 鉄製品：平安時代のH-8号住居址から刀子が出土した。

### 3 中世の遺物

1) かわらけ：43点のかわらけを図示した。法量の差から中型品と小型品に大別される。なお、M8-4については破片資料であるため不明である。

中型品：D18-1~3、D23-1、D53-1、D75-1・2、D81-1、D83-1、D107-1~4、M6-1~7・10、SP186-1・2、SP237-1

小型品：D11-1、D53-2、D81-2、D83-2~4、D107-5~8、M6-8・9、M8-1~3、SP232-1、SP236-1、外-17

中型品はさらにその形態差から3種類に分類される。

- 体部が内湾気味に立ち上がるもの
- 体部から口縁部にかけて直線的に外傾するもの
- 体部は直線的に外傾し、口縁部が丸みを帯びるもの

a) に該当するのはM6-7、SP186-2である。b) に該当するのはD23-1、D53-1、D107-2~4、M6-1~7、SP186-1、SP237-1である。c) に該当するのはD18-1~3、D75-1・2、D81-1、

D 107-1である。形態的特徴から他遺跡の事例と比較すると帰属時期は15世紀後半から16世紀前半と考えられる。なお、a)についてはb)・c)と比較すると形態的にやや古い様相を呈する。

その他、D11-1、D 83-2、D 107-1、D 107-5、M 6-9・10、SP232-1、SP236-1は油煙の付着、見込み中央に穿孔が認められるもの(D107-5、M 6-10、SP232-1)及び口縁部に敲打による調整や挟りが認められること(D83-2、D107-5、SP236-1)などから灯明皿として使用されたものと考えられる。M 8-4、SP232-1には墨書が認められた。また、外17-1では見込みに漆が付着していた。また、D-18号土坑は土壌墓であることから出土したかわらけは副葬品と捉えられる。

2) 内耳鍋・播鉢：内耳鍋は4点を図示した。全体の形状を把握できるものは把手部を欠いてはいるがD 75-3である。平底で口縁部は外傾し口縁部端部が外側にやや突出する。他の3点(D 3-1、M 6-11、M 8-5)は口縁部破片資料である。播鉢は3点(D 53-1、D 106-3、S 6-1)図示した。D 53-1は片口で内面には交差する掻き目が施されている。

3) 陶器・磁器：D-3号土坑において青華と考えられる磁器片(D 3-2)が1点出土している。D-47号土坑・M-6号溝では青磁碗(D 47-1、M 6-12)が出土している。その他、D-53号土坑では天目碗(D 53-3)が、D-60・117号土坑、S-4号配石遺構において碗・皿といった陶器が出土した。また、D-1号土坑・M-1号溝では甕がそれぞれ出土している。

4) 土製品：円盤状土製品がD-53・113号土坑、SP-142において出土した。いずれも土器類の転用品である。SP142-1は車輪状の文様部分を意図的に転用したものであると思われる。

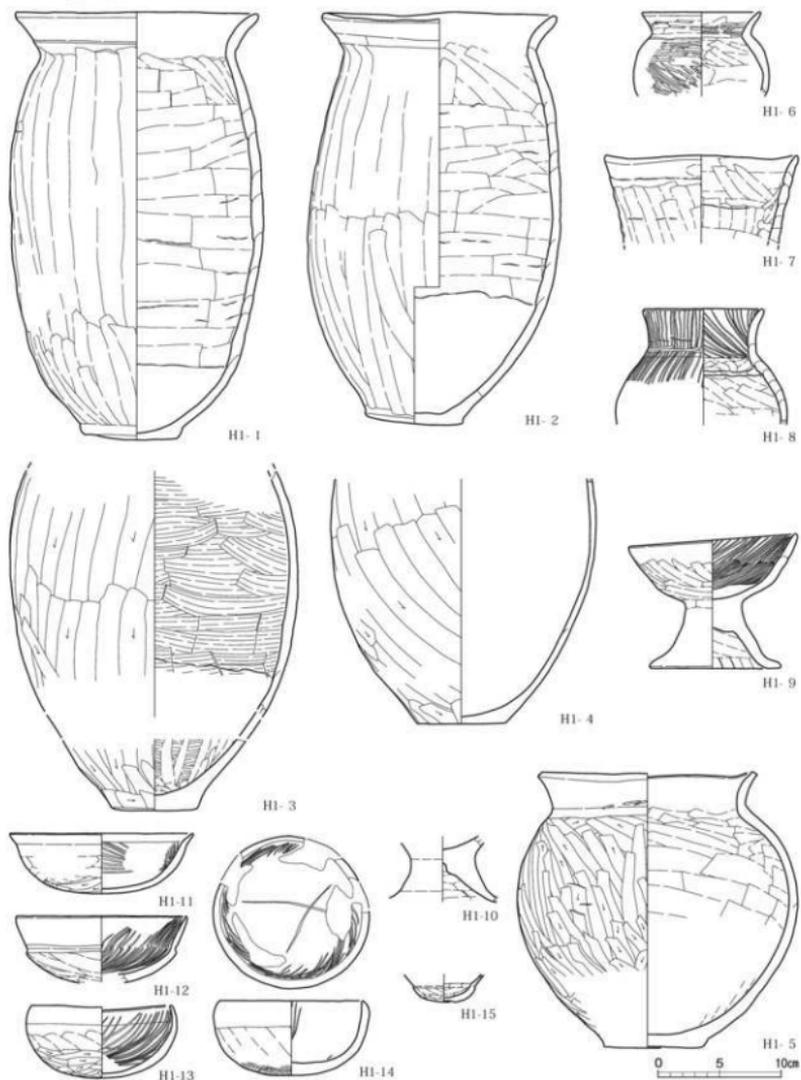
5) 石製品：茶臼3点(D 3-3、S 1-2、S 2-2)、穀物臼6点(D 3-4、D83-5、M 6-15、S 1-3、S 2-3・4)、砥石2点(D 81-3、S 20-2)、板碑2点(D 3-6、S 20-3)、石塔1点(M 6-14)、五輪塔1点(D 3-5)を図示した。D 3-3の茶臼は漆が塗られたものでS-20号配石遺構から出土したものと接合している。M 6-14の石塔は朱墨により「永正三年八月廿九日 妙口禪尼」という文字が記されており当地が海竜寺と有機的な関わりがあったことを示唆する内容の遺物と考えられる。D 3-5の五輪塔は角閃石安山岩製の水輪で上下から穿孔され五輪塔以外の使用目的で二次利用されたことが想定されるものである。

6) 鉄製品：D-53号土坑から小刀が、D-60・81号土坑、遺構外において釘が出土している。

7) 銭貨：D-18号土坑から六道銭と考えられる銭貨が6点出土しているほか、D-53・108号土坑からそれぞれ1点ずつ出土している。

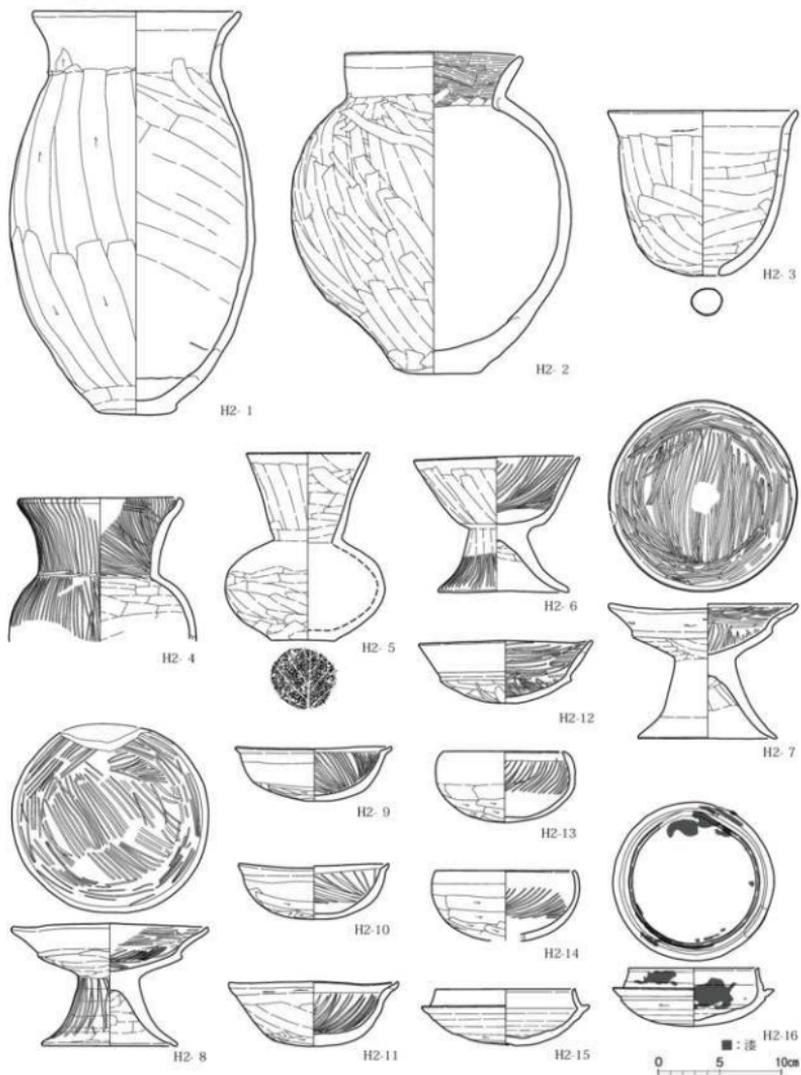
8) 鍛冶関連遺物：遺構の検出には至っていないが、鞆羽口(D 53-5、M 6-16、S 3-1)及び椀形鍛冶滓(D 3-7、M 1-4)が出土した。D 53-5は大型の鞆羽口である。S 3-1の鞆羽口は装着痕が明瞭であった。

H-1号住居址



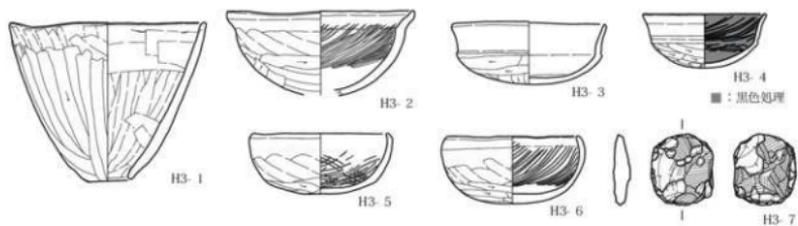
第43图 住居址出土遗物(1)

H-2号住居址

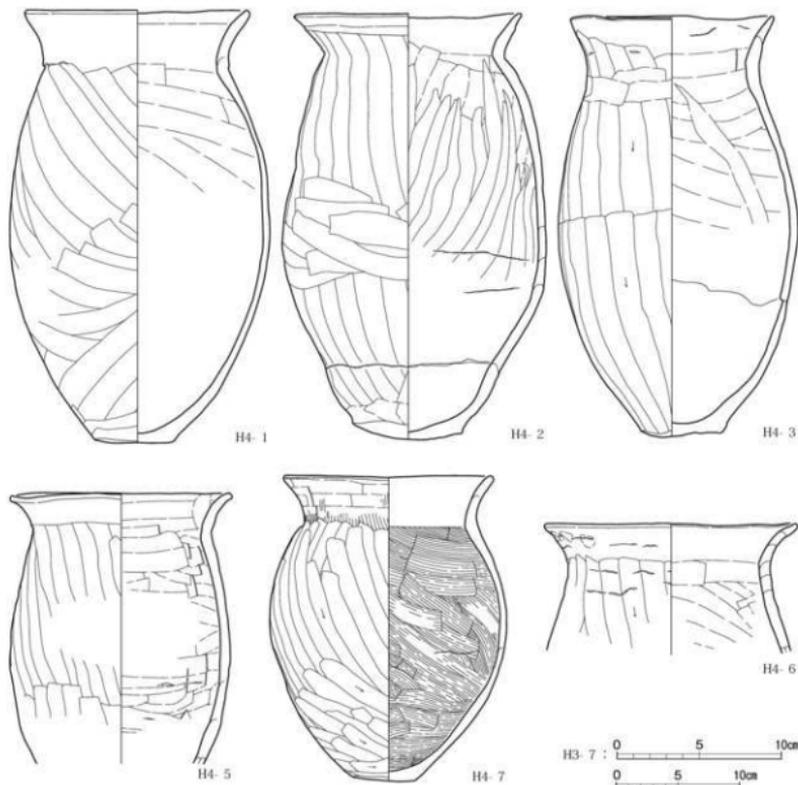


第44图 住居址出土遺物(2)

H-3号住居址

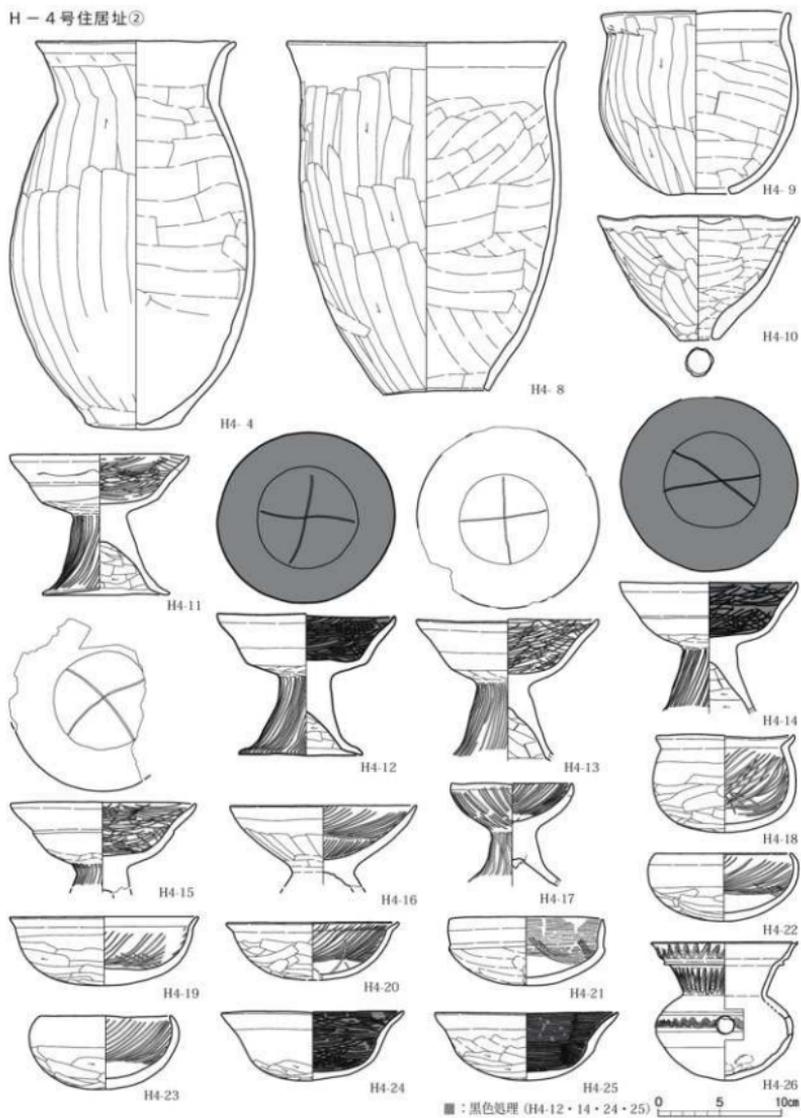


H-4号住居址①



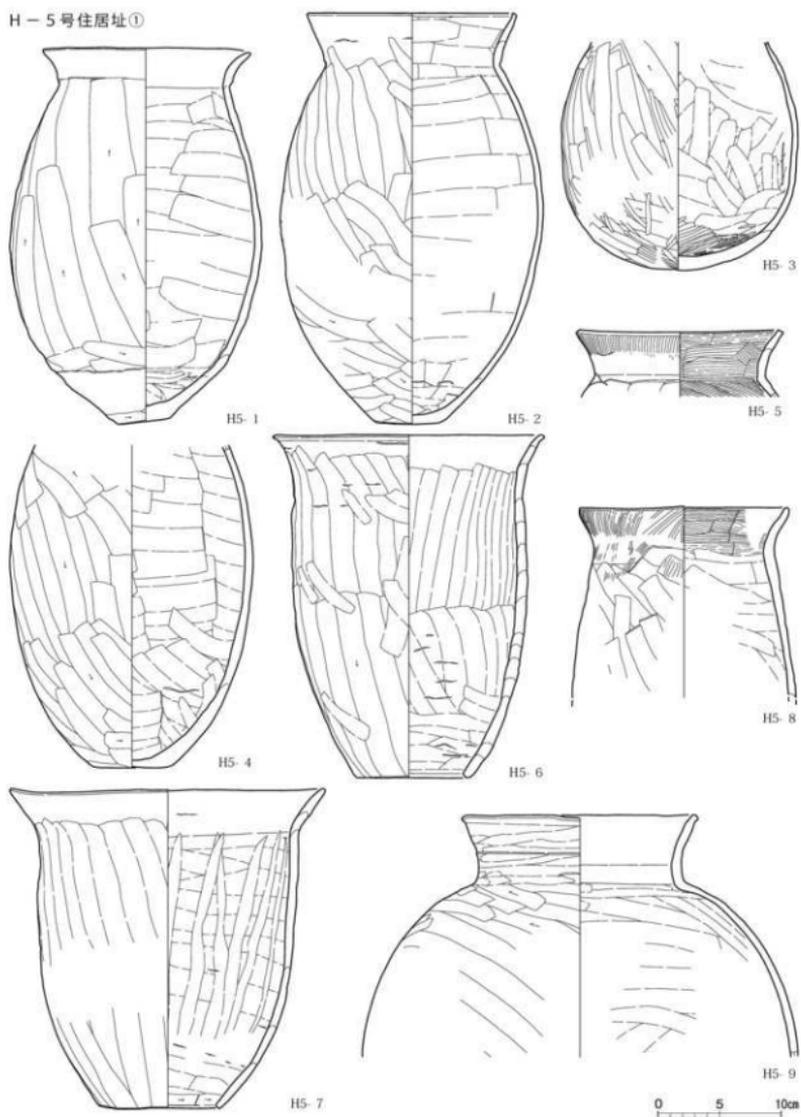
第45图 住居址出土遺物(3)

H-4号住居址②



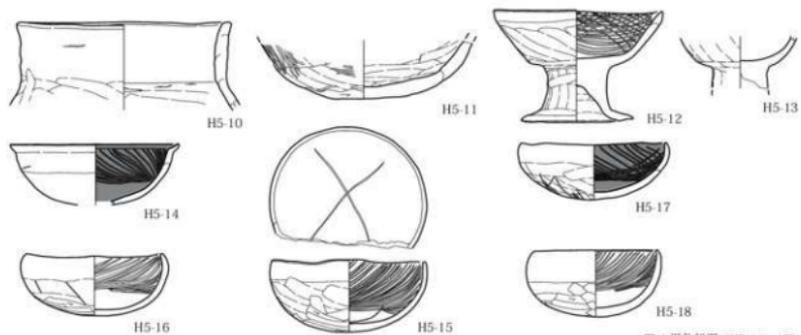
第46图 住居址出土遺物(4)

H-5号住居址①



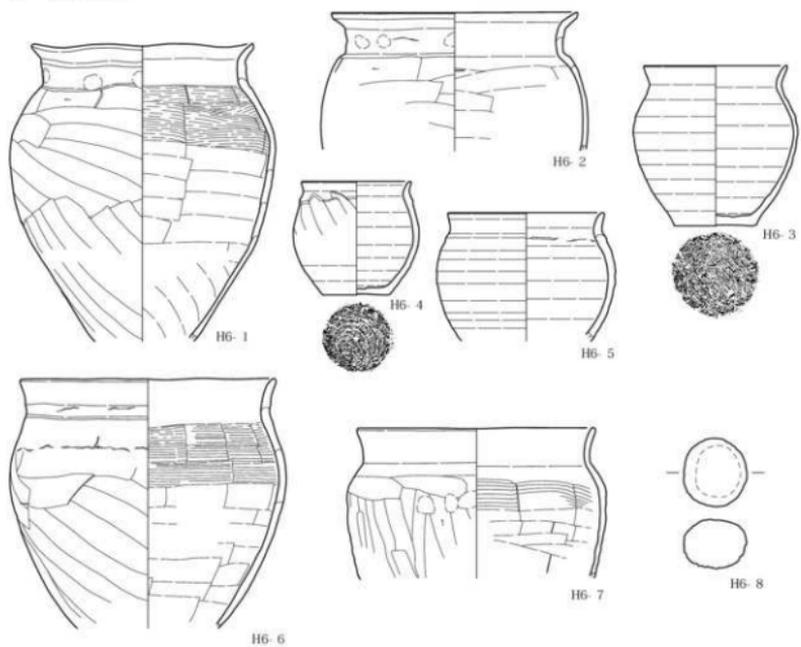
第47图 住居址出土遺物(5)

H-5号住居址②



■：黑色処理 (H5-14・17)

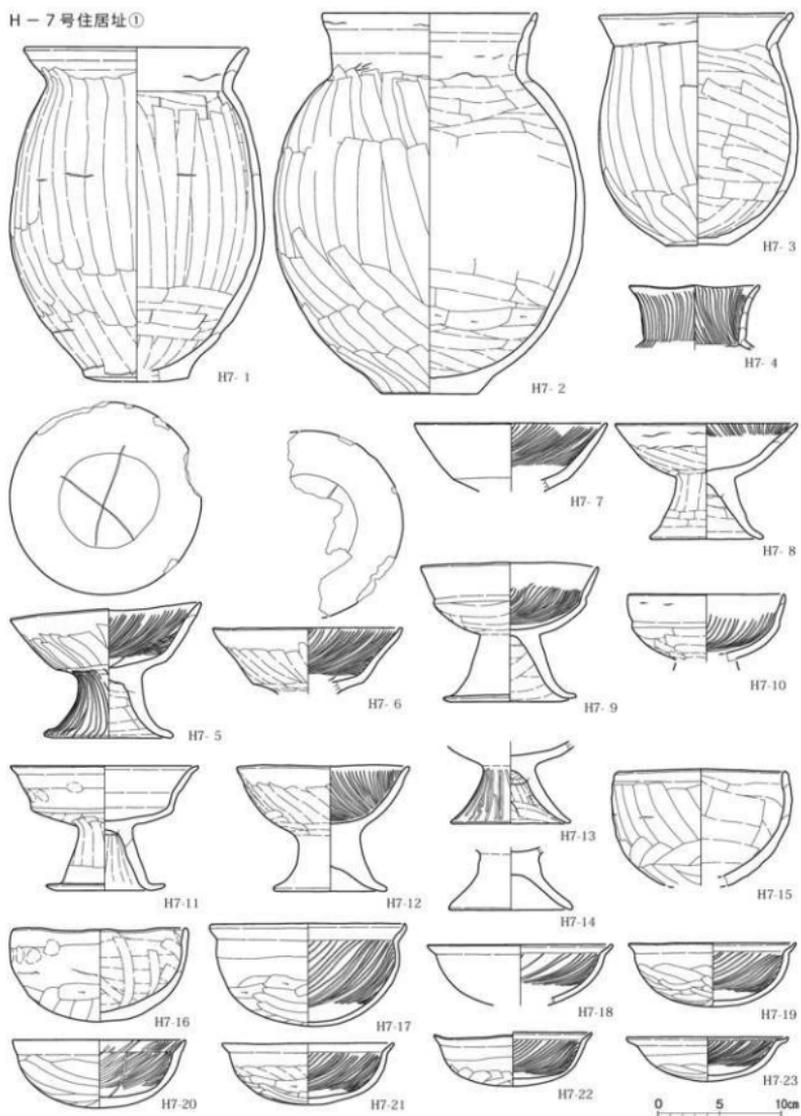
H-6号住居址



0 5 10cm

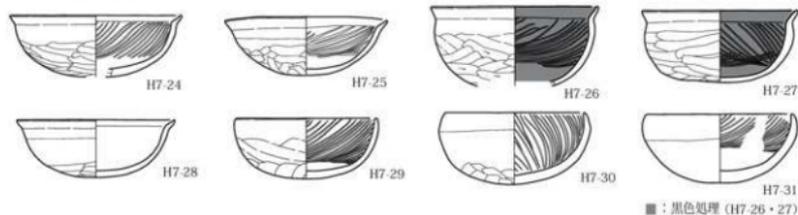
第48图 住居址出土遺物(6)

H-7号住居址①

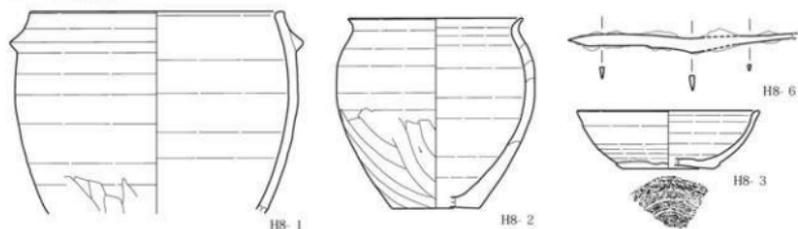


第49图 住居址出土遺物(7)

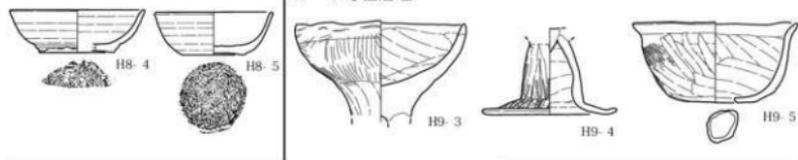
H-7号住居址②



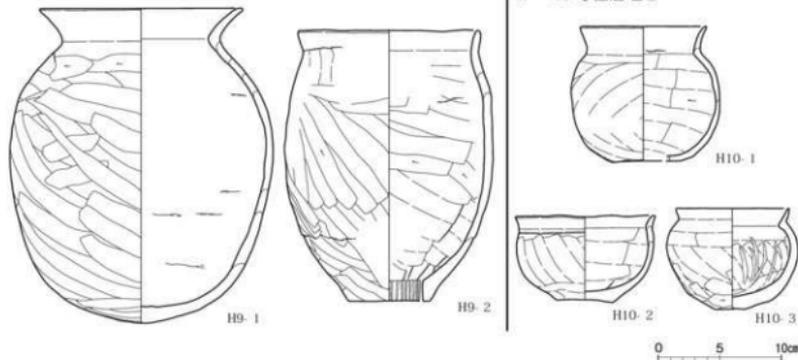
H-8号住居址



H-9号住居址

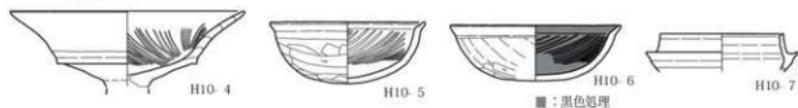


H-10号住居址①

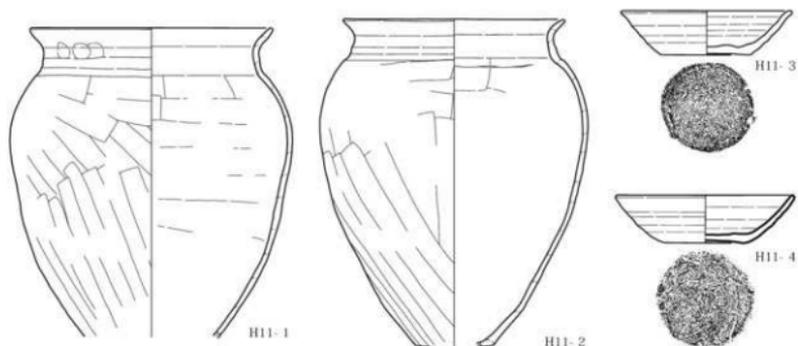


第50图 住居址出土遺物(8)

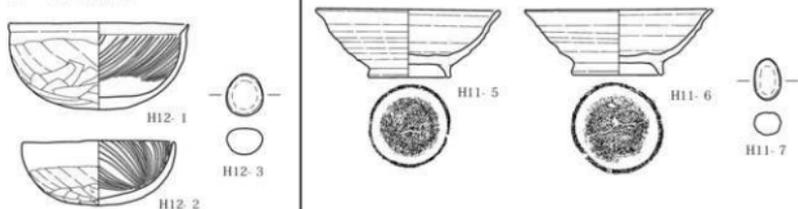
H-10号住居址②



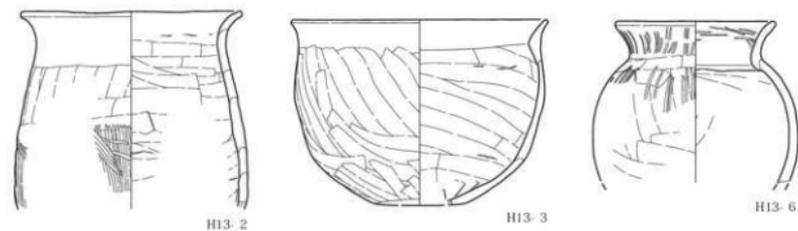
H-11号住居址



H-12号住居址

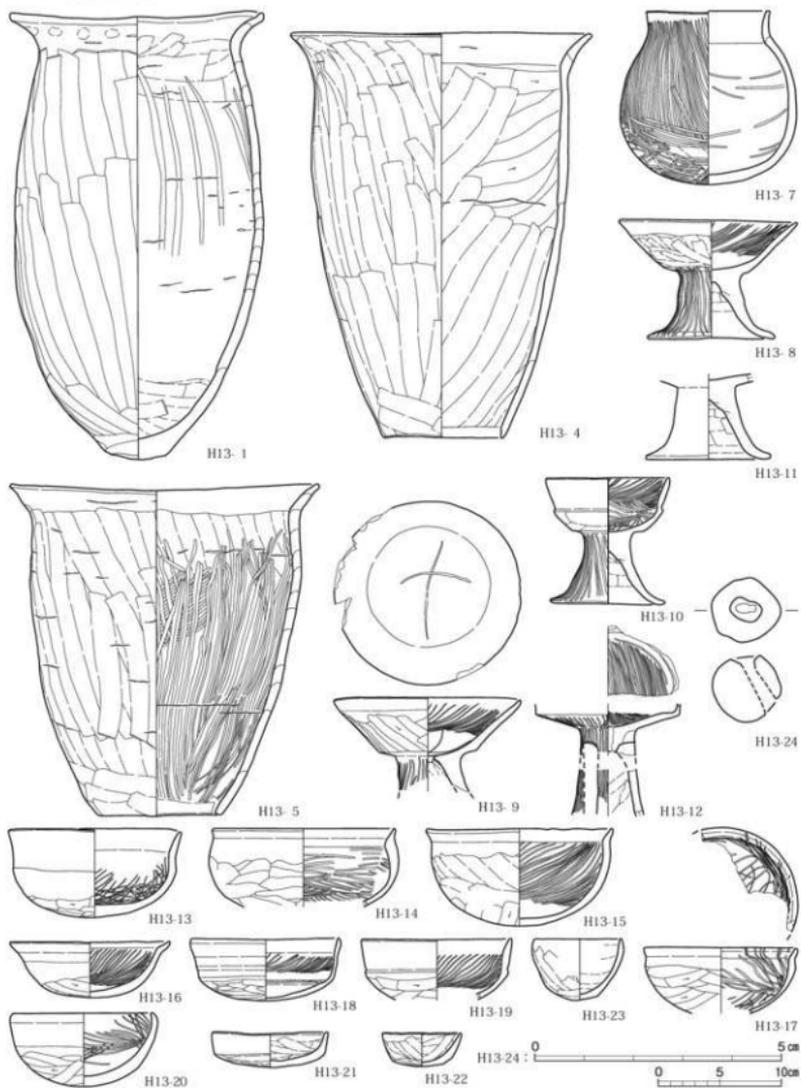


H-13号住居址①



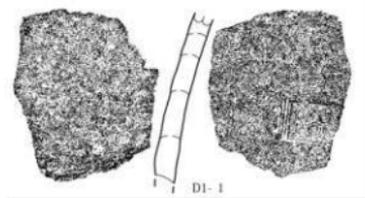
第51图 住居址出土遺物(9)

H-13号住居址②



第52图 住居址出土遺物 (10)

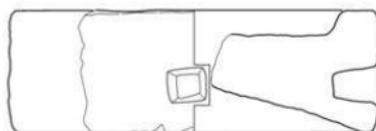
D-1号土坑



D-3号土坑①



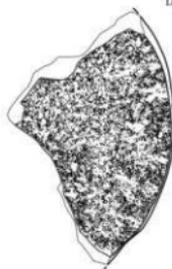
D3-3



D3-4



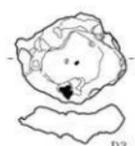
D3-6



D3-8



D3-7

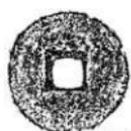


D3-7

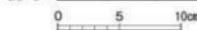
■ : ガラス質化



D3-8

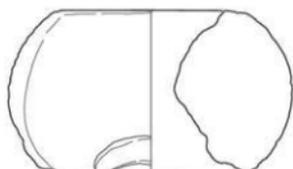
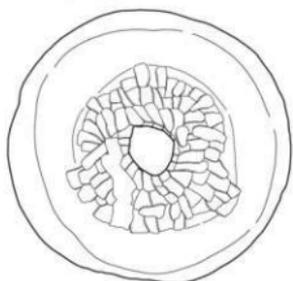


D3-8

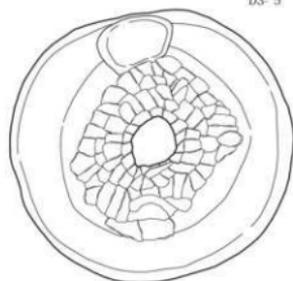
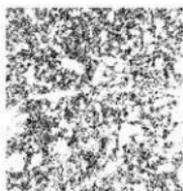


第53図 土坑出土遺物(1)

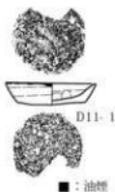
D-3号土坑②



D3-5



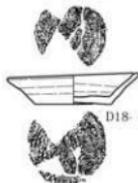
D-3号土坑②



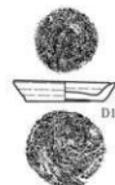
D11-1

■：油煙

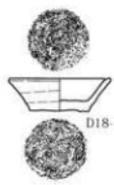
D-18号土坑



D18-1



D18-2



D18-3



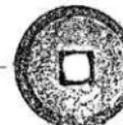
D18-4



D18-5



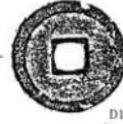
D18-6



D18-7



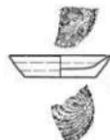
D18-8



D18-9

D18-4~9

D-23号土坑

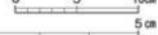


D23-1

D-47号土坑



D47-1



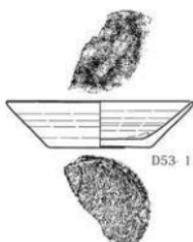
第54图 土坑出土遺物(2)

D-33号土坑

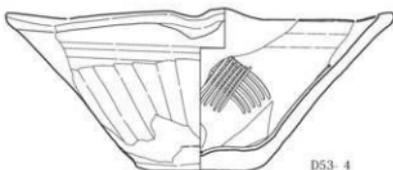


D33-1

D-53号土坑



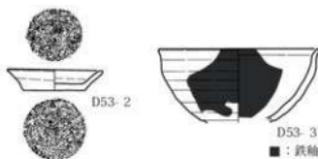
D53-1



D53-4



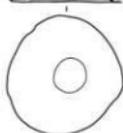
D53-5



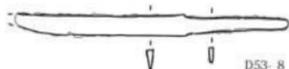
D53-2

D53-3

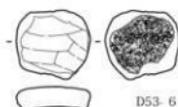
■: 鉄軸



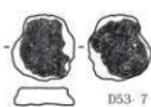
■: ガラス質化  
■: 発泡  
■: 熱変性



D53-8



D53-6



D53-7



D53-9

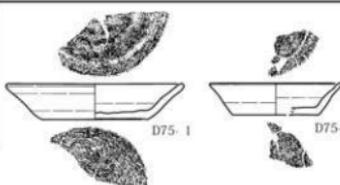
D-60号土坑



D60-1

■: 灰軸

D60-2



D75-1

D75-2

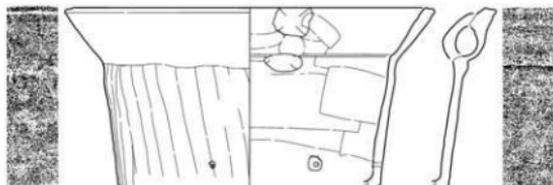
D-117号土坑



D117-1

■: 白陶軸

D-75号土坑



D75-3

D-133号土坑



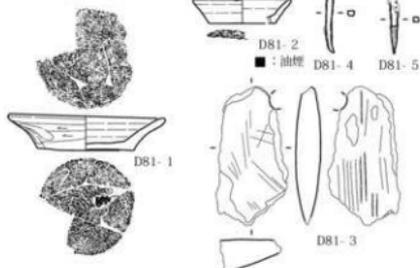
D133-1

0 5 10cm

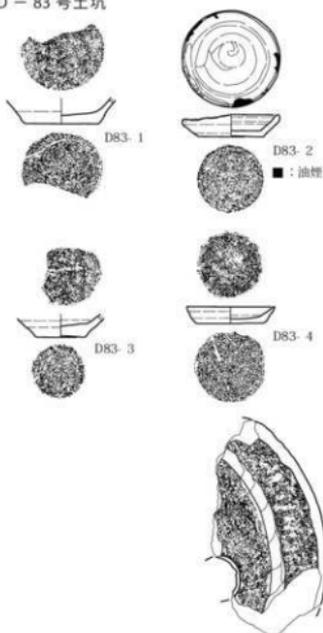
D53-9: 0 5cm

第55图 土坑出土遺物(3)

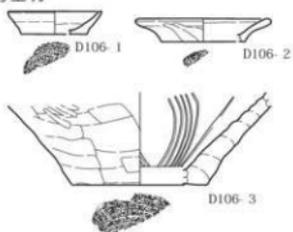
D-81号土坑



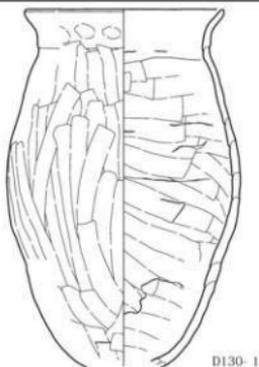
D-83号土坑



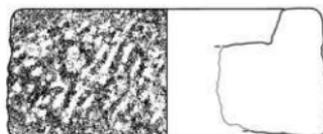
D-106号土坑



D-130号土坑



D-108号土坑

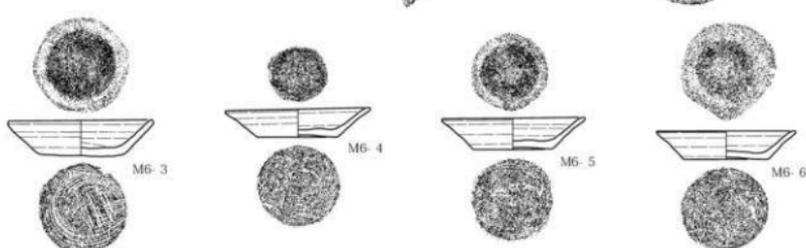
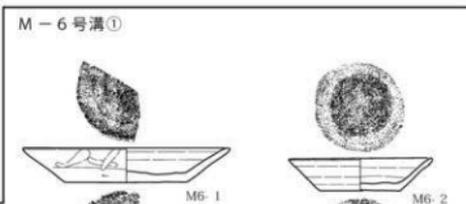
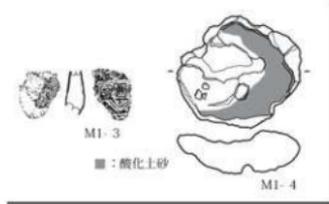
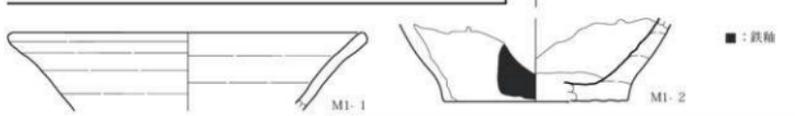
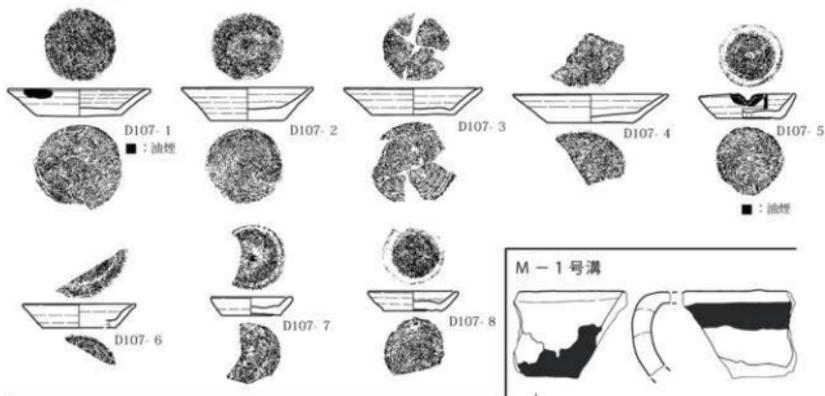


0 5 10cm

0 5cm

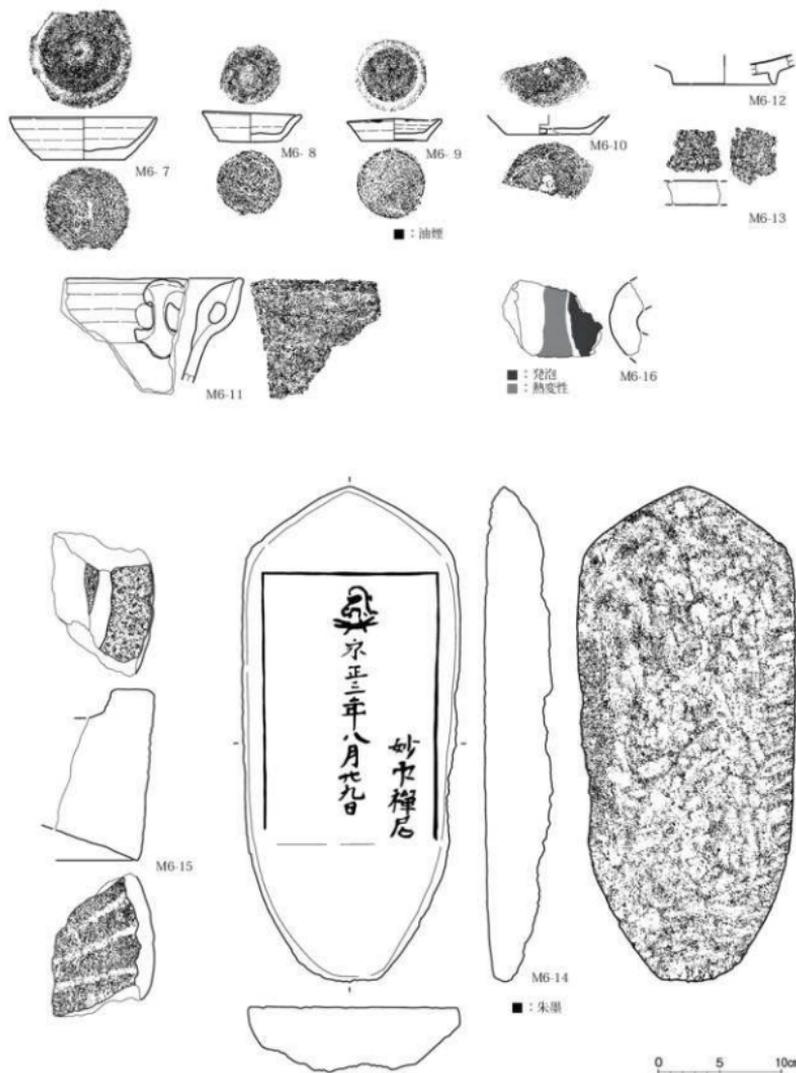
D108-1 D108-1 : 0 5cm  
第56图 土坑出土遺物(4)

D - 107号土坑



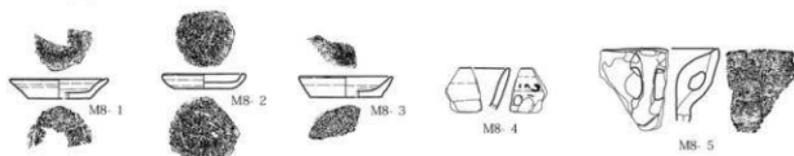
0 5 10cm

第57图 土坑出土遺物(5)・清出土遺物(1)

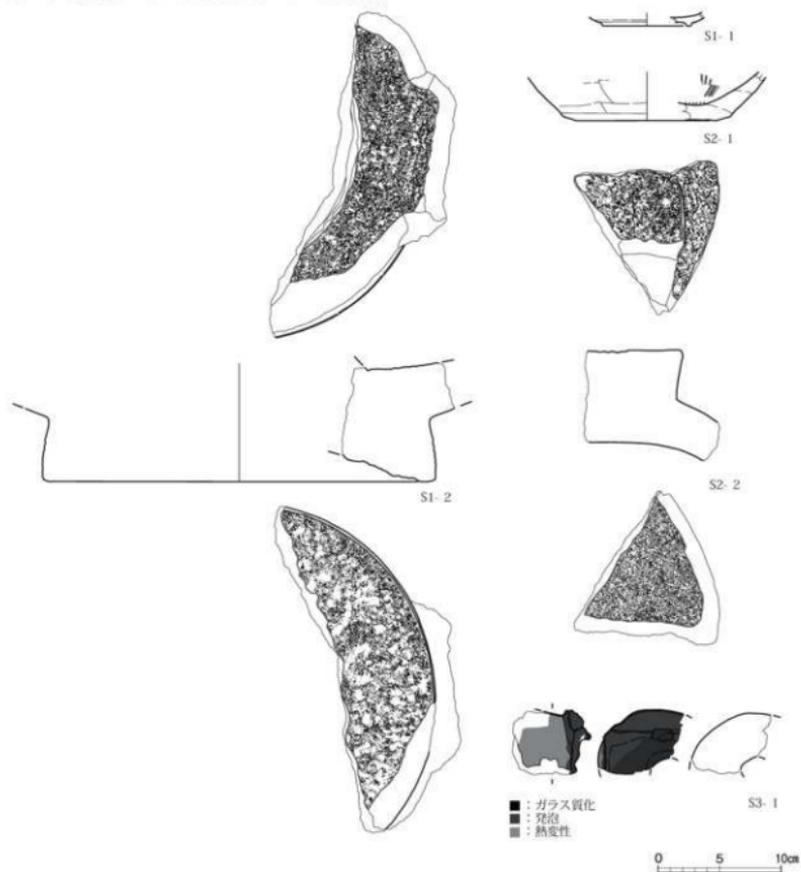


第 58 図 清出土遺物 (2)

M-8号溝

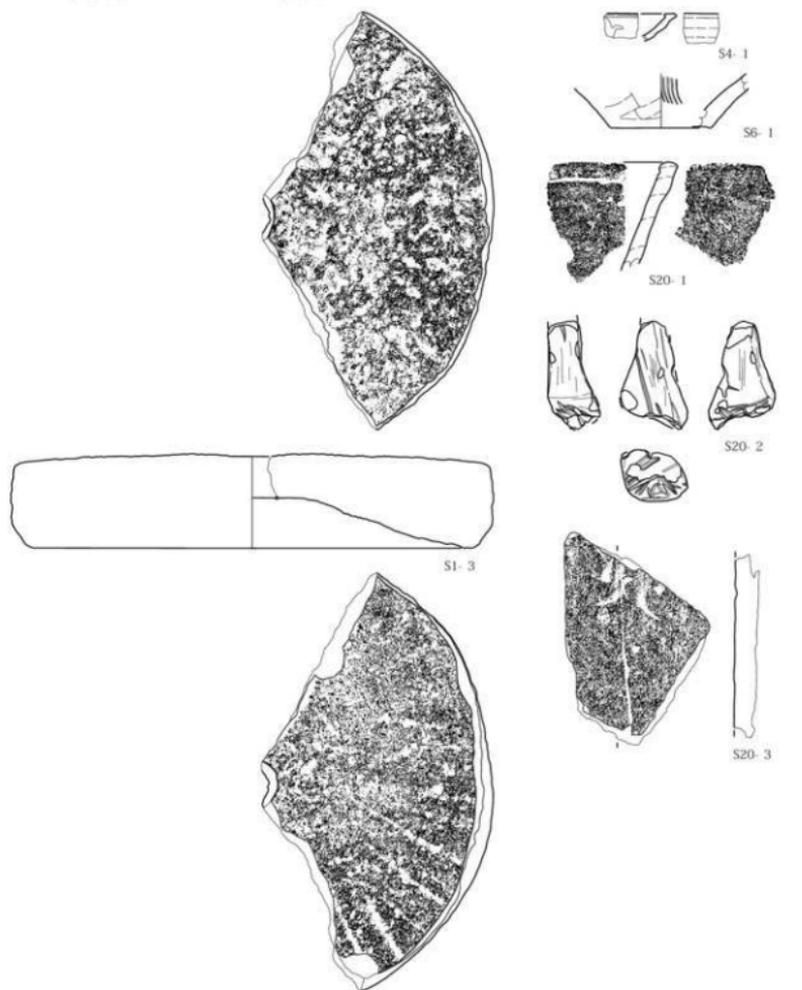


S-1号配石①・S-2号配石①・S-3号配石



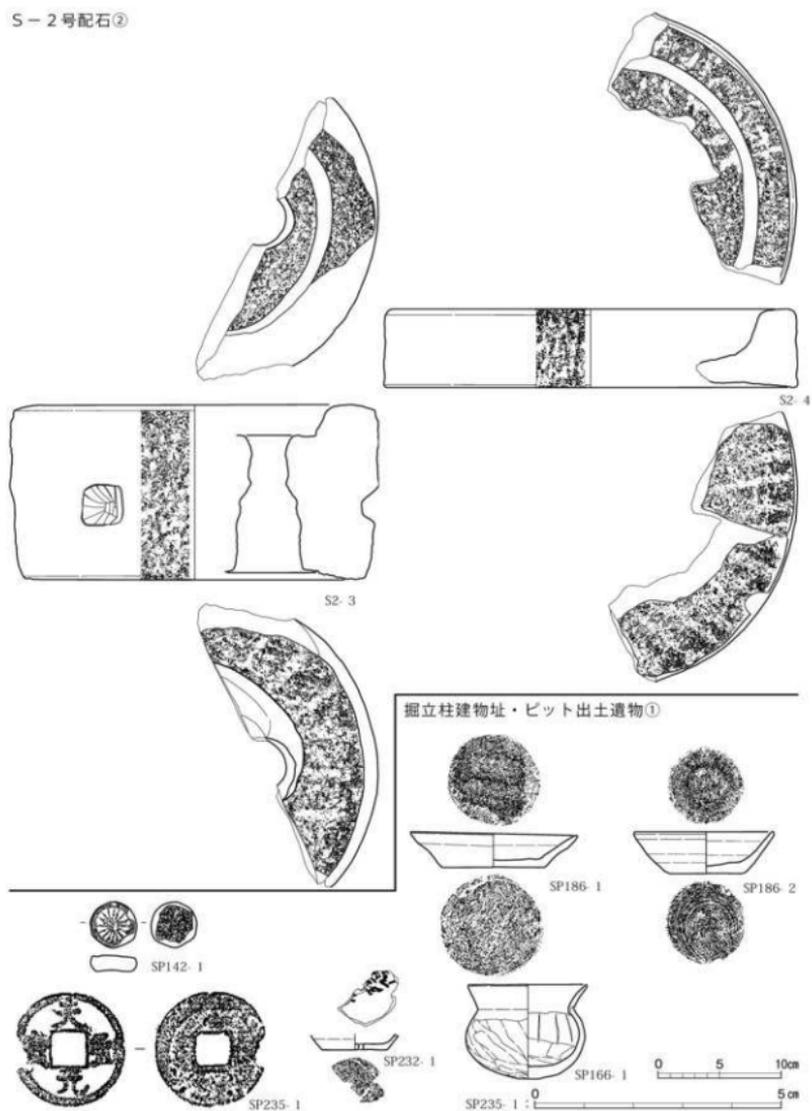
第59図 溝出土遺物(3)、配石遺構出土遺物(1)

S-1号配石②・S-4・6・20号配石



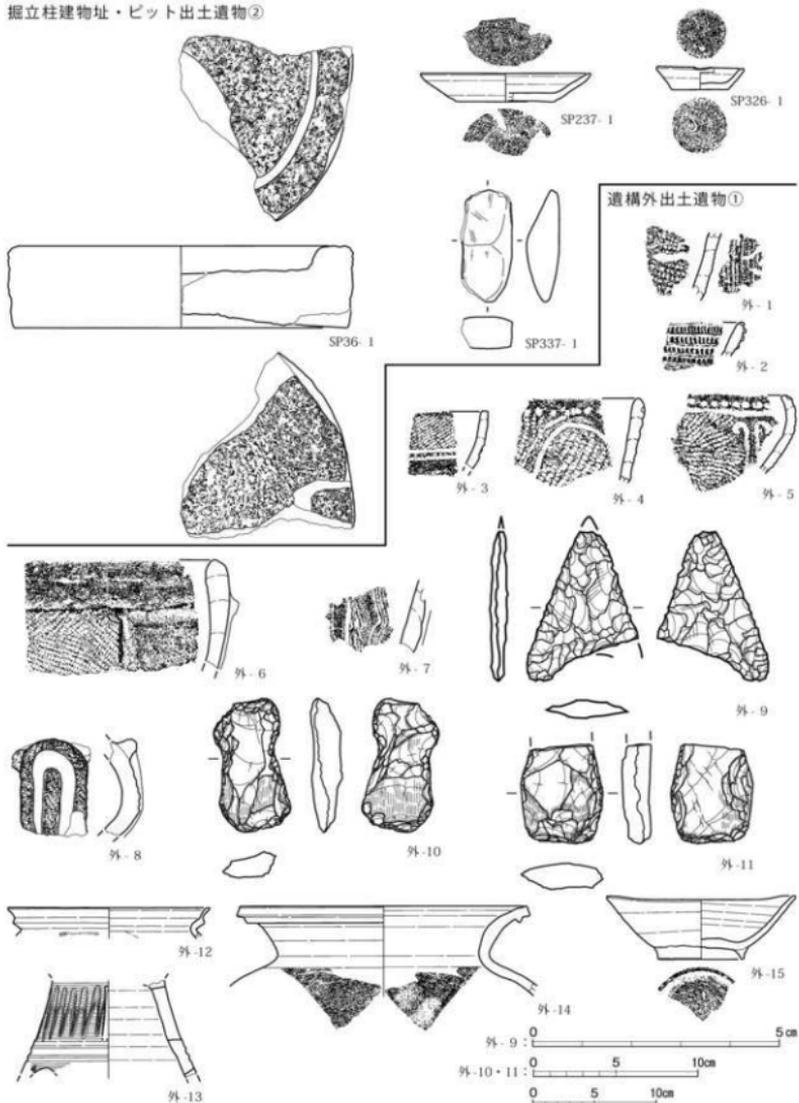
第60图 配石遺構出土遺物(2)

S-2号配石②



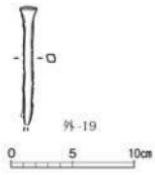
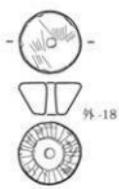
第61図 配石遺構出土遺物(3)、掘立柱建物址・ピット出土遺物(1)

掘立柱建物址・ピット出土遺物②



第62図 掘立柱建物址・ピット出土遺物(2)・遺構外出土遺物(1)

遺構外出土遺物②



第 63 図 遺構外出土遺物 (2)

H-1号住居址遺物観察表(単位:cm, < >:残存値、( ):復元値)

遺構名	番号	種類	器種	法量			焼成	色塗	胎土	残存	成・整形技法の特徴		備考
				口径	底径	高さ					外面	内面	
H-1	1	土師器	甕	19.8	7.6	35.0	良好	外:にぶい赤褐色、内:明赤褐色	B・C・J	ほぼ完成形	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。底部ナデ。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。胴下位～底部は丁寧なヘラナデ。	
	2	土師器	甕	19.0	8.0	33.8	良好	外:赤褐色、内:明赤褐色	B・C・J	口縁部5/6、胴部4/5、底部完成形	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。底部ナデ。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。胴下位～底部は丁寧なヘラナデ。	
	3	土師器	甕	—	7.0	(27.7)	良好	外:にぶい黄褐色、内:黄褐色	B・D・H・J	胴部2/3、底部ほぼ完成形	胴部～底部ヘラケズリ。	胴部は口縁上工具によるナデ後ヘラナデ。底部ヘラナデ。	
	4	土師器	甕	—	7.2	(20.0)	良好	外:明黄褐色、内:にぶい黄褐色	A・D・F・G・J	胴部中位～下位3/4、底部完成形	胴部～底部ヘラケズリ。	胴部～底部ヘラナデ。	内面摩耗。
	5	土師器	甕	17.8	8.1	22.5	良好	外:明赤褐色、内:褐色	B・I・J	口縁部完成形、胴部2/3、底部3/4	口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラナデ。	精選された胎土。
	6	土師器	小形甕	(9.6)	—	(6.9)	良好	外:にぶい黄褐色、内:黄褐色	I・J	口縁部～胴部中位1/3	口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。胴部ヘラナデ後ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。胴部ヘラナデ。	精選された胎土。
	7	土師器	小形甕	15.7	—	(7.2)	良好	内内:明赤褐色	A・F・J	口縁部～胴部上半1/2	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	口縁部～胴部ヘラナデ。	
	8	土師器	直口甕	9.8	—	(9.5)	良好	外:明赤褐色、内:褐色	F・G	口縁部完成形、胴部上半1/3	口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。胴部ヘラナデ後ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。胴部ヘラナデ。	
	9	土師器	高杯	13.8	10.7	15.8	良好	外:赤褐色、内:明赤褐色	B・F・J	杯部3/4、胴部完成形	口縁部ヨコナデ、杯部ヘラナデ。胴部摩耗のため調整不明。	口縁部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。杯部ヘラナデ。胴部ヘラナデ。胴部ヨコナデ。	カマド支脚。
	10	土師器	高杯	—	—	(5.4)	良好	外:明赤褐色、内:赤褐色	B・C・I・N	胴柱部3/4	胴柱部ヨコナデ。	胴柱部ヘラナデ。	
	11	土師器	杯	(14.0)	—	4.9	良好	内内:明赤褐色	A・F・G	1/3	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位～底部ヘラナデ後ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。	
	12	土師器	杯	(13.8)	—	(5.4)	良好	内外:明赤褐色	A・G・(多量)	口縁部～体部1/3	口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。	口縁部～体部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。	
	13	土師器	杯	11.5	—	5.9	良好	内外:明赤褐色	A・F・J・N	ほぼ完成形	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位ナデ。下位～底部ヘラケズリ。	口縁部～体部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。「X」の幅文。	
	14	土師器	杯	11.6	—	6.1	良好	外:にぶい褐色、内:褐色	F・G・J	2/3	口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラミガキ。底部中央にヘラケズリ残る。	口縁部～体部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。「X」の幅文。	内面摩耗。
	15	土師器	小形杯	—	—	(2.3)	良好	外:にぶい褐色、内:灰褐色	F	1/2、口縁部端部欠損	口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	精選された胎土。

第 9 表 遺物観察表 (1)

H-2号住居址遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量			焼成	色調	胎土	成・成形技法の特徴		備考	
				口径	底径	器高				外面	内面		
H-2	1	土師器	甕	16.9	6.3	33.0	普通	外：期 内：にふ い期	A・B・E (大股)・ J	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。下端ナデ。底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。	カマド右掛け。内面摩耗。
	2	土師器	甕	14.2	7.1	26.2	良好	内外：明赤期	A・B・F・I	口縁部3/4。胴部～底部完形	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラケズリ。底部～底部完形	口縁部ハケス。胴部～底部ヘラケズリ。	カマド左掛け。
	3	土師器	小形甕	15.4	2.5	13.5	良好	外：赤 内：明赤期	A・F・G・J	口縁部2/3。胴部～底部完形	口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。	口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部中央～底部ヘラケズリ。端部ナデ。	
	4	土師器	直口甕	13.4	—	(11.7)	良好	内外：明赤期	B・E (幅2～10mm)・G・A	口縁部へラミガキ。胴部ナデ後ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。胴部ナデ後ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。胴部ヘラナデ。	破片をカマド構築材として使用。
	5	土師器	直口甕	9.9	5.1	15.4	良好	内外：明赤期	F (幅2～3mm)	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。下平ヘラケズリ。底部本量産。	口縁部ヘラナデ。胴部～底部ヘラケズリ。	精選された射土。
	6	土師器	高杯	13.4	10.6	11.2	良好	内外：明赤期	A・F・G	杯部ほぼ完形。脚部1/2	口縁部ヨコナデ。杯部ヘラケズリ。脚部ヘラケズリ。縦方向ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ後。放射状ヘラミガキ。杯部ヘラケズリ。脚部上平ヘラケズリ。下平ヨコナデ。	カマド支脚。
	7	土師器	高杯	15.3	11.2	11.0	良好	外：にふ い期 内：にふ い期	A(大股)・ F・J・N	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。杯部～脚部ヘラケズリ。胴部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ後。横方向ヘラミガキ。杯部ナデ後。一方向ヘラミガキ。胴部ヘラケズリ。基部ヨコナデ。	内面は底部の中央は前面磨耗。
	8	土師器	高杯	16.0	11.0	10.0	良好	外：橙 内：にふ い期	A・B・C・F	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。杯部ヘラケズリ。脚部ナデ後。縦方向ヘラミガキ。基部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ後。横方向ヘラミガキ。杯部ナデ後。一方向ヘラミガキ。胴部ヘラケズリ。基部ヨコナデ。	カマド上面出土。口縁部を人為的に打ち欠く。
	9	土師器	杯	12.7	—	4.5	良好	外：明赤期 内：赤期	A・F	完形	口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。放射状ヘラミガキ。底部ヘラケズリ。	カマド上面出土。精選された射土。
	10	土師器	杯	12.2	—	4.6	良好	外：暗緑 内：期	A・B・F	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。体部上平ナデ。体部下平～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後。放射状ヘラミガキ。底部ヘラケズリ。	1の口縁に重なって出土。
	11	土師器	杯	13.8	—	5.3	良好	内外：赤期	A・F (少量)・G	7/8	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部～底部ヨコナデ後。放射状ヘラミガキ。	カマド上面出土。
	12	土師器	杯	14.2	—	5.1	良好	外：にふ い赤期 内：赤期	A・B・F	口縁部完形。体部3/4	口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ後。横方向ヘラミガキ。体部～底部ヘラケズリ。一方向ヘラミガキ。	2の口縁に重なって出土。
	13	土師器	杯	9.6	—	5.8	普通	内外：にふ い期	A・B・F	完形	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。下平～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後。放射状ヘラミガキ。底部ヘラケズリ。	内面摩耗。
	14	土師器	杯	(11.4)	—	(5.7)	良好	内外：にふ い赤期	A・C・G・J	1/3	口縁部ヨコナデ。体部ヘラケズリ。	口縁部～体部ヨコナデ後。放射状ヘラミガキ。	内面摩耗。
	15	須恵器	杯	10.6	—	4.7	還元焼	内外：灰 青リブ	H	口縁部一部欠損	ロクロ整形。体部～底部回転ヘラケズリ。	ロクロ整形。	内面・外面口縁部に漆付着。
	16	須恵器	杯	11.3	—	4.6	還元焼	内外：灰 E・H	H	完形	ロクロ整形。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ整形。	

第10表 遺物観察表(2)

H-3号住居址遺物観察表

遺物名	番付	種類	原種	法量			成・整形技法の特徴					備考	
				口径	底径	高さ	焼成	色調	胎土	残存	外面		内面
H-3	1	土師器	小形甕	15.9	3.6	13.0	良好	内外：明赤褐色 C・F(多量)・J	完形	口縁部ヨコナデ後ヘラナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。		
	2	土師器	杯	15.4	—	(6.9)	良好	内外：明赤褐色 F・J	口縁部～胴部完形	口縁部ヨコナデ。体部上下ヘラナデ。下平ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後。放射状のミズミズ。	精選された胎土。	
	3	土師器	杯	12.6	—	5.1	普通	内外：糖赤褐色 C・F・G	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	口縁部～体部ヨコナデ。底部ヘラナデ。		
	4	土師器	杯	(10.0)	—	4.4	良好	外：明赤褐色 内：黒褐色 A・F	1/2	口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	口縁部～体部ヨコナデ後。放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。	内面黒色処理。	
	5	土師器	杯	10.7	—	5.5	良好	内外：明赤褐色 A・D・F・J	2/3	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位ヘラナデ。体部下位～底部ヘラナデ。	口縁部～体部ヨコナデ後。放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。	内面体部下位は器面割れ。	
	6	土師器	杯	(11.0)	—	4.9	普通	外：赤褐色 内：明赤褐色 B(大粒)・J	1/2	口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラナデ。	口縁部～体部ヨコナデ後。放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。	内面摩耗。	
番付	種類	原種	材質	法量			備考						
				長さ	幅	厚さ	重量						
7	石製品	未成品	磨石	4.4	3.8	1.04	21.13	扁平状の粗彫素材に「ノミ状工具」削状痕が部分的に認められる。					

H-4号住居址遺物観察表①

遺物名	番付	種類	原種	法量			成・整形技法の特徴					備考	
				口径	底径	高さ	焼成	色調	胎土	残存	外面		内面
H-4	1	土師器	甕	18.2	6.3	35.3	普通	内外：にぶい黄褐色 B・D・E・H	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	内面胴下部は器面割れ。	
	2	土師器	甕	18.4	8.8	34.8	普通	内外：にぶい黄褐色 D・F・J	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴部～胴部ヘラナデ。下端ヘラナデ。底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後ヘラナデ。底部ヘラナデ。	内面胴下部摩耗。	
	3	土師器	甕	16.4	6.5	34.4	普通	外：明赤褐色 内：明黄褐色 A・D・F	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴部～胴部ヘラナデ。底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	内面胴下部摩耗。	
	4	土師器	甕	16.2	7.7	31.8	普通	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色 A・D・F	4/5	口縁部ヨコナデ。胴部～胴部ヘラナデ。下端ヘラナデ。底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	内面胴下部摩耗。	
	5	土師器	甕	(18.0)	—	(22.2)	普通	外：にぶい黄褐色 内：糖赤褐色 B・F・J	口縁部～胴部1/2	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。		
	6	土師器	甕	(20.6)	—	(10.8)	普通	内外：糖赤褐色 A・B・F・J	口縁部～胴部上位1/2	口縁部ヨコナデ後。微磨石痕。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。		
	7	土師器	甕	17.0	5.0	25.0	普通	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色 B・D・E・J	ほぼ完形	口縁部ヘラナデ後ハケミ。胴部～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ハケミ。底部ヘラナデ。	カマド惣焼出石土。	
	8	土師器	大形甕	22.6	8.5	28.9	普通	内外：にぶい黄褐色 A・B・F(大粒)	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。一部ヘラナデ。底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。	器形は格鬥式に近む。	
	9	土師器	小形甕	15.4	(5.1)	15.4	良好	内外：明赤褐色 C・F・G	口縁部～胴部完形	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。		
	10	土師器	小形甕	16.3	3.3	10.2	良好	内外：明赤褐色 A・B・F・G	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。	口縁部～胴部ヘラナデ。底部ナデ。		
	11	土師器	高杯	14.6	10.3	11.5	良好	内外：明赤褐色 A・B・F	胴部1/2欠損	口縁部ヨコナデ。杯部ヘラナデ。胴部ヨコナデ後。縦方向ヘラミガキ。	口縁部～杯部ヨコナデ後。斜方向ヘラミガキ。杯底部ヘラナデ。胴部ヘラナデ。	カマド支脚。杯底部は器面割れ。	
	12	土師器	高杯	14.5	10.0	11.6	良好	外：明赤褐色 内：黒褐色 A・F・G・J	胴部1/3	口縁部ヨコナデ。杯部ヘラナデ。胴部～胴部ヨコナデ後。縦方向ヘラミガキ。	口縁部～杯部ヨコナデ後。斜方向ヘラミガキ。杯底部ヘラナデ。「×」の痕文。胴部ヘラナデ。基部ヨコナデ。	内面黒色処理。	

第11表 遺物観察表(3)

H-4号住居址遺物観察表②

遺構名	番号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴							備考
				口径	底径	高さ	構成	色調	胎土	残存	外面		内面	
H-4	13	土師器	高坏	148	—	(11.5)	良好	内外：にぶい赤褐色	A・B・F	外部～脚柱部ほぼ定形	外部～脚柱部ほぼ定形	口縁部～下部ヨコナデ。環部ヘラナデ。脚部ヨコナデ後、縦方向ヘラミガキ。	口縁部～下部ヨコナデ後、斜方向ヘラミガキ。環部ヘラナデ。「×」の暗文。脚部ヘラナデ。	
	14	土師器	高坏	144	—	(10.7)	良好	内外：にぶい赤褐色	F・G・J	外部～脚柱部ほぼ定形	外部～脚柱部ほぼ定形	口縁部～下部ヨコナデ。環部ヘラナデ。脚部ヨコナデ後、縦方向ヘラミガキ。	口縁部～下部ヨコナデ後、斜方向ヘラミガキ。環部ヘラナデ。「×」の暗文。脚部ヘラナデ。	内面黒色処理。
	15	土師器	高坏	(15.1)	—	(7.4)	良好	内外：明赤褐色	A・F・G・J	外部2/3	外部2/3	口縁部ヨコナデ。環部ヘラナデ。脚部ヨコナデ後、縦方向ヘラミガキ。	口縁部～下部ヨコナデ後、斜方向ヘラミガキ。環部ヘラナデ。「×」の暗文。	
	16	土師器	高坏	(15.2)	—	(6.6)	良好	内外：明赤褐色	A・G	外部1/2	外部1/2	口縁部ヨコナデ。環部ヘラナデ。脚部ヨコナデ。	口縁部～下部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。環部一方向ヘラミガキ。脚部ナデ。	
	17	土師器	高坏	100	—	(8.4)	良好	内外：黒	A・F	外部～脚柱部	外部～脚柱部	口縁部ヨコナデ。環部ヘラナデ。放射状ヘラミガキ。脚部ヘラナデ。縦方向ヘラミガキ。	口縁部～下部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。環部ヘラナデ。脚部ヘラナデ。	
	18	土師器	坏	112	—	8.0	良好	内外：赤褐色	D・F	ほぼ定形	ほぼ定形	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位ナデ。体部下位～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。	
	19	土師器	坏	(15.3)	—	5.7	良好	内外：にぶい赤褐色	A・F・G・J	口縁部1/3、体部～底部4/5	口縁部1/3、体部～底部4/5	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位ナデ。体部下位～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。	
	20	土師器	坏	(14.0)	—	(4.7)	普通	内外：黒	A・D・F・J	1/3	1/3	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位～底部ヘラナデ。	口縁部～体部上位ヨコナデ。放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。暗文「×」カ。	
	21	土師器	坏	12.6	—	5.6	良好	外：灰黄褐色。内：にぶい赤褐色	A・D	ほぼ定形	ほぼ定形	口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ後、横方向のヘラミガキ。体部上半斜方向ヘラミガキ。体部下半～底部ヘラナデ。	
	22	土師器	坏	11.1	—	5.5	良好	内外：にぶい赤褐色	A・D・F・J	ほぼ定形	ほぼ定形	口縁部～体部上半ヨコナデ。体部下半～底部ヘラナデ。	口縁部～体部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。	
	23	土師器	坏	10.6	—	6.0	普通	外：褐色。内：明褐色	A・F・G	ほぼ定形	ほぼ定形	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位～底部ヘラナデ。	口縁部～体部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。	
	24	土師器	坏	14.8	—	5.7	良好	外：明赤褐色。内：黒	A・B・F	定形	定形	口縁部ヨコナデ。体部ナデ。環部ヘラナデ。	口縁部～底部ヨコナデ後、横・斜方向ヘラミガキ。	内面黒色処理。
	25	土師器	坏	14.8	—	5.6	良好	外：黒。内：黒	A・C・F	4/5	4/5	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位ナデ。体部下位～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ後、横・斜方向ヘラミガキ。体部～底部ナデ後、環部ヘラミガキ。	内面黒色処理。
	26	須恵器	甗	11.9	—	11.3	還元焼	内外：灰	I・L	口縁部1/3、胴部～底部定形	口縁部1/3、胴部～底部定形	ロクロ整形。口縁部4条1単位の波状文。胴部11条1単位の波状文。体部中位2条の横位波線間に7条1単位の波状文。体部下半～底部回転ヘラナデ。	ロクロ整形。底部ナデ。指頭圧痕。	外面頸部～胴部。内面口縁部～胴部。底部に白然釉。孔径1.45×1.45cm。

第12表 遺物観察表(4)

H-5号住居遺物観察表

遺構名	番号	種類	部種	法量			成・形状技法の特徴						備考
				口径	底径	器高	構成	色調	胎土	残存	外面		
H-5	1	土師器	甕	16.8	4.4	30.8	普通	内外：橙	B・E・F	口縁部定形、胴部4/5、底部定形	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。底部ナデ。	口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。	
	2	土師器	甕	16.9	(5.0)	33.6	普通	内外：にぶい期	B・E・F	口縁部定形、胴部4/5、底部1/2	口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ。	口縁部～底部ヘラケズリ。	
	3	土師器	甕	—	—	(19.0)	普通	内外：橙	B(多量)・F	胴部～底部4/5	胴部～底部ヘラケズリ後ヘラミガキ。	胴部ヘラケズリ後、下位～底部ヘラミガキ。	
	4	土師器	甕	—	(6.4)	(26.4)	普通	外：にぶい期、内：にぶい期	B・D・E・F・J	胴部1/3、底部2/3	胴部～底部ヘラケズリ。	胴部～底部ヘラケズリ。	
	5	土師器	甕	16.8	—	(5.5)	普通	内外：橙	B(多量)・E・F	口縁部～胴部上位3/4	口縁部ヨコナデ後ハケメ、胴部上位ヘラケズリ。	口縁部～胴部上位ハケメ。	外面口縁部摩耗。
	6	土師器	大型甕	22.0	9.3	28.2	普通	内外：にぶい期	A・D・F・J	口縁部2/3、胴部～底部ほぼ定形	口縁部ヨコナデ、胴部～胴部ヘラケズリ、一部にヘラケズリ、底部ナデ。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。底部ナデ。	
	7	土師器	大型甕	25.6	9.8	26.2	普通	内外：橙	A・B・C・F・G	ほぼ定形	口縁部ヨコナデ、胴部上下ヘラケズリ、胴部ト下ヘラケズリ、底部ナデ。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。	
	8	土師器	甕	17.0	—	(15.6)	普通	外：橙、内：にぶい期	D・E	口縁部～胴部上半1/3	口縁部ヨコナデ後ハケメ、胴部ヘラケズリ。	口縁部ハケメ、胴部ヘラケズリ。	
	9	土師器	甕	19.0	—	(19.8)	普通	外：にぶい期、内：にぶい期	B・D・E・G	口縁部1/2、胴部上半1/3	口縁部ヘラケズリ、中位に強い稜をもつ、胴部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。	
	10	土師器	甕	17.4	—	(7.2)	良好	外：明赤期、内：橙	B・F・J	口縁部定形	口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ、胴部上位ヘラケズリ。	
	11	土師器	甕	—	—	(4.8)	良好	外：明赤期、内：赤期	G・F・J	胴部下位2/3、胴部2/3	胴部下位ヘラケズリ後、ヘラミガキ、底部ヘラケズリ。	胴部下位～底部ヘラケズリ。	
	12	土師器	高坏	13.8	9.1	9.3	良好	内外：にぶい期	A・F・J	坏部～胴部定形、胴部3/4	口縁部ヨコナデ、坏部～胴部ヘラケズリ、胴部ヨコナデ。	口縁部～坏部ヨコナデ後、斜方向ヘラミガキ、坏部ナデ。胴部ヘラケズリ、胴部ヨコナデ。	カマド支脚、坏内底部摩耗。
	13	土師器	高坏	—	—	(4.3)	良好	外：にぶい期、内：橙	F・G	坏底部2/3、胴部柱部1/4	坏部～胴部ヘラケズリ。	坏部ヘラケズリ。	
	14	土師器	坏	(13.7)	—	(5.0)	良好	外：明赤期、内：黒	D・J	2/3	口縁部～胴部上位ヨコナデ、胴部中位ナデ、胴部下位ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ、胴部上～中位ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ、胴部下位ヘラケズリ。	内面黒色処理。
	15	土師器	坏	12.6	—	5.9	普通	外：にぶい期、内：にぶい期	A・F	2/3	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。	口縁部～胴部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ、胴部下位ヘラケズリ。	
	16	土師器	坏	11.0	—	5.1	普通	内外：明赤期	A・B・F	3/4	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラケズリ。底部ヘラケズリ。	口縁部～胴部中位ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ、胴部下位～底部ヘラケズリ。	
	17	土師器	坏	11.8	—	4.7	良好	外：明赤期、内：黒	D・F・G	3/4	口縁部ヨコナデ、胴部～底部ヘラケズリ後、底部ヘラミガキ。	口縁部～胴部中位ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ、胴部下位～底部ヘラケズリ。	内面黒色処理。
	18	土師器	坏	10.0	—	5.5	普通	外：明赤期、内：にぶい期	B・F	口縁部	口縁部～胴部上半ヨコナデ、胴部下位～底部ヘラケズリ。	口縁部～胴部中位ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ、胴部下位～底部ヘラケズリ。	

第13表 遺物観察表(5)

H-6号住居址遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴						備考
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	
H-6	1	土師器	甕	18.0	—	(24.3)	普通	内外：明赤期	A・F・J	口縁部はほぼ定形形、胴部3/4	口縁部ヨコナデ後、指頭直。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部上段木口状工具によるナデ、中～下位へラナデ。	
	2	土師器	甕	20.0	—	(11.3)	普通	内外：明赤期	A・E・J	口縁部～胴部上位2/3	口縁部ヨコナデ後、指頭直。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部へラナデ。	
	3	土師器	小形ロケ口甕 (11.6)	6.8	13.1		酸化焼	外：にぶい赤。内：にぶい黄緑	D・I・J	口縁部～胴部2/3、底部定形	ロケ口整形。底部右回転糸切り無調整。	ロケ口整形。	精度された胎土。
	4	土師器	小形ロケ口甕 (8.9)	5.4	9.3		酸化焼	外：明赤。内：明赤期	A・B・F	口縁部1/3、胴部4/5、底部定形	ロケ口整形。胴部上へラケズリ。底部左回転糸切り無調整。	ロケ口整形。	外面胴部下平は器面約縁。
	5	土師器	小形ロケ口甕 (12.7)	—	(10.6)		酸化焼	内外：にぶい赤	B・F・J	口縁部～胴部1/3	ロケ口整形。	ロケ口整形。	精度された胎土。
	6	土師器	甕 (20.8)	—	(20.4)		普通	内外：浅黄緑	B・J・K	口縁部～胴部1/4	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部上段木口状工具によるナデ。胴部中位～下位へラナデ。	外面胴部上位厚土。7段胎土が類似。
	7	土師器	甕 (19.4)	—	(12.3)		普通	内外：浅黄緑	A・B・J・K	口縁部～胴部上平1/2	口縁部ヨコナデ。胴部へラケズリ後、指頭直。	口縁部ヨコナデ。胴部上段木口状工具によるナデ。胴部中位へラナデ。	6に胎土が類似。
番号	種類	器種	材質	法量			備考						
8	石製品	磨石	内間石 安山岩	長さ	幅	厚さ	重量	完形。上面に平面な範囲あり。					
				5.6	5.1	4.0	74.1						

H-7号住居址遺物観察表①

遺構名	番号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴						備考
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	
H-7	1	土師器	甕	18.2	(8.4)	27.3	普通	内外：にぶい赤	A・B・D・F	口縁部定形形、胴部2/3、底部1/3	口縁部ヨコナデ。胴部～底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部～底部へラナデ。	
	2	土師器	甕 (17.4)	(7.6)	31.1	普通	内外：赤期	D・F・G	3/4	口縁部ヨコナデ。胴部～底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ後、指頭直。胴部へラナデ。下位に部分的なへラケズリ。底部へラナデ。	内面胴部上位厚土。	
	3	土師器	甕	15.6	5.0	20.0	普通	内外：にぶい黄緑	A・D (多量)・F	ほぼ定形	口縁部ヨコナデ。胴部～底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部～底部へラナデ。	外面厚土。
	4	土師器	直口甕	10.6	—	(5.3)	良好	内外：明赤期	F・G・J	口縁部3/4	口縁部ヨコナデ後へラミガキ。胴部へラナデ後へラミガキ。	口縁部ヨコナデ後へラミガキ。胴部へラナデ。	
	5	土師器	高環	15.5	10.4	11.1	良好	内外：明赤期	A・G・J	口縁部一部欠損	口縁部～環部ヨコナデ。環部へラケズリ。胴部～胴部ヨコナデ後、腕方内へラミガキ。	口縁部～環部ヨコナデ。放射状へラミガキ。「×」の痕文。胴部へラナデ。胴部ヨコナデ。	カマド支脚。
	6	土師器	高環 (15.4)	—	(5.4)	良好	内外：明赤期	F・G・J	環部1/2	口縁部ヨコナデ。環部へラナデ。	口縁部～環部ヨコナデ後、放射状へラミガキ。環部へラナデ。環文「×」を。		
	7	土師器	高環 (15.6)	—	(5.6)	良好	外：にぶい赤。内：明赤期	B・F・J	環部1/3	口縁部ヨコナデ。環部ナデ。	口縁部～環部ヨコナデ後、放射状へラミガキ。	外面厚土。環部は器面約縁。	
	8	土師器	高環	14.8	(9.2)	9.4	良好	内外：明赤期	A・B・F・G・J	口縁部～胴部上部はほぼ定形。胴部1/4	口縁部ヨコナデ。環部～胴部へラナデ。胴部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ後、放射状へラミガキ。環部へラナデ。胴部ヨコナデ。	内面環部は器面約縁。
	9	土師器	高環	14.4	10.8	11.4	良好	外：明赤期。内：赤期	A・F・G	環部1/3、胴部はほぼ定形	口縁部ヨコナデ。環部へラナデ。胴部～胴部ヨコナデ。	口縁部ヨコナデ。環部ヨコナデ後、放射状へラミガキ。胴部～胴部へラナデ。	
	10	土師器	高環	12.7	—	(5.6)	普通	内外：明赤期	A・F・G・J	環部4/5	口縁部ヨコナデ。環部へラナデ。	口縁部ヨコナデ。環部ヨコナデ後、放射状へラミガキ。	内面厚土。

第14表 遺物観察表(6)

H-7号住居址遺物観察表②

遺構名	番号	種類	原種	法量			傾成	成・整形技法の特徴				備考	
				口径	底径	高さ		色遣	胎土	器存	器面		内面
H-7	11	土師器	高坏	(15.2)	(9.6)	10.2	良好	内外：にぶい赤褐色	D・J	坏部 1/4、脚部 1/2	口縁部ヨコナデ後指通し施。坏部～脚部中位へラナデ。脚部下位～底部ヨコナデ。	口縁部～坏部ヨコナデ。坏底部～脚部ヘラナデ。底部ヨコナデ。	積造された胎土。
	12	土師器	高坏	(14.0)	9.2	10.3	良好	内外：にぶい赤褐色	C・F・J	坏部 4/5、脚部 3/4	口縁部ヨコナデ。坏部へラナデ。脚部～底部ヨコナデ。	口縁部～坏部ヨコナデ後。放射状ヘラミガキ。坏底部へラナデ。脚部ヨコナデ。	
	13	土師器	高坏	—	(9.7)	(6.7)	普通	内外：橙	A(多量)・G・F	坏底部～脚部2/3	坏部へラナデ。脚部～底部ヨコナデ。坏方内へラミガキ。	坏底部器面削磨のため器底不明。脚部～底部へラナデ。	
	14	土師器	高坏	—	(10.0)	(5.1)	良好	内外：にぶい赤褐色	F・G・J	脚部3/4	脚部～底部ヨコナデ。	脚部～底部ヨコナデ。	
	15	土師器	碗	14.1	—	(9.5)	普通	内外：橙	A・B・C	口縁部～体部3/4	口縁部ヨコナデ。体部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部へラナデ。	
	16	土師器	碗	14.0	—	7.7	普通	内外：にぶい黄褐色	B・F・G	口縁部2/3、体部～底部完形	口縁部ヨコナデ。体部上半ナデ後、器底圧痕。体部下半～底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部～底部へラナデ。	
	17	土師器	坏	16.0	—	8.4	良好	内外：赤褐色	A・F・G	3/4	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位ナデ。体部下位～底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。底部へラケズリ。	
	18	土師器	坏	15.1	—	(5.0)	普通	内外：明赤褐色	A・F・G・J	口縁部～体部1/2	口縁部ヨコナデ。体部摩耗のため調整不明。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後、放射状へラミガキ。	
	19	土師器	坏	13.6	—	5.2	普通	内外：明赤褐色	A・C・F・G	4/5	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位～底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後、放射状へラミガキ。底部へラナデ。	
	20	土師器	坏	14.0	—	5.6	普通	内外：明赤褐色	A・C・G	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。体部～底部へラケズリ。	口縁部～体部ヨコナデ後。放射状へラミガキ。底部へラナデ。体部～底部に「一」の暗文。	
	21	土師器	坏	14.0	—	5.0	良好	内外：赤褐色	A・F・J	口縁部3/4、体部～底部5/6	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位へラナデ。体部下位～底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後放射状へラミガキ。底部へラナデ。「一」の暗文。	
	22	土師器	坏	12.8	—	4.4	普通	内外：明赤褐色	A・C・G	ほぼ完形	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位ナデ。体部下位～底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後、放射状へラミガキ。底部へラナデ。	
	23	土師器	坏	13.2	—	3.6	良好	内外：明赤褐色	A・C・G	ほぼ完形	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位ナデ。体部下位～底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後、放射状へラミガキ。底部へラナデ。	
	24	土師器	坏	(14.0)	—	(5.0)	普通	内外：明赤褐色	F・G	1/2	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位～底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後、放射状へラミガキ。底部へラナデ。	
	25	土師器	坏	(13.2)	—	4.8	普通	内外：明赤褐色	A・B・G・J	2/3	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位ナデ。体部下位～底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後、放射状へラミガキ。底部へラナデ。	
	26	土師器	坏	(13.6)	—	(6.5)	普通	外：にぶい赤褐色 内：黒	A・B・G・J	口縁部～体部1/3	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位へラナデ。体部下位へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部下半部～底部へラナデ。	内面黒色処理。
	27	土師器	坏	(12.6)	—	5.9	普通	外：にぶい赤褐色 内：黒	A・D・G・J	口縁部1/8、体部1/4、底部ほぼ完形	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位～底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後、放射状へラミガキ。底部へラナデ。	内面黒色処理。
	28	土師器	坏	(12.8)	—	4.7	普通	外：橙 内：にぶい褐色	A・1・J	口縁部1/8、体部1/4、底部ほぼ完形	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位ナデ。底部へラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部摩耗のため調整不明。底部へラナデ。	
	29	土師器	坏	(11.6)	—	4.9	普通	外：にぶい赤褐色 内：灰黄褐色	A・F・G	1/3	口縁部ヨコナデ。体部へラナデ。底部へラケズリ。	口縁部～体部ヨコナデ後。放射状へラミガキ。底部へラナデ。	

第15表 遺物観察表(7)

H-7号住居址遺物観察表③

遺物名	番号	種類	器種	法量			焼成	色調	胎土	成・整形技法の特徴			備考
				口径	底径	器高				残存	外面	内面	
H-7	30	土師器	坏	11.4	—	5.9	普通	内外：明赤褐色	A・F・G	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。体部ナデ。底部ヘラケズリ。	口縁部～体部ヨコナデ後。放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。	
	31	土師器	坏	(12.0)	—	5.6	普通	内外：明赤褐色	A・F・G	1/3	口縁部ヨコナデ。体部～底部帯彫りのため調整不明。	口縁部～体部中位ヨコナデ後。放射状ヘラミガキ。体部下位～底部ヘラナデ。	

H-8号住居址遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量			焼成	色調	胎土	成・整形技法の特徴			備考
				口径	底径	器高				残存	外面	内面	
H-8	1	須恵器	羽釜	(20.7)	—	(16.5)	酸化焼	外：褐灰 内：灰黄褐色	A・B・C・F	口縁部～胴部1/4	ロクロ整形。胴部下位ヘラケズリ。磨削付。	ロクロ整形。	
	2	土師器	小形ロクロ口甕	(14.2)	(7.0)	15.5	酸化焼	外：黄褐色 内：明黄褐色	B・C・D・F	口縁部1/10、胴部1/3、底部1/8	ロクロ整形。胴部下ヘラケズリ。底部ナデ。	ロクロ整形。	
	3	須恵器	坏	(14.8)	(7.5)	4.8	酸化焼	内外：濃い黄褐色	A・B・F	1/4	ロクロ整形。底部回転ヘラケズリ。	ロクロ整形。	
	4	須恵器	坏	(11.0)	(6.0)	3.5	酸化焼	内外：濃い黄褐色	B・K	1/3	ロクロ整形。底部回転車切り無調整。	ロクロ整形。	
	5	須恵器	坏	(9.6)	5.2	3.5	酸化焼	外：褐色 内：黄褐色	A・C・F	口縁部～体部1/4、底部完形	ロクロ整形。底部右回転車切り無調整。	ロクロ整形。	
	番号	種類	器種	材質	法量					備考			
6	瓦製品	刀子	瓦	長さ(18.3)	幅1.2	厚さ0.4	重量20.11	端部欠損。					

H-9号住居址遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量			焼成	色調	胎土	成・整形技法の特徴			備考
				口径	底径	器高				残存	外面	内面	
H-9	1	土師器	甕	16.5	—	25.7	普通	外：赤い 内：灰黄褐色	A・B・F・M	口縁部2/3、胴部～底部ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	内底部は器面剥離。
	2	土師器	甕	14.8	(6.6)	22.1	普通	外：褐色 内：明赤褐色	A・F・J	口縁部～胴部1/2、底部1/4	口縁部ヨコナデ。胴部上位ヘラナデ。中～下位ヘラケズリ。底部ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ。胴部上位ヘラケズリ。下部ヘラナデ。底部ヘラケズリ後ヘラミガキ。	
	3	土師器	高坏	13.7	—	(8.3)	普通	外：褐色 内：濃い黄褐色	C・F(多数)	坏部ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ後彫りハケム。胴部ヘラナデ。	口縁部～胴部ヘラナデ。	
	4	土師器	高坏	—	(11.0)	(7.0)	良好	内外：黒褐色	A・C・F・M	脚柱部完形。胴部1/4	胴部ヘラナデ後、縦方向ヘラミガキ。胴部ヘラナデ後、放射状ヘラミガキ。	坏底部ヘラナデ後ヘラミガキ。胴部ヨコナデ。	
	5	土師器	鉢	13.3	5.4	6.6	普通	内外：明赤褐色	A・F・G	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。体部～底部ヘラナデ。	焼成後に底部穿孔。孔径2.5×2.4cm。

H-10号住居址遺物観察表①

遺物名	番号	種類	器種	法量			焼成	色調	胎土	成・整形技法の特徴			備考
				口径	底径	器高				残存	外面	内面	
H-10	1	土師器	小形甕	10.2	6.5	11.0	普通	内外：明褐色	B・C・F・J	口縁部～胴部4/5、底部1/2	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。底部ヘラケズリ。	口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	外面胴部中位摩耗。
	2	土師器	小形甕	11.3	4.6	7.1	普通	外：赤褐色 内：褐色	B・C・F・J	口縁部～胴部3/4、底部完形	口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	
	3	土師器	小形甕	9.2	2.4	8.2	普通	内外：明赤褐色	A・F・J	ほぼ完形	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。下部ヘラケズリ。底部ナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後ヘラミガキ。底部ヘラナデ。	

第16表 遺物観察表(8)

## H-10 号住居址遺物観察表②

遺構名	基号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴							備考
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面		
H-10	4	土師器	高坏	(19.0)	—	(6.2)	良好	外:赤褐色 内:にぶい黒	A・C・F	残存 1/4	口縁部ヨコナデ。坏部ヘラナデ。	口縁部～坏部ヨコナデ後放射状ヘラミガキ。坏底部ヘラナデ。		
	5	土師器	坏	12.6	—	5.0	普通	外:にぶい赤褐色 内:灰褐色	A・F・G	1/2	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。		
	6	土師器	坏	(13.8)	—	4.6	普通	外:にぶい赤褐色 内:黒褐色	A・B・D	1/2	口縁部ヨコナデ。体部ヘラナデ。底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。	内面黒色処理。	
	7	須恵器	坏	(10.2)	—	(3.1)	還元焼	内外:灰白	B	口縁部 1/8	ロクロ整形。体部回転ヘラナデ。	ロクロ整形。		

## H-11 号住居址遺物観察表

遺構名	基号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴							備考
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面		
H-11	1	土師器	甕	(19.7)	—	(25.2)	普通	外:にぶい黄褐色 内:にぶい黒	A・D・F・J	口縁部～胴部 1/4	口縁部ヨコナデ後、指節上皿。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ。		
	2	土師器	甕	(18.0)	(6.4)	(27.2)	普通	内外:にぶい黒	B・D・F・J	1/3	口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。		
	3	須恵器	坏	(13.8)	7.3	3.6	還元焼 灰濁	外:にぶい黄褐色 内:灰褐色	B(大粒)・F	口縁部～体部 2/3、底部定形	ロクロ整形。底部右回転糸切り無調整。	ロクロ整形。		
	4	須恵器	坏	(14.4)	7.6	3.9	還元焼 灰濁	内外:灰白	A・I	口縁部～体部 1/2、底部定形	ロクロ整形。底部右回転糸切り無調整。	ロクロ整形。		
	5	須恵器	甕	14.9	6.6	5.7	還元焼	内外:灰白	B	定形	ロクロ整形。底部回転糸切り。高台部分時に周縁ナデ。	ロクロ整形。		
	6	須恵器	甕	15.3	7.3	5.4	還元焼 灰濁	外:灰褐色 内:灰褐色	F	口縁部～体部一部欠損	ロクロ整形。底部回転糸切り。高台部分時に周縁ナデ。	ロクロ整形。		
基号	種類	器種	材質	法量				備考						
7	石製品	磨石	安山岩	長さ	幅	厚さ	重量	定形。上面に平滑な磨面あり。						
				3.4	2.1	1.9	17.96							

## H-12 号住居址遺物観察表

遺構名	基号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴							備考
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面		
H-12	1	土師器	坏	14.6	—	7.1	良好	内外:明赤褐色	A・F・C・J	定形	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位ヘラナデ。体部下位～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。体部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。		
	2	土師器	坏	12.4	—	5.3	普通	内外:明赤褐色	C・F・G	ほぼ定形	口縁部～体部上位ヨコナデ。体部中位ヘラナデ。体部下位～底部ヘラナデ。	口縁部～体部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。	内面黒色処理の可能性あり。	
	基号	種類	器種	材質	法量				備考					
3	石製品	磨石	安山岩	長さ	幅	厚さ	重量	定形。上面に平滑な磨面あり。						
				3.4	3.0	2.2	24.3							

## H-13 号住居址遺物観察表①

遺構名	基号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴							備考
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面		
H-13	1	土師器	甕	20.6	4.6	36.6	良好	内外:明赤褐色	C(多量)・F・N	口縁部定形。胴部 3/4、底部定形	口縁部ヨコナデ後、指節上皿。胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部ヘラナデ後ヘラミガキ。底部ヘラナデ。		
	2	土師器	甕	(18.0)	—	(16.1)	良好	内外:赤褐色	C・F・J	口縁部 1/4、胴部 1/2	口縁部ヨコナデ。胴部上下ヘラナデ後ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ。胴部上下ヘラナデ。		
	3	土師器	大形鉢	(20.8)	(7.5)	(15.1)	普通	内外:明赤褐色	A・C・F・J	1/2	口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ。胴部～底部ヘラナデ。		

第 17 表 遺物観察表 (9)

H-13号住居址遺物観察表②

遺物名	番号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴						備考
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	
H-13	4	土師器	大形甕	244	9.6	33.1	普通	内外：明赤褐色 A・B・C・F・J・O	ほぼ完全形	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ。胴部ヘラナデ。底部ナデ。		
	5	土師器	大形甕	25.1	10.0	27.3	良好	内外：明赤褐色 A・F・J	口縁部2/3、底部完全形	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ。胴部ヘラナデ。		
	6	土師器	小形甕	130	—	(13.2)	良好	外：明赤褐色、内：にぶい赤褐色 C・F・G	口縁部完全形、胴部上下1/2	口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。胴部ヘラナデ後ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ後ヘラミガキ。胴部ヘラナデ。		
	7	土師器	小形甕	100	—	14.2	良好	外：にぶい赤褐色 内：にぶい赤褐色 A・F・G	ほぼ完全形	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ後ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ後まぼろしヘラミガキ。		
	8	土師器	高坏	146	10.4	9.8	良好	内外：明赤褐色 B・C・F・O	ほぼ完全形	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、腹方向ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ、放射状ヘラミガキ。胴部ヘラナデ、腹面上平ヘラナデ、下半ヨコナデ。	カマド支脚。	
	9	土師器	高坏	152	—	(7.7)	良好	外：明赤褐色、内：にぶい赤褐色 A・B・J	外部～胴部上位ほぼ完全形	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、腹方向ヘラミガキ。	口縁部～外部上反ヨコナデ後放射状ヘラミガキ。胴部下位～底部ヘラナデ。「X」の施文。腹部ナデ。		
	10	土師器	高坏	100	9.3	10.4	良好	内外：にぶい赤褐色 A・F・G	2/3	口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ、腹方向ヘラミガキ。	口縁部ヨコナデ後放射状ヘラミガキ。胴部ヘラナデ後ヘラミガキ。腹部ヘラナデ、腹部ヨコナデ。		
	11	土師器	高坏	—	10.1	(7.0)	普通	内外：暗赤褐色 A・G・I・J	胴部ほぼ完全形、底部1/2	外部ヘラナデ、胴部～腹部ヨコナデ。	外部ヘラナデ、胴部～腹部ヨコナデ。		
	12	土師器	高坏	—	—	(9.2)	良好	内外：明赤褐色 A・B・J	ほぼ完全形	外部ヘラナデ後、放射状ヘラミガキ。胴部腹方向ヘラミガキ。	外部ヘラナデ後、放射状ヘラミガキ。胴部ヘラナデ。	三方の透かし孔。	
	13	土師器	坏	140	—	7.3	普通	内外：明赤褐色 A・B・(大輪)・F・O	ほぼ完全形	口縁部ヨコナデ、体部上平ナデ。体部下平～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ、体部～底部ヨコナデ後、腹方向ヘラミガキ。	内面体部～底部磨耗。	
	14	土師器	坏	(15.0)	—	(6.4)	良好	内外：にぶい赤褐色 B・F・J	口縁部～体部1/4	口縁部～体部上位ヨコナデ、体部中～下位ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ後、腹方向ヘラミガキ。	内面体部磨耗。	
	15	土師器	坏	152	—	7.0	普通	内外：明赤褐色 A・F・G・J	3/4	口縁部～体部上位ヨコナデ、体部中位ヘラナデ。体部下位～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ、放射状ヘラミガキ。胴部ヘラナデ。		
	16	土師器	坏	130	—	4.5	良好	内外：明赤褐色 A・J	2/3	口縁部～体部上位ヨコナデ、体部中位ナデ。体部下位～底部ヘラナデ。	口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。胴部ヘラナデ。		
	17	土師器	坏	(12.5)	—	(5.5)	良好	内外：明赤褐色 B・F・J	口縁部～体部1/3	口縁部～体部上位ヨコナデ、体部中～下位ヘラナデ。	口縁部～体部中位ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。体部下位ヨコナデ後、横放射状ヘラミガキ。		
	18	土師器	坏	123	—	5.2	良好	内外：明赤褐色 A・G	2/3	口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	口縁部～体部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。体部下位に横方向ヘラミガキ。底部ヘラナデ。		
	19	土師器	坏	(12.3)	—	(5.0)	普通	内外：暗赤褐色 A・F・G	口縁部～体部1/2	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。	口縁部～体部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。	内面磨耗。	
	20	土師器	坏	112	—	6.0	普通	外：にぶい赤褐色、内：にぶい赤褐色 A・C・F	ほぼ完全形	口縁部ヨコナデ、体部上平ナデ。体部下平～底部ヘラナデ。	口縁部～体部ヨコナデ後、放射状ヘラミガキ。底部ヘラナデ。		
	21	土師器	坏	9.4	—	2.9	普通	内外：明赤褐色 A・B・F・J	完全形	口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	口縁部～底部ヘラナデ。		
	22	土師器	手捏ね	6.4	—	2.8	普通	内外：明赤褐色 A・J	ほぼ完全形	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ。底部ヘラナデ。	口縁部～底部ヘラナデ。		

第18表 遺物観察表(10)

H-13号住居址遺物観察表②

遺物名	番号	種類	器種	法量				成・整形技法の特徴						備考
				口径	底径	器高	燒成	色調	胎土	残存	外面	内面		
H-13	23	土師器	手捏鉢	(7.1)	—	5.1	普通	内外：明赤褐色	A・C・F	残存	口縁部ヨコナデ、体部1/5、体部1/3、底部完形	口縁部ヨコナデ、体部～底部ヘラナデ。	口縁部～底部ヘラナデ。	
	番号	種類	器種	胎土	法量				備考					
	24	土製品	土玉	C・I	1.4	1.3	1.3	2.11	燒成：普通。色調：にぶい黄褐色。残存：完形。成・整形技法の特徴：ナデ。孔径0.7×0.4cm。					

D-1号土坑遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量				成・整形技法の特徴						備考
				口径	底径	器高	燒成	色調	胎土	残存	外面	内面		
D-1	1	陶器	甕	—	—	—	良好	外：暗赤、内：にぶい赤褐色	ナター ト・右裏・白色粒	残存	胴部片	ヘラナデ。	当て具取。	

D-3号土坑遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量				成・整形技法の特徴						備考	
				口径	底径	器高	燒成	色調	胎土	残存	外面	内面			
D-3	1	軟質陶器	内口罎	—	—	(5.5)	普通	内外：にぶい黄褐色	白色粒・褐色粒・金雲母	残存	胴部片	ヘラナデ。	ヘラナデ。内山段縁部ナデ。		
	2	磁器	甕	—	—	—	普通	内外：灰白、外裏：明青灰	—	残存	胴部片	ロクロ整形。	ロクロ整形。	局文。	
	番号	種類	器種	材質	法量				備考						
		3	石製品	茶臼	安山岩	(35.9)	(34.4)	12.7	8.963	下白。白面以外の箇所は漆を塗布。					
		4	石製品	穀物臼	安山岩	(20.6)	(13.6)	10.0	2.069	上白。縁の一部に打ち欠き痕が認められる。					
		5	石製品	五輪塔	安山岩	22.2	23.0	13.2	4.300	水輪。内面を打ち欠き穿孔させる。判断不能だが梵字と思われる線刻あり。					
		6	石製品	板碑	緑泥片岩	(17.7)	(19.5)	3.2	1.298	漆塗が認められる。					
		7	銅の関連遺物	鍍金銅	鉄	7.4	9.0	3.2	201	一部ガラス質化が認められる。発色が著しい。					
	8	銭貨	政和通寶	銅	2.6	2.5	0.1	3.3	北宋銭。1111年初鋳。						

D-11号土坑遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量				成・整形技法の特徴						備考
				口径	底径	器高	燒成	色調	胎土	残存	外面	内面		
D-11	1		かわらけ	7.3	5.5	1.8	普通	内外：にぶい黄褐色	褐色胎土	3/4残	ロクロ整形。底部回転糸切り後ナデ。	ロクロ整形。見込み単方向のナデ。	口縁部油煙付着。	

D-18号土坑遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量				成・整形技法の特徴						備考
				口径	底径	器高	燒成	色調	胎土	残存	外面	内面		
D-18	1		かわらけ	10.7	6.2	2.6	普通	内外：暗褐色胎土	4/5残	ロクロ整形。底部回転糸切り無調整。	ロクロ整形。見込み単方向のナデ後段縁部ナデ。			
	2		かわらけ	8.3	6.3	1.7	普通	内外：暗褐色胎土	完形	ロクロ整形。底部回転糸切り無調整。	ロクロ整形。見込み単方向のナデ。			
	3		かわらけ	8.3	4.8	2.7	普通	内外：にぶい黄褐色	褐色胎土	一部欠損	ロクロ整形。底部回転糸切り後浅い板口張の圧痕。	ロクロ整形。見込み単方向のナデ。		
	番号	種類	器種	材質	法量				備考					
		4	銭貨	天祐通寶	銅	2.5	2.5	0.1	3.0	北宋銭。1096年初鋳。				
		5	銭貨	洪武通寶	銅	2.5	2.5	0.1	3.4	北宋銭。1368年初鋳。				
		6	銭貨	判読不能	銅	2.4	2.4	0.9	2.2	判読不能。				
		7	銭貨	宣徳通寶	銅	2.6	2.6	0.2	2.9	1433年初鋳。				
		8	銭貨	洪武通寶	銅	2.4	2.4	0.2	3.6	北宋銭。1368年初鋳。				
	9	銭貨	洪武通寶	銅	2.4	2.4	0.1	2.1	北宋銭。1368年初鋳。					

D-23号土坑遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量				成・整形技法の特徴						備考
				口径	底径	器高	燒成	色調	胎土	残存	外面	内面		
D-23	1		かわらけ	(8.2)	(5.8)	1.8	普通	外：にぶい黄褐色。内：にぶい黄褐色	白色胎土	1/4残	ロクロ整形。底部回転糸切り無調整。	ロクロ整形。		

第19表 遺物観察表(11)

## D-33号土坑遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	材質	法量				備考
					長さ	幅	厚さ	重量	
D-33	1	瓦	丸瓦	—	5.00	4.40	1.9	—	凸面：布目肌。ヘラナデ。 凹面：ヘラナデ

## D-47号土坑遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	材質	法量				成・整形技法の特徴				備考	
					口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面		内面
D-47	1	青磁	碗	—	—	—	—	堅緻	内外：灰 オリーブ	—	口縁部片	—	—	—

## D-53号土坑遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	材質	法量				成・整形技法の特徴				備考
					口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	
D-53	1		かわらけ	15.2	8.6	3.8	普通	内外：磨 褐色・ 白色粒	—	1/3残	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。見込み 単方向の子デ	—
	2		かわらけ	7.8	5.0	1.8	普通	内外：磨 褐色・ 黒色風物	—	1/3 欠損	ロクロ整形。底部回 転糸切り後一部ナデ。	ロクロ整形。見込み 単方向の子デ後現縁 部ナデ。	—
	3	陶器	碗	13.0	—	(6.0)	堅緻	内外：に ぶい肌。 釉：黒	—	—	ロクロ整形。	ロクロ整形。	蹴動を強 軸
	4	陶器	部り鉢	31.4	10.4	13.2	還元焼	内外：灰 白色粒・ 黒色粒	—	口縁部～ 体部1/3 欠損	ロクロ整形。体部ヘ ラナデ。	ロクロ整形。体部中 位～見込みにかけて 使用面磨面。	—
	番号	種類	器種	材質	法量				備考				
	5	観音 面漆遺物	輪郭口	土製	(13.3)	9.8	9.7	1.229	先端部欠損。輪縁み成形。外：ヘラズリ後ヘラナデ。下部に装着痕。先端部 のガラス置化。熱電性が顕著に認められる。				
	6	土製品	円盤状 土製品	土製	5.7	6.0	1.5	70.0	—				
	7	土製品	円盤状 土製品	土製	5.4	5.1	1.5	50.1	—				
	8	鉄製品	刀子	鉄	(22.2)	1.7	0.5	37.8	—				
9	鉄貨	大元通貨	銅	2.5	(2.4)	0.9	1.4	—					

## D-60号土坑遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	材質	法量				成・整形技法の特徴				備考	
					口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面		内面
D-60	1	陶器	皿	—	—	—	—	堅緻	内外：灰 白	—	口縁部片	ロクロ整形。	ロクロ整形。	内外両軸 を巻輪。
	番号	種類	器種	材質	法量				備考					
2	鉄製品	不明	鉄	(7.9)	1.0	0.7	7.7	稀磁品。頭部が屈曲する。先端部欠損。						

## D-75号土坑遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	材質	法量				成・整形技法の特徴				備考	
					口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面		内面
D-75	1		かわらけ	(14.4)	(8.6)	2.9	普通	外：にぶ い肌。 内：滑順。 色調	褐色粒・ 雲母・ 色粒	—	1/3	ロクロ整形。底部回 転糸切り後収め板口 縁の打直。	ロクロ整形。見込み 単方向の子デ後現縁 部ナデ。	—
	2		かわらけ	(10.7)	(7.0)	2.6	普通	内外：に ぶい肌	白色粒・ 褐色粒	—	1/4	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。	—
	3	軟質陶器	内耳罎	30.0	21.2	(14.8)	普通	外：にぶ い肌。 内：明艶	白色粒・ 褐色粒	—	口縁部～ 体部下位 2/3	ヘラズリ後ヘラナ デ。口縁部はコナデ。	ヘラナデ。	補修孔あ り。把手 部欠損。

## D-81号土坑遺物観察表①

遺物名	番号	種類	器種	材質	法量				成・整形技法の特徴				備考
					口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	
D-81	1		かわらけ	12.8	7.8	3.0	普通	内外：磨 褐色粒・ 雲母	—	口縁部～ 体部2/3 欠損	ロクロ整形。体部回 転ヘラケズリ後ナデ。 底部回転糸切り無調 整。	ロクロ整形。	—
	2		かわらけ	8.0	5.4	2.0	普通	内外：黄 灰	白色粒	—	口縁部～ 体部1/4 残	ロクロ整形。	ロクロ整形。

第20表 遺物観察表(12)

## D-81 号土坑遺物観察表②

遺構名	番号	種類	器種	材質	法量				備考
					長さ	幅	厚さ	重量	
D-81	3	石製品	砥石	内門石 安山岩	11.3	5.0	2.7	67.8	二面使用。上部に穿孔一箇所。
	4	鉄製品	釘	鉄	5.2	1.0	0.6	4.4	
	5	鉄製品	釘	鉄	5.2	0.9	4.5	2.8	先端部木貫付着。頂部欠損。

## D-83 号土坑遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種	材質	法量				成・整形技法の特徴				備考	
					口径	底径	器高	構成	色調	胎土	残存	外面		内面
D-83	1		かわらけ	—	6.1	(2.1)		普通	内外：こ ぶい黄緑 黒色粒	胎土	残存	口クロ整形。底部回 転糸切り無調整。	口クロ整形。	
	2		灯明皿	7.9	5.3	1.8	普通	内外：こ ぶい黄緑 黒色粒	胎土	完形	口クロ整形。底部回 転糸切り無調整。口 縁部に敲打による調 整痕。	口クロ整形。	油槽付着。	
	3		かわらけ	7.1	5.6	1.4	普通	内外：粒	胎土	口縁部一 部欠損	口クロ整形。底部回 転糸切り無調整。	口クロ整形。見込み 単方向のナデ。		
	4		かわらけ	—	4.1	(2.9)	普通	内外：灰 青	胎土	底部残	口クロ整形。底部回 転糸切り無調整。	口クロ整形。	二次焼熟。	
	番号	種類	器種	材質	法量				備考					
5	石製品	穀物臼	安山岩	17.6	9.3	10.4	1,701							

## D-106 号土坑遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種	材質	法量				成・整形技法の特徴				備考	
					口径	底径	器高	構成	色調	胎土	残存	外面		内面
D-106	1		かわらけ	(7.6)	(5.4)	1.85	普通	内外：こ ぶい黄 白色粒	胎土	残存	1/4 残	口クロ整形。底部回 転糸切り無調整。	口クロ整形。見込み 周縁部ナデ。	
	2		かわらけ	(11.0)	(6.8)	1.9	普通	内外：こ ぶい黄緑 黒色粒	胎土	口縁部一 部欠損	1/4 残	口クロ整形。体部ナ デ。底部回転糸切り 無調整。敲打状の正 産。	口クロ整形。体部中 心部へ下位ヘラナデ。	
	3	陶器	盛り鉢	—	(11.0)	7.5	普通	外：黒黒 内：こぶ い黄緑 褐色 粒	胎土	白色粒・ 黒色粒・ 褐色 粒	体部片	粘土層輪積み後口 ロナデ。底部回 転糸切り無調整。敲打 状の正産。	5本1単位の掻き目。	二次焼熟。

## D-107 号土坑遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種	材質	法量				成・整形技法の特徴				備考		
					口径	底径	器高	構成	色調	胎土	残存	外面		内面	
D-107	1		かわらけ	11.6	6.9	2.2	普通	内外：こ ぶい黄緑 物・褐色 粒	胎土	口縁部一 部欠損	1/5 残	口クロ整形。底部回 転糸切り無調整。	口クロ整形。又又付 着。	油槽付着。	
	2		かわらけ	(10.7)	6.0	2.7	普通	内外：こ ぶい黄緑 黒色粒・ 褐色粒	胎土	口縁部一 部欠損	3/4 残	口クロ整形。底部回 転糸切り無調整。	口クロ整形。見込み 単方向のナデ。		
	3		かわらけ	(11.4)	6.8	2.2	普通	内外：こ ぶい黄緑 黒色粒	胎土	口縁部一 部欠損	3/4 残	口クロ整形。底部回 転糸切り無調整。	口クロ整形。見込み 単方向のナデ。		
	4		かわらけ	(6.3)	(7.0)	2.3	普通	内外：こ ぶい黄緑 褐色粒・ 黒色粒	胎土	口縁部一 部欠損	1/4 残	口クロ整形。底部回 転糸切り後ナデ。	口クロ整形。見込み 単方向のナデ。		
	5		かわらけ	7.9	5.3	2.1	普通	内外：粒	胎土	完形	口クロ整形。底部回 転糸切り無調整。見 込み中央部から底部 中央にかけて磨成前 穿孔。口縁部磨成後 の敲り。	口クロ整形。	油槽付着。		
	6		かわらけ	9.2	6.0	2.0	普通	内外：粒	胎土	褐色粒	口縁部一 部欠損	1/3 残	口クロ整形。底部回 転糸切り無調整。	口クロ整形。見込み 単方向のナデ。	
	7		かわらけ	—	4.8	1.5	普通	外：灰青 内：褐色 褐色粒	胎土	黒色粒・ 褐色 粒	口縁部一 部欠損	2/3 残	口クロ整形。底部回 転糸切り無調整。	口クロ整形。口縁部 打ち欠け。	
	8		かわらけ	7.4	4.8	2.1	普通	内外：こ ぶい黄緑 黒色粒	胎土	口縁部一 部欠損	1/4 残	口クロ整形。底部回 転糸切り後一部ナデ。	口クロ整形。見込み 単方向のナデ。周縁 部ナデ。		

第 21 表 遺物観察表 (13)

## D-108 号土坑遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	材質	法量			備考	
					長さ	幅	厚さ		重量
D-108	1	瓦葺	高塚遺物	土	2.6	2.6	0.1	3.4	油瓦。1796年初跡。

## D-117 号土坑遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴				備考			
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存		外面	内面	
D-117	1	陶器	皿	—	7.0	(1.7)	普通	焼成 外：灰 内：灰 胎：灰白	色調	胎土	残存 胎部~底 部片	外面 口縁部ココナデ後指 遺正瓦。製部ヘラケ ズリ。	内面 口縁部ココナデ。 製部ヘラケズリ。	白面輪を 内外縁輪。

## D-130 号土坑遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴				備考			
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存		外面	内面	
D-130	1	土師器	甕	(16.2)	—	(29.2)	普通	焼成 外：灰 内：陶	色調	胎土	残存 口縁部 1/8、製 部1/2	外面 口縁部ココナデ後指 遺正瓦。製部ヘラケ ズリ。	内面 口縁部ココナデ。 製部ヘラケズリ。	

## D-133 号土坑遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	材質	法量			備考	
					長さ	幅	厚さ		重量
D-133	1	土製品	円筒状土 製品	土製	4.2	4.4	1.1	21.9	側面研削。

## M-1 号溝遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴				備考			
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存		外面	内面	
M-1	1	陶器	鉢	(28.6)	—	(6.4)	普通	焼成 外：暗灰 内：黄灰	色調	胎土	残存 口縁部片	外面 口縁部片	内面 口縁部片	
	2	陶器	甕	(15.0)	—	—	還元焼 成	外：黒 内：灰	色調	胎土	残存 口縁部片	外面 口縁部片	内面 口縁部片	鉄輪輪 自然輪付 着。
	3	陶器	火鉢	—	—	—	還元焼 成	外：明 赤陶	色調	胎土	残存 胎部片	外面 胎土粗輪組み成り、 ヘラナデ、型押し。	内面	
	番号	種類	器種	材質	法量			成・整形技法の特徴				備考		
4	観音開港 陶形観音 遺物	甕	土製	10.1	9.2	3.5	314	還元土砂の付着が顕著。						

## M-6 号溝遺物観察表①

遺物名	番号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴				備考	
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存		外面
M-6	1	かわらけ	(168)	(10.0)	2.8	良好	内外：暗 褐色・黒 色胎土	胎土	残存 1/4残	外面 口縁部片	内面 口縁部片	
	2	かわらけ	11.7	6.5	2.7	普通	内外：こ ぶい樹	胎土	残存 口縁部~ 胎部1/6 欠損	外面 口縁部片	内面 口縁部片	見込み 単方向のナデ後縁輪 部ナデ。
	3	かわらけ	11.8	6.8	3.0	普通	内外：暗 褐色・黒 色胎土	胎土	残存 口縁部片	外面 口縁部片	内面 口縁部片	見込み 単方向のナデ後縁輪 部ナデ。
	4	かわらけ	11.8	6.5	2.4	普通	内外：こ ぶい樹	胎土	残存 口縁部片	外面 口縁部片	内面 口縁部片	
	5	かわらけ	11.6	6.4	2.6	普通	外：暗、 内：こぶ い樹	胎土	残存 口縁部~ 胎部1/6 欠損	外面 口縁部片	内面 口縁部片	
	6	かわらけ	11.3	6.9	2.3	普通	内外：暗 褐色・黒 色胎土	胎土	残存 口縁部~ 胎部1/2 欠損	外面 口縁部片	内面 口縁部片	
	7	かわらけ	11.9	6.8	3.5	普通	内外：暗 褐色・黒 色胎土	胎土	残存 口縁部~ 胎部2/3 欠損	外面 口縁部片	内面 口縁部片	

第22表 遺物観察表(14)

M-6号溝遺物観察表②

遺構名	番号	種類	器種	法量				成・整形技法の特徴						備考		
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面				
M-6	8		かわらけ	8.2	5.0	2.5	普通	内外：磨	褐色胎・黒色胎・黒色胎	口縁部～体部一部欠損	残存	外面	口クロ整形。底部回転車切り後浅い縦目注の圧痕。	口クロ整形。見込み単方向のナデ。		
	9		かわらけ	7.7	5.4	1.8	普通	内外：磨	褐色胎・黒色胎・黒色胎	ほぼ円形	口クロ整形。底部回転車切り無調整。	外面	口クロ整形。	口クロ整形。見込み単方向のナデ。	口縁部塗層付着。	
	10		かわらけ	—	(6.8)	(1.6)	普通	内外：磨	褐色胎・黒色胎	底面2/3残	口クロ整形。底部回転車切り無調整。焼成後穿孔。	外面	口クロ整形。	口クロ整形。		
	11	軟質陶器	内耳罎	—	—	—	普通	外：にぶい釉。内：にぶい黄緑	白色胎・褐色胎・褐色胎	口縁部片	口クロ整形。底部回転車切り無調整。ヘラナデ。	外面	口クロ整形。底部回転車切り無調整。焼成後穿孔。	口クロ整形。ナデ。		
	12	青磁	碗	—	(8.4)	(2.4)		内外：明緑灰		底部片						
	番号	種類	器種	材質	法量				備考							
					長さ	幅	厚さ	重量								
	13	瓦	平瓦		(5.0)	(4.3)	(2.0)	—	凹面：布目粗一部ナデ。凸面：ヘラナデ。還元気味。							
	14	石製品	石塔		40.5	17.3	5.3	3280	朱書きあり。							
	15	石製品	穀物臼	安山岩	(11.8)	(8.4)	14.0	1226	上FL。破片。							
16	磨治御土遺物	輪引口		(8.0)	(6.3)	(2.7)	85.8									

M-8号溝遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種	法量				成・整形技法の特徴						備考	
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面			
M-8	1		かわらけ	(8.0)	5.0	1.6	普通	内外：にぶい釉	褐色胎・黒色胎・黒色胎	口縁部～体部1/3欠損	残存	外面	口クロ整形。底部回転車切り後一部ナデ。	口クロ整形。見込み単方向のナデ後焼成一部ナデ。	
	2		かわらけ	(6.8)	(4.6)	1.2	普通	内外：にぶい釉	褐色胎・黒色胎・黒色胎	口縁部～体部2/3欠損	残存	外面	口クロ整形。底部回転車切り後ナデ。	口クロ整形。	
	3		かわらけ	(7.6)	(5.8)	1.7	普通	内外：磨	褐色胎・黒色胎・黒色胎	口縁部～底面1/4残	残存	外面	口クロ整形。被熱のため器面反れる。底部回転車切り無調整。	口クロ整形。見込み単方向のナデ後焼成一部ナデ。	
	4		かわらけ	—	—	—	普通	内外：にぶい釉	褐色胎・黒色胎	口縁部片	残存	外面	口クロ整形。粘土クズ付着。判読不明の部痕。	口クロ整形。見込み焼成一部ナデ。	
	5	軟質陶器	内耳罎	—	—	—	普通	外：灰黄陶。内：黄灰	褐色胎・石黒・黒色胎	口縁部片	残存	外面	ヘラナデ。	ヘラナデ。内耳部手彫りナデ。	

S-1号配石遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種	法量				成・整形技法の特徴						備考	
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面			
S-1	1	陶器	皿	—	(7.2)	(1.1)		内外：灰白	褐色胎	底部片	残存	外面	口クロ整形。雨り出し高台。	口クロ整形。	白面輪を内外縁輪。
	番号	種類	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考						
	2	石製品	茶臼	安山岩	(26.6)	(15.1)	(9.7)	2,400	上FL。1.6号現。						
3	石製品	穀物臼	安山岩	(34.1)	(18.7)	7.7	4,250	上FL。							

S-2号配石遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種	法量				成・整形技法の特徴						備考	
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面			
S-2	1	陶器	磨り鉢	—	(11.4)	(4.0)	普通	内外：黄陶	白色胎・褐色胎・褐色胎	底部片	残存	外面	粘土層剥離成形後口クロナデ。底部回転車切り後ナデ。	掃き目。	
	番号	種類	器種	材質	長さ	幅	厚さ	重量	備考						
	2	石製品	茶臼	安山岩	(12.5)	(11.8)	(9.1)	821.0	下FL。破片。						
	3	石製品	穀物臼	安山岩	(23.2)	(14.7)	14.3	3,750	上FL。1/3号現。白面に彫ってモノタバリが顕著に認められる。						
4	石製品	穀物臼	安山岩	(15.3)	(22.2)	(6.4)	1,545	上FL。1/4号現。径：(33.4) cm。							

S-3号配石遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種	材質	法量				備考					
					長さ	幅	厚さ	重量						
S-3	1	磨治御土遺物	輪引口	土製	(6.3)	(6.9)	(5.2)	167.0						

第23表 遺物観察表(15)

S-4号配石遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴						備考	
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面		
S-4	1	陶器	皿	—	—	—	明確	内外:オリーブ黄			口縁部	ロクロ整形。	ロクロ整形。	内外縁輪面輪。

S-6号配石遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴						備考	
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面		
S-6	1	陶器	部り鉢	—	(8.0)	(4.4)	普通	内外:黄褐色	黒色胎土		口縁部	ヘラナデ。	ナデ後継ぎ目。平滑。	

S-20号配石遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴						備考		
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面			
S-20	1	陶器	鉢	—	—	—	普通	内外:こぶい黄			口縁部	粘土刷輪桶成形。ヘラナデ。	ヘラナデ。		
	2	石製品	碇石	砂岩	8.9	5.45	4.2	132.48	4面使用。表・裏や側面は磨石や使用により摩耗しやや湾曲している。端面の一部には磨痕や産刻が認められる。						
	3	石製品	板碑	緑泥片岩	(17.3)	(11.8)	2.5	590.0	備考						

SP-36号ビット遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	材質	法量			備考	
					長さ	幅	厚さ		
SP-36	1	石製品	穀物臼	安山岩	(28.0)		6.5	1345.5	上凸。縦行。

SP-142号ビット遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	材質	法量			備考	
					長さ	幅	厚さ		
SP-142	1	土製品	円盤状土製品	土製	3.7	3.7	1.3	19.5	側面研削。

SP-166号ビット遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴						備考
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	
SP-166	1	土器類	罎	9.6	—	7.7	普通	内外:明赤黄	石高・黒灰岩・角閃石・赤色岩粒	口縁部1/2。胴部～底部完形	口縁部～胴部上位口コナデ。胴部～底部ヘラナデ。	口縁部コナデ。胴部～底部ヘラナデ。	

SP-186号ビット遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴						備考
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	
SP-186	1		かわらけ	13.6	8.3	2.9	普通	内外:こぶい黄褐色	口縁部一部欠損	口縁部	ロクロ整形。底部回転糸切り後板目状の圧縮。一部ナデ。	ロクロ整形。見込み単方向のナデ	二次焼成のため器面が割離し飛れる。
	2		かわらけ	11.4	6.0	3.4	良好	外:粉。内:こぶい黄褐色	白色胎土	口縁部～胴部2/3欠損	口縁部	ロクロ整形。底部回転糸切り無調整。	ロクロ整形。見込み単方向のナデ後縁部ナデ。

SP-232号ビット遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	法量			成・整形技法の特徴						備考
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面	
SP-232	1		かわらけ	—	(5.2)	(1.3)	普通	内外:粉	黒色胎土・黒色胎土・褐色胎土	口縁部1/4残	口縁部	ロクロ整形。底部回転糸切り無調整。	ロクロ整形。見込みに滑石。底部焼成後穿孔。

SP-235号ビット遺物観察表

遺物名	番号	種類	器種	材質	法量			備考	
					長さ	幅	厚さ		
SP-235	1	銭貨	八元通貨	銅	2.4	(2.3)	0.09	2.2	

第24表 遺物観察表(16)

SP-237号ビット遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種	法量				成・整形技法の特徴						備考
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面		
SP-237	1		かわらけ	(13.8)	(8.0)	2.3	普通	内外：にぶい黄褐色	黒色粒・褐色粒	残存 口縁部～底部1/4程	口クロ整形。底部回転形切り後板目状の圧痕。	口クロ整形。見込みナデ。	口縁部内外に白色粘質土付着。	

SP-326号ビット遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種	法量				成・整形技法の特徴						備考
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面		
SP-326	1		かわらけ	7.1	4.6	1.9	普通	内外：にぶい黄褐色	黒色粒・褐色粒	ほぼ完全	口クロ整形。底部回転形切り無調整。	口クロ整形。口縁部油煙付着。	下皿。内外スス付着。	

SP-337号ビット遺物観察表

遺構名	番号	種類	器種	材質	法量				備考
					長さ	幅	厚さ	重量	
SP-337	1	石製品	砥石	灰岩	9.0	4.1	2.6	117.8	三面使用。

遺構外遺物観察表①

遺構名	番号	種類	器種	法量				成・整形技法の特徴						備考
				口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面		
遺構外	1	縄文土器	深鉢	—	—	—	普通	外：明赤色粒 内：黒	白褐色胎土	口縁部片	単節Rし。	染取文。	早期未～前期前道。	
	2	縄文土器	深鉢	—	—	—	良好	内外：にぶい黄褐色	チャー ト・片岩	口縁部片	横位隆帯筋付後、隆帯状に半貫首状工具による連続研突。	ナデ。	前期未。	
	3	縄文土器	深鉢	—	—	—	普通	外：橙 内：にぶい黄褐色	黒色粒・褐色粒	口縁部片	無節1節文後横位の沈線を2条強し区画。沈線間には斜文。胴部はスリ消し。	ナデ。	前期未。	
	4	縄文土器	深鉢	—	—	—	普通	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	黒色粒・褐色粒	口縁部片	単節Rし節文後、弧状の沈線を強す。口縁部には横位の円形研突。	ナデ。	加賀利EⅡ式。	
	5	縄文土器	深鉢	—	—	—	普通	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	黒色粒・褐色粒	口縁部片	単節Rし節文後、弧状の沈線を強す。口縁部には横位の円形研突。	ナデ。	加賀利EⅡ式。	
	6	縄文土器	深鉢	—	—	—	普通	外：橙 内：明黄褐色	褐色胎土・黒色系物	口縁部片	横位隆帯部により口縁部を区画。口縁部無文。胴部は横位隆帯により区画。区画内は単節Rし節文・スリ消しをそれぞれに施す。	ナデ。	加賀利EⅡ式。	
	7	縄文土器	深鉢	—	—	—	普通	外：にぶい黄褐色 内：にぶい黄褐色	白色粒・褐色胎土	口縁部片	縦位の隆帯を彫付。染線を縦位に施文後、隆帯部に縦位の沈線を強す。	ミガキ。	加賀利EⅡ式。	
	8	縄文土器	鉢	—	—	—	普通	外：明黄褐色 内：にぶい黄褐色	白色粒・褐色粒・石英	把手部	楕円形に隆帯を彫付後、L線文を施文。隆帯の内側に幅広の沈線。	ナデ。	加賀利EⅡ式。	
番号	種類	器種	材質	法量				備考						
				長さ	幅	厚さ	重量							
9	石器	石鏃	黒曜石	(3.03)	(2.23)	0.35	1.55	凹縁無茎。先端部・右脚欠損。						
10	石器	打製石片	頁岩	8.2	4.7	1.95	67.14	小型分銅形。磨縁に直撃打撃による両面加工を強し敲打による抉入部を作出。対部周辺に摩耗面が認められ、対縁部には使用による対こぼれあるいは対部形成とみられる鋭縁面あり。						
11	石器	打製石片	安山岩	(6.1)	5.0	1.75	79.51	高頸縁を直撃打撃による両面加工を強す。対部周辺に摩耗面が認められる。中央～基部欠損。						
番号	種類	器種	法量				成・整形技法の特徴						備考	
			口径	底径	器高	焼成	色調	胎土	残存	外面	内面			
12	土師器	S字状口縁台付筒	(16.4)	—	(2.5)	良好	内外：にぶい黄褐色	チャー ト・赤色粒	口縁部 1/8	口縁部口ナデ。胴部ハケム。	口縁部口ナデ。胴部ハケム。	口縁部口ナデ。胴部ハケム。		

第25表 遺物観察表(17)

## 遺構外遺物観察表②

遺構名	番号	種類	器種	法量			焼成	色調	胎土	残存	外面		備考	
				口径	底径	器高						内面		
遺構外	13	須恵器	高坏形器台	—	—	(8.0)	還元焰	内外：灰 石高・ 瀬灰岩 粒・黒 色粒	胎土 即部礫 片	残存	ロクロ整形。脚部積 方向のカキム後り条 1本の柳葉状工具によ る波状文→2条の横 位沈線一横方向のカ キム後柳葉状工具に よる波状文。	ロクロ整形。	長方形お よび円形 の透かし 孔あり。	
	14	須恵器	甕	(23.2)	—	(7.2)	還元焰	内外：灰 石高・ 瀬灰岩 粒・黒 色粒	口縁部 1/3	残存	回転口コナデ。胴部 タタキ後ヘラナデ。	脚部無文の当て具風。		
	15	須恵器	甕	(15.3)	(7.0)	5.2	還元焰	内外：黄 灰	石高・ 瀬灰岩 粒・白 質	1/4	残存	ロクロ整形。底部回 転糸切り。高台彫付 時に周縁ナデ。	ロクロ整形。	内底部は 平滑。転 用か。
	16	陶器	鉢	—	—	(6.4)	還元焰	外：暗灰 黄、 内：黄灰	石高・ 白色粒	残存	体部下 位～底 部1/4 残	ロクロ整形。体部下 位回転ヘラナデ等、 高台彫付後ナデ。	ロクロ整形。	
	17		かわらけ	—	(6.0)	(0.6)	良好	外：暗灰 黄、 内：黄	黒色粒・ 褐色粒	残存	底部残	ロクロ整形。底部回 転糸切り無調整。	ロクロ整形。全面に 漆付着。	
	番号	種類	器種	材質	法量			備考						
					長さ	幅	厚さ	重量						
18	石製品	紡錘車	硬砂岩	3.8	3.8	1.9	37.0	放射状の線刻が認められる。						
19	鉄製品	釘	鉄	(9.6)	1.4	0.6	18.2	頭部及び先端部欠損。						

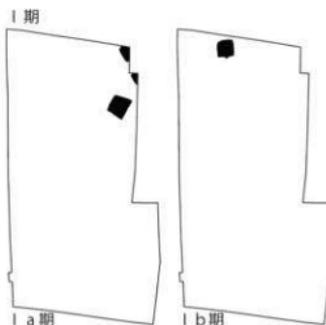
第26表 遺物観察表(18)

## Ⅶ 成果と問題点

### 1 海竜寺Ⅱ遺跡における遺構変遷

今回の調査で得られた遺構に伴う出土遺物の帰属時期・遺構埋没土に含まれる火山灰・遺構の切り合いによる新旧関係、各遺構における主軸方位の異動などを検討したところⅠ～Ⅴ期の遺構変遷を辿ることができた。Ⅰ～Ⅳ期においてはその帰属期間内でさらに2時期に細分された。以下に各時期ごとの概説を示す。なお、ここで扱う遺構については帰属時期の明確となったもののみを扱っており帰属時期が不明確なもの、帰属時期に伴う遺物の出土が認められなかった遺構については除外してある。また、出土した遺物としては縄文時代早期末に帰属する土器(外・Ⅰ)が最古段階に位置し、続いて前期末(外・Ⅱ・Ⅲ)、中期後半(外・Ⅳ～Ⅶ)と変遷するが、当該期に帰属する遺構の検出に至らなかったため今回は省いている。

Ⅰ期(Ⅰa・Ⅰb期): H・7・9・10・12号住居址が該当する。H・10号住居址は炉が伴う住居址である。H・9・12号住居址は調査区外に大半が及ぶため炉の検出には至っていないが、長軸方位が近似する点、出土遺物から得られる帰属年代が一致する点を考慮し当該期に帰属するものと考えた。H・7号住居址はHr-FAの一次堆積層が認められる住居址である。今回の調査においてはカマドが付設される住居址としては最古段階に帰属する。出土遺物からH・9・10・12



第64図 海竜寺Ⅱ遺跡における遺構変遷(Ⅰ)

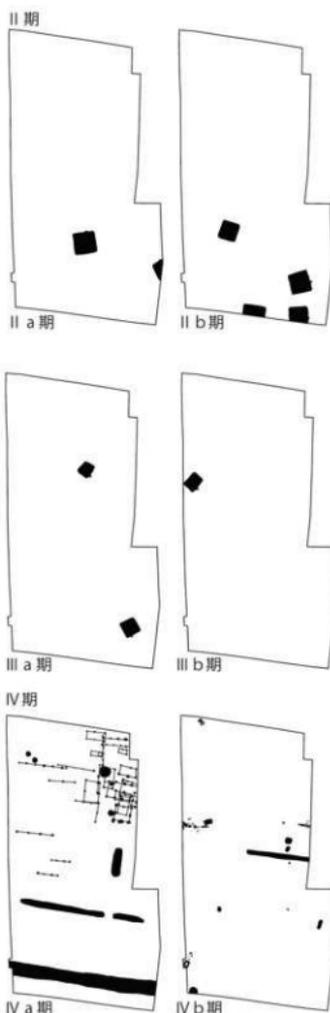
号住居址は5世紀第3四半期、H-7号住居址が5世紀第4四半期に帰属すると考えられる。

Ⅱ期(Ⅱa・Ⅱb期): H-1~5・13号住居址が該当する。出土遺物からいずれも6世紀代1四半期に帰属すると考えられるが、H-2・5号住居址は他の住居址よりやや古手の様相を示すことが指摘されている。カマドの付設位置や、住居址の主軸方位がそれぞれの段階で一致することはそのことを傍証するものと捉えられる。

Ⅲ期(Ⅲa・Ⅲb期): H-6・8・11号住居址が該当する。出土遺物からH-11号住居址が9世紀第3四半期、H-6号住居跡が9世紀第4四半期、H-8号住居跡が10世紀後半に帰属すると考えられる。

Ⅳ期(Ⅳa・Ⅳb期): HT-1~12号掘立柱建物址・1~11号ピット列、D-3・18・44・76・81・83・107号土坑、M-1・4・6・8・9号溝、S-1~6・15・20・23号配石遺構が該当する。埋没土にAs-Bを含みAs-Aを含まない遺構を当該期とした。遺構の切り合い関係から、Ⅳa期(HT-1~12号掘立柱建物址、1~11号ピット列、D-76・81・83・107号土坑、M-1・4・6・8号溝)、Ⅳb期(D-3・18・44号土坑、M-9号溝、S-1~6・15・20・23号配石遺構)の2時期に細分される。掘立柱建物址・ピット列については重複関係から数回の建て替えが想定されるところにⅣb期に帰属するものもあることが考えられるが、今回の調査ではそこまで細分するには至らなかった。Ⅳb期に帰属するD-18号土坑、S-1号配石遺構はそれぞれⅣa期に帰属する溝と重複し切り合い関係からD-18号土坑・S-1号配石遺構が新しいことからⅣb期に帰属するものと判断した。D-3号土坑では漆の塗られた茶臼(D3-3)が出土しているが、S-20号配石出土のものと接合したことから両遺構はほぼ同時期に帰属するものと判断される。Ⅳ期の帰属時期については出土した遺物から15世紀後半から16世紀前半と考えられる。

Ⅴ期: D-4・6・7・9・13・21・22・25・27・28・30・32~34・36・39~41・43・46~48・51・55~62・65~70・72・76・91・92・95~98・100・101・104・105・109~126・138・148・149号土坑が該当する。埋没土にAs-Aを大量に



第65図 海竜寺Ⅱ遺跡における遺構変遷(2)

含むものである。他の遺跡の調査事例を鑑みるとAs-Aの復旧溝と考えられる。

以上、今回の調査で得られた結果をもとに遺構変遷を概観した。Ⅰ期における住居址は調査区の北側に、Ⅱ期における住居址は南側に分布する傾向がみられる。調査区の東・西・南側は急斜面となっており台地の縁辺部に時期を経て集落の形成が推移していった様子が看取される。Ⅲ期では遺構数の減少が認められ当該期に帰属する遺構は住居址を除いて今回の調査では確認されなかった。Ⅳ期は遺跡名に冠されている海竜寺に関わる時期となる。今回の調査で検出された遺構はその規模や内容から海竜寺そのものではなく、海竜寺に関連した何らかの施設であった可能性が考慮される。ただし、M-6号溝出土の石塔(M6-14)や漆の塗布された茶臼(D3-3)に代表される寺や館の存在を想起させる遺物の出土は看過することなく、本遺跡地近隣に海竜寺が存在していたことを示唆するものといえよう。Ⅴ期ではAs-Aの復旧溝が多数検出されている。これらの土坑の長軸は前代のⅣ期における溝の走行方向に平行するか直行するものである。これはⅣ期における地割がⅤ期まで踏襲されていたことを示すものと考えられる。

## 2 カマドについて

ここでは、本稿のV-2において記述したカマドについての事実記載に補足を加えカマドの構築法および構築手順に関する試案と各カマド(H-1・2・4・5・7・13号住居址)の規模について、その計測値及び計測箇所を示すこととする。

### ・カマドの構築法について(試案)

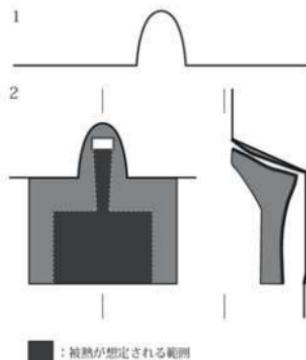
H-1・2・4号住居跡の調査結果からカマドの構築手順を想定することが可能と考えられる成果が得られた。H-4号住居跡では、カマド袖石から煙道に向かって台形状に検出された燃焼室の被熱痕とは別に、袖石(燃焼室)の外側に広がる被熱痕が認められた。この被熱痕は検出状態からカマド燃焼室構築以前に何らかの理由で生じたものと考えられることができる。そこで、この被熱痕をカマド構築時にカマド構築材やカマド構築箇所の水分を除去するために空焚きを行った痕跡と想定してカマドの構築手順について検討を試みたい。

1: カマド煙道の位置を決める。カマド煙道についてはその位置や形状を含めて住居の上屋構造との関係を検討する必要があるが、今回の調査では上屋構造を検討するまでには至らなかった。

2: 構築材を用いて煙道及びカマドの外形を造作する。この際に煙道及び燃焼室となる箇所の空間をどのように保持していたかは今回の調査では明らかにすることができなかった。この段階で一度火をおこし空焚きを行ったものと想定される。また、この際に生じた被熱痕が第66図①であると考えられる。

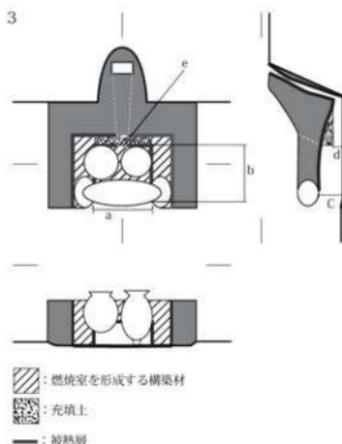


第66図 H-4号住居址カマドにおける空焚きの痕跡



第67図 カマドの構築手順(試案)(1)

3：カマド芯材や燃焼室を構築するための粘質土を加える。この際には2の段階で燃焼室天井部としていた箇所を破壊した後、芯材などを加え再度燃焼室を構築している様子が堆積土の状態から看取された。ここで構築された燃焼室を使用した際に生じた被熱痕が第66図②である。焚口天井部及び袖部の芯材には河原石が用いられていた。H-2号住居跡では右側の襖をカマド右袖にはめ込んでいる状態が確認された。燃焼室幅は非常に狭く、襖2個体を設置すると燃焼室内の空間が埋まってしまうような状況であった。この点については燃焼室天井部の強度の保持と密接な関連があることが想定される。襖の法量を燃焼室幅に合わせ、煮炊きに用いる襖も部材の一部として使用することにより構築材（粘質土）のみで保持する天井部の空間を最小限としカマド燃焼室の強度を図った結果と捉えられる。燃焼室と煙道の接続部には土を充填し（充填土）、煙道の入り口を造作したものと考えられる。H-1・2・4号住居跡では明らかに煙道部



第68図 カマドの構築手順（試案）（2）

から流入した堆積土とは異なる土が堆積していた。H-2号住居跡では襖の出土状態から燃焼室と煙道接続部の天井が遺存していたことを鑑みるとこれらの土（充填土）はカマド使用時にカマド構造の一部として存在していたものと考えられる。この充填土による煙道部分の空間保持をどのようにしていたかについては今回の調査で明らかにすることはできなかった。

#### ・カマド計測値について

以上のカマド構築手順を勘案し、カマド計測値について第69図で示した箇所を計測した（第27表）。既往の調査における計測値には少なからず空焚きの被熱痕を燃焼室として捉え計測したものが考えられる。

遺構名	焚口幅(a)	焚口高さ(c)	燃焼室奥行(b)	煙道口高さ(d)	煙道口幅(e)
H-1号住居跡	37.0	27.0	56.0	11.0	17.0
H-2号住居跡	—	<20.0>	32.0	8.0	—
H-4号住居跡	30.0	20.0	42.0	12.0	18.0
H-5号住居跡	—	—	42.0	23.0	16.0
H-7合欄住居跡	<40.0>	<20.0>	42.0	10.0	—
H-13号住居跡	33.0	—	<56.0>	—	—

第27表 カマドの計測値（単位：cm）

### 3 中世の板鼻—海龍寺を中心として—

本稿は、海竜寺Ⅱ遺跡の中世遺構について、その成立における歴史的背景を整理すること目的とし、文献資料等により考察を行うものである。第1章では、中世を通じて都市的な場として発展した板鼻について、交通・政治・文化の観点からその特徴について述べた。第2章では、関東管領上杉顯定と、板鼻及び海龍寺の関係について記述した。中でも第1節では、山内上杉氏の各拠点の中での板鼻の位置づけと、顯定が板鼻を本拠としていたと考えられる時期について考察した。第2節では、海龍寺の創建および存続年代と、史料から読み取れる当時の板鼻の空間構造について考察した。

以下の論考の前提として、現在の安中市板鼻を含む地域は、中世においては高崎市八幡町を中心とす

る八幡荘の一部であったこと、また、八幡町も含めた現在より広い地域を板鼻と呼称していたことを指摘しておきたい。これにより、本稿における板鼻も、八幡町を含む一定領域を指し示すものとして用いている。なお、文中で示した史料の多くは『安中市史 第四巻 原始古代中世資料編』により、【安史4・(資料番号)】のように省略して記載した。

### 1. 都市的な場「板鼻」の形成と発展

板鼻は古くから交通の要衝であった。古代東山道は碓氷峠を越えて坂本、野後（安中市上・下野尻）、板鼻西部、烏川

を経て、更に高崎市北部を貫いて、上野国府（前橋市元総社町）方面へのびており、中世においても、引き続き利用されていた（注1）。また、『宴曲抄』には、児玉・雄ヶ岡・山名・倉賀野・衣沢・末野・差出・豊岡・坂鼻（板鼻）・松井田の地名が見られ、善光寺道の道筋がうかがえる【安史4・四六】。さらに謡曲『鉢木』にうたわれている、碓氷川から烏川を経て佐野を経て佐野の渡しへと至る河川交通も存在していた【新編高崎市史 資料編4 中世Ⅱ・第三部参考資料 九】。これら主要交通網の結節点として、早い時期から宿

が形成されていたとみられる。

また、板鼻は、安達氏以降継統的に上野国守護権力の所在地となっており、守護所が置かれていたと考えられている。鎌倉幕府の有力御家人である安達景盛は、元久元年（1204）頃と見られる史料により「上野国板鼻別宮預所」であったことが知られる【安史4・三〇】。また、飽間太郎（安中市秋間）を従えるなど【安史4・三一】、西上野に支配を広げていた。南北朝期においても、上野国司・守護を兼任した新田義貞の拠点が置かれていたことが知られている【安史4・五五、五六】。上野国守護に任じられ京都から下向した上杉憲顕は、建武4年（1377）11月に「八幡荘巴下」の沙汰を命じられる【安史4・五八】。以後、上野国守護職は上杉氏が世襲してゆく。応永3年（1396）に上杉憲定が安堵された上野国内の所領は西上野に偏在しており、この地域が上杉氏の権力基盤であったことがうかがえる【安史4・一二三】。上杉氏も板鼻に



第69図 享徳の乱関係図（森田真一『上杉憲定 古河公方との対立と関東の大乱』戎光祥出版 2014）より転載

拠点を置いていたと考えられるが、中でも上杉顕定は、長尾景春の乱により五十子陣が崩壊して以降の戦乱の中で、板鼻に本拠を定めたと考えられる（注2）。

文化的側面について言えば、弘安3年（1280）に一遍が開山したとされる聞名寺があり、一遍が用いた笈が所蔵されている。時宗は遊行による布教を行ったことから、その教線は当時の街道に沿って伸びており、交通の要衝である板鼻には、早期に同派の寺院が設けられたのであろう（注3）。上杉顕定は、文亀2年（1502）および永正3年（1506）に、生母である妙皓禪定尼の回忌法要を海龍寺で執り行った【安史4・一四八】【信濃史料第10巻 212-221頁】。この頃には、板鼻における連歌会の開催も確認されている【安史4・一四六、一五〇】（注4）。他にも、天文年間（1532-1555）に八幡八幡宮境内に開かれた長伝寺のように、中世からの由緒を持つ寺院の存在は、往時の隆盛をうかがわせるものである。

## 2. 上杉顕定と板鼻・海龍寺について

今回の発掘調査では、永正3年8月29日の紀年銘をもつ石塔が出土した。これは、8月28日に月山皓大師の七周忌を海龍寺で行った（『玉隠和尚語録』翌日のことである。この月山の回忌法要との関連は定かでないが、文字が朱で書かれていることから、逆修供養の可能性が考えられるだろう。この石塔も含め、寺院の存在を思わせる遺物が出土していること、また、かわらけの年代観（15世紀後半～16世紀前半）と存続年代がおおよそ一致することから、史料上にみえる「海龍寺」関連遺跡であると推察される。よってここでは、当該期の板鼻および海龍寺について、上杉顕定との関係においてなされた先行研究の成果をまとめながらみていきたい。

### （1）山内上杉氏の拠点について

はじめに、上杉顕定の生涯について触れておく。顕定は、享徳3年（1454）に越後守護上杉房定の息子として誕生した。文正元年（1466）、関東管領の上杉房顕が死去すると、越後上杉家から山内上杉家に養子に入り関東管領職を継いだ。この頃関東は、古河に拠る東関東の諸氏に支えられた足利成氏と、五十子を拠点として西関東の勢力や幕府の後ろ盾を得た上杉氏が争う、享徳の乱の最中であった。

文明5年（1473）に長尾景信が亡くなったことをきっかけとして、長尾景春の乱が起こった。文明9年（1477）1月、景春に五十子陣を攻め落とされた上杉諸將は、上野国内へと撤退した。確かな時期は不明だが、文明10年（1478）7月以降に、景春から奪還した鉢形に顕定が入城したという。文明14年（1482）11月、幕府と古河公方成氏との和睦が成立し（都鄙合体）、享徳の乱は終結した。

長享元年（1487）、山内上杉氏と扇谷上杉氏の抗争である長享の乱が勃発する。西関東を舞台に両上杉氏が大きく南北にわたって軍事行動を行い、特に、山内方の鉢形と扇谷方の河越との間で合戦が頻発した（注5）。明応6年（1497）、扇谷上杉氏の本拠地である河越城に対峙する上戸に陣を構え、ここに古河公方足利政氏を招いた。政氏はすぐ古河へと帰還するが、上戸陣は永正2年（1505）まで拠点として機能していた（注6）。その永正2年には、河越城を包圍し、扇谷上杉朝良と和睦が成立したことにより、長享の乱は終結した。

永正4年（1507）、顕定の実弟である越後守護上杉房能が、守護代の長尾為景によって殺害された。これにより、永正6年（1509）7月から顕定は越後に介入する。永正7年（1510）6月20日に、越後府中から上野国に撤退していた顕定は、長森原（新潟県南魚沼市）で敗れ自害した。

このように顕定の生涯を追ってゆくと、享徳の乱・長享の乱・永正の乱と絶えず戦乱の中にあり、各

地を転戦していたようだ。そして、古河に対しての五十子、河越に対しての鉢形・上戸のように、主に軍事的要因により設定された拠点がよく知られている。対して、板鼻も山上上杉氏の拠点の一つと考えられているが、そういった性格は想定しにくい。顕定段階の山上上杉氏は、おおむね上野・伊豆・武蔵を守護分国とし、その他の国にも守護領を有していた（注7）ようだが、中でも上野国が本国とされる。板鼻は、上杉憲顕が「八幡荘已下」の沙汰を命じられて以来の相伝所領であり、本国を領知する上での基盤であったと評価できるだろう。

森田真一氏の研究によれば、山上上杉氏の拠点として知られる五十子・鉢形・上戸・平井・板鼻について検討した結果、①海龍寺の近辺に上杉氏の館を確認し、いずれかの場所で饗応や儀式が行われたこと②上杉氏の館では連歌会が行われたことを確認し、さらに板鼻以外の同氏の拠点では、守護所として適切な場所を見出し得なかったことから、板鼻に山上上杉氏の守護所が所在していたとみてよからう、としている（注8）。また、享徳の乱以降少なくとも16世紀初頭まで板鼻が守護所として機能し続ける一方で、それと複合して五十子陣や鉢形城、上戸陣なども機能していたこと。平井は、このような変遷の最終段階で本拠地となったと指摘している（注9）。第1章で触れたとおり、文明9年（1477）1月に五十子陣が崩壊して以降、板鼻が山上上杉氏の本拠となるのであれば、その存続期間は、本拠が平井へと移るまでの数十年間である。すなわち、15世紀後半～16世紀初頭において板鼻は、山上上杉氏の拠点の中でも、特に重要な位置を占めていたと言えるだろう。

## （2）海龍寺について

海龍寺は、南北朝期に活動した上杉憲顕の息女の芳山了薫が開基とされる。したがって、海龍寺の創設時期はおおよそ14世紀後半頃であるという。また、開基でないにも関わらず上杉顕定が「海龍寺殿」と記されるのは、海龍寺と深い関わりがあったことが想定されるという（注10）。山上上杉氏は、永享の乱や結城合戦などの時期を除いて、概ね享徳の乱勃発まで鎌倉を本拠地としていたと考えられる（注11）ので、顕定が板鼻に本拠を移すにあたり再興したものではないだろうか。海龍寺はその後の文献には登場せず、現在は小字「海竜寺」として名を残すのみである。上杉氏の本拠が平井に移り、さらには上野国から撤退してゆくという歴史的過程の中で廃絶したものと思われる。

顕定は亡母青蔭庵月山妙暗禪定尼の回忌法要を海龍寺で行っている。すなわち、『談柄』にみえる文亀2年（1502）8月28日と、『玉隠和尚語録』にみえる永正3年（1506）8月28日である。このうち『談柄』の記述について可能な限り訳すことで、当時の板鼻の景観復元を試みたいと思う。

### 『談柄』第卅三談 【安史4・一四八】

関東管領上杉顕定、文亀二季壬戌八月廿八日、於上州板鼻庄海龍寺、御老母青蔭庵月山妙暗禪定尼、十三回忌仏事之次第、

- (a) 一、隆座仏事建長玉蔭和尚、施物万疋、此外馬并小袖、  
一、拈香仏事円覚誠仲和尚、施物五千疋、此外馬并小袖  
一、安座仏事円覚子明和尚、施物三十貫并馬小袖  
一、十刹西堂布旋千疋、  
一、單寮布施七貫文、  
一、首座已下藏主、コレヲ平僧ト云、施物五貫文、

- 一、給待衆布施三貫文、
- (b) 一、仏事奉行長尾能登守、  
一、布施奉行先勝寺瑞首座、同尻高左京也、
- (c) 一、当日法座面ノ幕ハ力石、幕ヲタセラルハ也、彼名字御判代故也。私云、陞座・拈香ノ時ノ眞ニハ、梅竹ヲ紋ニ織也、上田侍中管領へ進上ト云也、スクレタル眞也、
- (d) 一、建長・円覚長老三人、阿永明和尚・叔悦和高御宿へハ行器ヲイレルハ也、其外ノ僧衆ハ板鼻道場ノ太鼓ヲ聞て、彼道場衆会スル也、
- (e) 一、長老・西堂・侍者・喝食、管領御館へ一日御招待アリ、乱酒ノ上能登守取りナサルハ也、  
一、一日顕定御館エ喝食・侍者計御請侍仕立魚魚也、
- (f) 一、僧中走廻リハ円覚大雲庵祈雨敷首座也、俗ハ長尾也、同円覚桂昌庵謙首座、俗ハ大石也、  
一七日勤行維那、雲頂省但首座也、  
一、当日維那ハ円覚長寿庵文宗演首座也、諸山西堂ニテ勤之、当日ハ疏也、
- (g) 一、仏事了テ、一日単尺アリ、題評也、題ハ官路探菊也、子明禾上出サルハ也、顕定ノ詩モアリ、執筆ハ建長・円覚ノ侍者・喝食已上七人也、此内喝食兩人、何レモ円覚ヨリ出ル也、清藤軒昭宇梵岳・飯源庵奇文禪才也、奇文十三歳ノ時也、執筆ノ礼トシテ、金縁盆両金扇子、何ヘモ被贈也、顕定ノ詩ハ奇文書給フ也、
- (h) 一、顕定ノ御宿ハ依田徳昌軒也、  
一、僧中ノ刷ハ依田、
- (i) 一、懺法ノハナベラヲハ貧楽齋啓書記カハルハ也、
- (j) 一、当日座へ顕定モツカセラルハ也、客位ノ対面五六人コレアツテ、盛合ニ小屏風ヲ立テ、座眞ヲ置ルハ也、座へハン付アルコトハ、大衆付テノ後、ヤンツキアル也、点心茶盆、皆トリ、大衆不立時、先管領計リヤン立チアツテ、唐戸ノワキ客位ニヤン立チアル時、大衆座ヲ立ツ、先四首ヲ唐戸ヲ出ル時、各管領一礼、管ハ四カシラト一礼アツテ、其儘内座エ入り玉フ也、其後大衆座ヲ出ル也、
- [(a)~(j)は筆者]

(a) 月山妙峰禪定尼の十三回忌（三回忌の誤記）（注 12）には、建長寺の玉蔭英瑛や円覚寺の誠仲中諄らの高僧が招かれていた。その他にも大勢の僧などが参加していたため「一時ノ盛事」であったという（注 13）。(b) 仏事奉行は長尾能登守、布施奉行は先勝寺の瑞首座と尻高左京が務めた。(c) 当日、力石氏が法座面の幕を張った。名字（達筆）であったのは御判代（右筆）を務めていたからである。(d) 建長・円覚の長老など高僧の宿には行器（ほかい）を入れた。その他の僧たちは、太鼓の音を聞いて板鼻道場へ衆会した。(e) 長老以下の僧たちは、管領御館に一日招待された。乱酒となり長尾能登守が取り成した。一日顕定御館に喝食・侍者ばかりが招待された。(f) 僧中走廻りは、長尾氏と大石氏が務めた。七日勤行の維那は雲頂省但首座が務めた。当日の維那は文宗演首座が務め、諸山の西堂が勤行をした。当日の仏事は疏であった。(g) 仏事が終わり、一日題評があった。顕定の漢詩もあり、当時 13 歳の奇文禪才が執筆の礼として金縁盆と両金扇子を賜った。(h) 顕定の宿は依田徳昌軒の屋敷であった。僧中の「刷」は依田であった。(i) 懺法散花に用いられた花卉は、貧楽齋啓書記が描いた（注 14）。(j) 仏事当日、顕定も座についた。客位の対面 5、6 人のところに小屏風を立て、座眞を置いて席を設けた。



第70図 海竜寺Ⅱ遺跡位置図  
(山崎一作成縄張図 出典：『古城遺跡』安中市教育委員会 1988) に加筆

以上から、私事が行われた海龍寺を基点として、その周辺に長老らの御宿、板鼻道場、管領御館、顕定御館、依田徳昌軒の屋敷があったことが確認できる。

次に、上記の各施設の位置関係を具体的に検討してみたい。伝承等に基づいた推論的考察ではあるが、考古学的知見と組み合わせる歴史像を描くためには必要な作業だと考えるものである。まず、本遺跡近辺に海龍寺が存在し、付近には長老らの宿があった。その他の僧も含め、「一時ノ盛事」と表現されるほどの人数が集ったのであるから、僧坊の立ち並ぶ風景が想像される。川島一郎氏によれば、小字徳懐方面から取勝社の西南方面を囲うように流下する谷川を道場川と呼び(注15)、また、小字古城1583番地には徳定稲荷祠があり、徳定屋敷の伝承地であるという(注16)。同地番を含む一帯は昭和61年

に発掘調査が行われ（古城遺跡）、遺物年代から14～15世紀と見られる館址が発見された。管領御館と顕定御館は表記上の違いで同一のものを指していると思われるが、『新編高崎市史』では八幡館（高崎市八幡町字館）を上杉氏館と推定している（注17）。いずれにせよ現段階では不明な点が多く、今後の調査成果により具体的な様相が明らかとなることを期待したい。

〔注1〕『新編高崎市史 通史編2 中世』（高崎市 2000）365-366頁

〔注2〕『安中市史 第二巻 通史編』（安中市 2003）227頁

〔注3〕同 207頁

〔注4〕森田真一氏によれば、『園塵』第一（1482～84頃）にある1句についても板鼻での発句とされる。（同著「山上上杉氏の拠点について—上野国板鼻を中心として—」（『群馬県立歴史博物館紀要』第29号 2008）111-113頁）

〔注5〕森田真一「上杉顕定 古河公方との対立と関東の大乱」（戎光祥出版 2014）87頁

〔注6〕前掲〔注4〕森田論文 116頁

〔注7〕前掲〔注5〕森田著書 141頁

〔注8〕前掲〔注4〕森田論文 118頁

〔注9〕同 118頁。また、顕定没後に平井が本拠地となってゆくが、その時期としては永正9年（1512）以降であると見られている（前掲〔注1〕 201頁）。その上で森田氏は「平井が確実な史料で確認できるは、大永年間（1521～27年）ではなかろうか」と指摘している。（前掲〔注4〕森田論文 117～118頁）

〔注10〕同 107頁

〔注11〕同 114頁

〔注12〕同 107-109頁

〔注13〕『談柄』第廿一談に、「一、公方ゴ他界ノ時、役者アマタイル也（中略）昔季、板鼻ニテ可淳管領ゴ老母ノヲン仏事ノ時ハ、安座、点眼ハ、子明禾上、拈香ハ誠仲禾上、陸座ハ玉隠禾上也、陸座ノ布施百貫、拈香五十貫、西堂草寮八十貫、其下平僧ハ五貫、給侍ノ侍者喝食モ五貫、一時ノ盛事云々（下略）」とある。

〔注14〕今泉淑夫「『談柄』について」（『日本中世禅籍の研究』吉川弘文館 2004）207頁

〔注15〕川島一郎『中仙道板鼻宿』（板鼻史蹟保存会 1972）12頁

〔注16〕同 191頁。および、同著『板鼻昔物語』（板鼻郷土史発刊会 1961）65頁

〔注17〕『新編高崎市史 資料編3 中世I』（高崎市 1996）26-27頁

#### 【参考文献】

『古城遺跡』（安中市教育委員会 1988）

『安中市史 第2巻 通史編』（安中市 2003）

『新編高崎市史 通史編2 中世』（高崎市 2000）

森田真一『上杉顕定 古河公方との対立と関東の大乱』（戎光祥出版 2014）

森田真一「山上上杉氏の拠点について—上野国板鼻を中心として—」（『群馬県立歴史博物館紀要』第29号 2008）

山本隆志「西上州における交通と守護権力」（地方史研究協議会編『内陸の生活と文化』雄山閣 1986）

## 写真図版



H-4号住居址調査風景



調査区全景（上が南東）

図版2



H-1号住居址(西から)



H-1号住居址カマド燃焼室(西から)



H-1号住居址カマド煙道検出状態(南西から)



H-1号住居址貯蔵穴遺物出土状態(北西から)



H-2号住居址(南東から)



H-2号住居址遺物出土状態(南東から)



H-2号住居址カマド遺物出土状態(南東から)



H-2号住居址カマド支脚出土状態(南東から)



H-3号住居址（南西から）



H-4号住居址（北東から）



H-4号住居址カマド（北東から）



H-4号住居址遺物出土状態（北東から）



H-4号住居址遺物出土状態（北から）



H-4号住居址遺物出土状態（北から）



H-5号住居址（南東から）



H-5号住居址カマド（南東から）

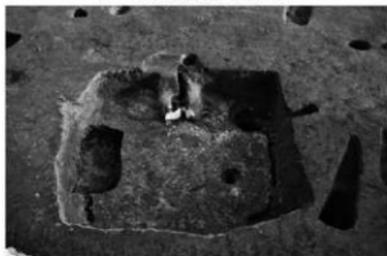
図版4



H-6号住居址（西から）



H-6号住居址カマド（西から）



H-7号住居址（北西から）



H-7号住居址カマド（北西から）



H-7号住居址土層断面（西から）



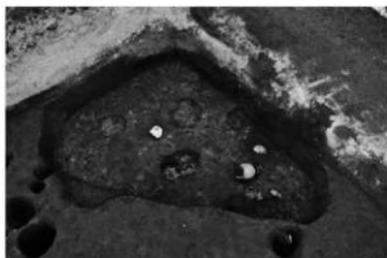
H-7号住居址貯蔵穴（北西から）



H-8号住居址（西から）



H-8号住居址カマド（西から）



H-9号住居址（南から）



H-9号住居址遺物出土状態（南から）



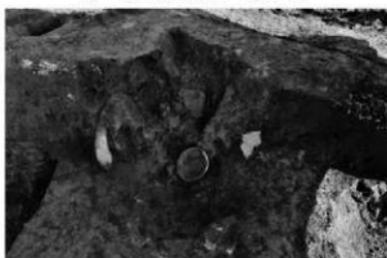
H-10号住居址（南から）



H-10号住居址炉（北から）



H-11号住居址（北西から）



H-11号住居址カマド（北西から）

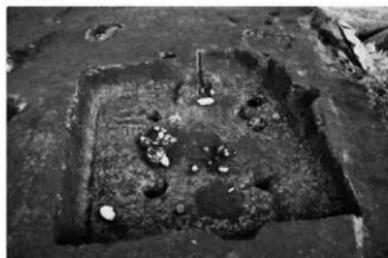


H-12号住居址（南から）



H-12号住居址遺物出土状態（南から）

図版6



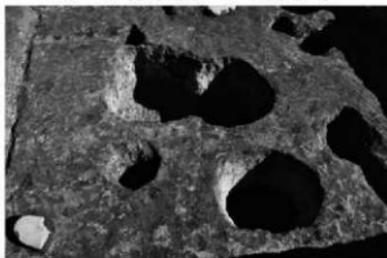
H-13号住居址（南西から）



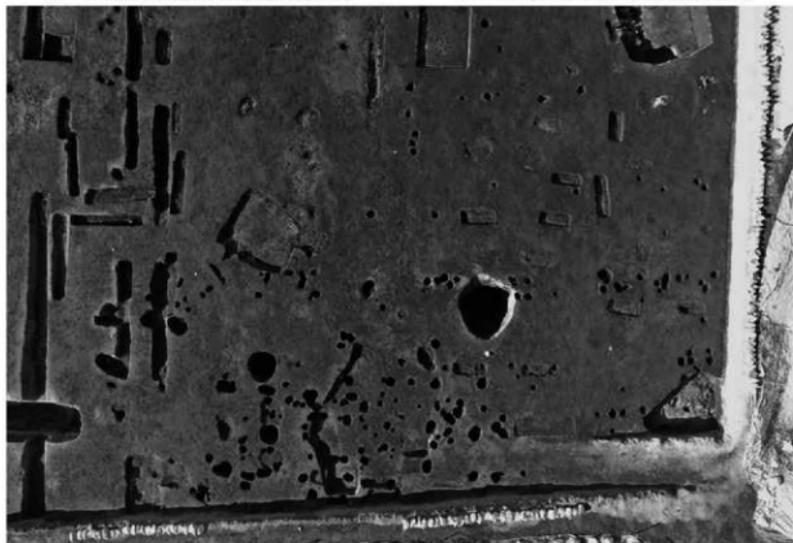
H-13号住居址カマド（南西から）



H-13号住居址遺物出土状態（南から）



H-13号住居址床下土坑（南西から）



掘立柱建物址群（北東から）



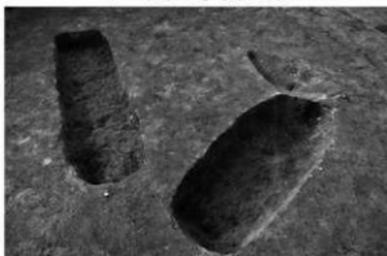
D-1号土坑(南から)



D-3号土坑(北から)



D-18号土坑(南東から)



D-28・29・30号土坑(南から)



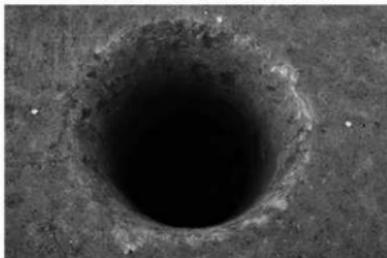
D-44号土坑(南東から)



D-49・50・51号土坑(南東から)



D-53号土坑土層断面(南東から)



D-75号土坑(南東から)

図版 8



D-81号土坑（南東から）



D-83号土坑（南から）



D-103号土坑（南東から）



D-107号土坑（南東から）



M-1・3・6・8・10号溝、D-53号土坑（上が北西）



M-1号溝 (南西から)



M-6・8号溝 (南東から)



M-6号溝遺物出土状態 (南から)



M-6号溝遺物出土状態 (北から)



M-6号溝遺物出土状態 (北西から)



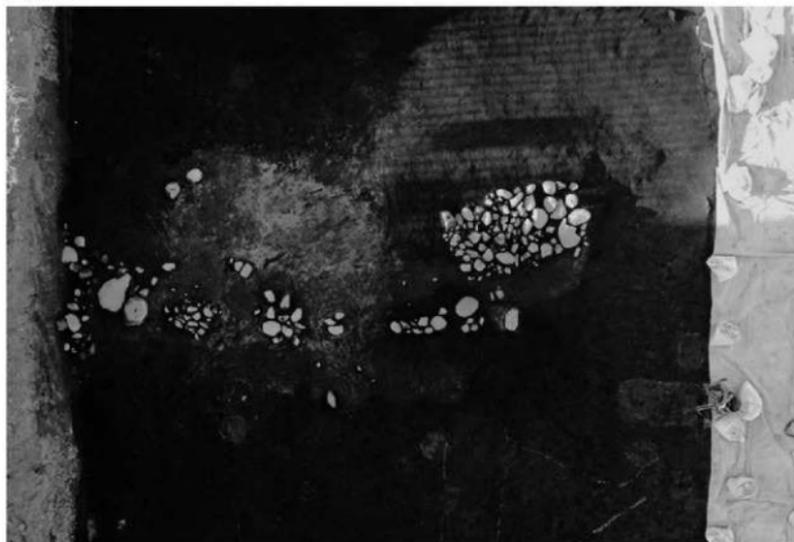
M-9号溝 (北東から)



S-1号配石 (南東から)



S-4号配石 (東から)



S-2号配石 (上が北西)



S-5号配石 (東から)



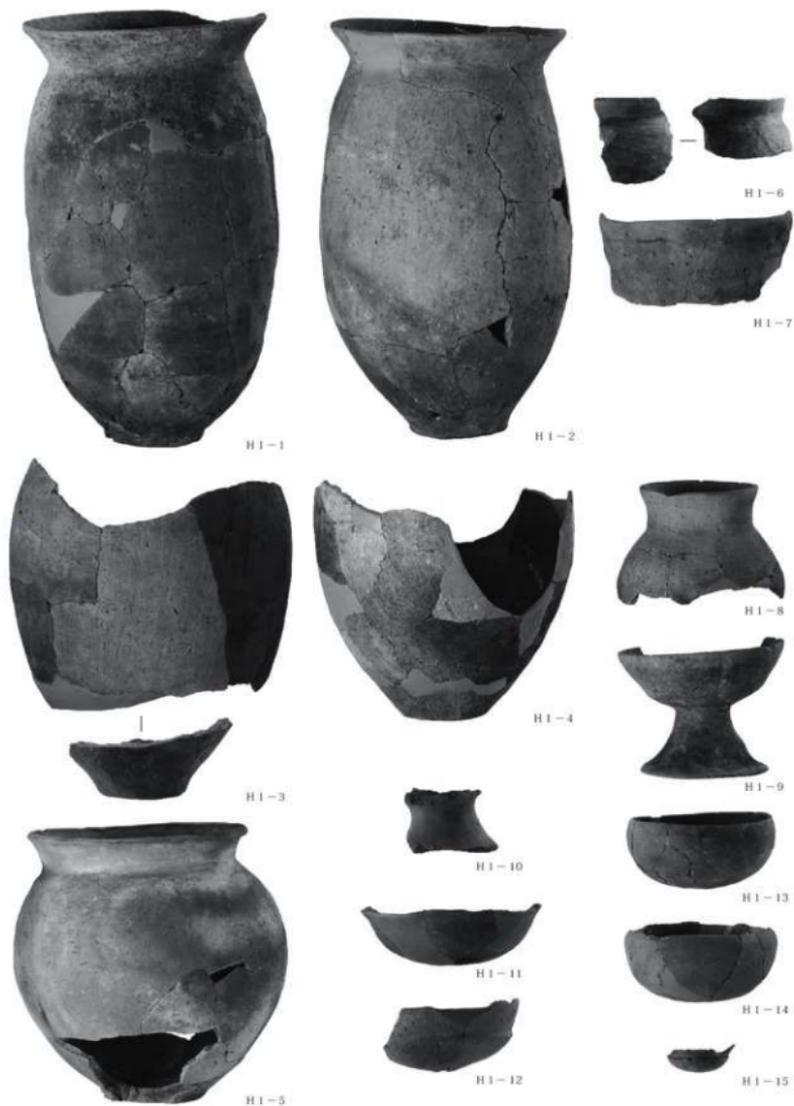
S-6号配石 (西から)



S-15号配石 (東から)

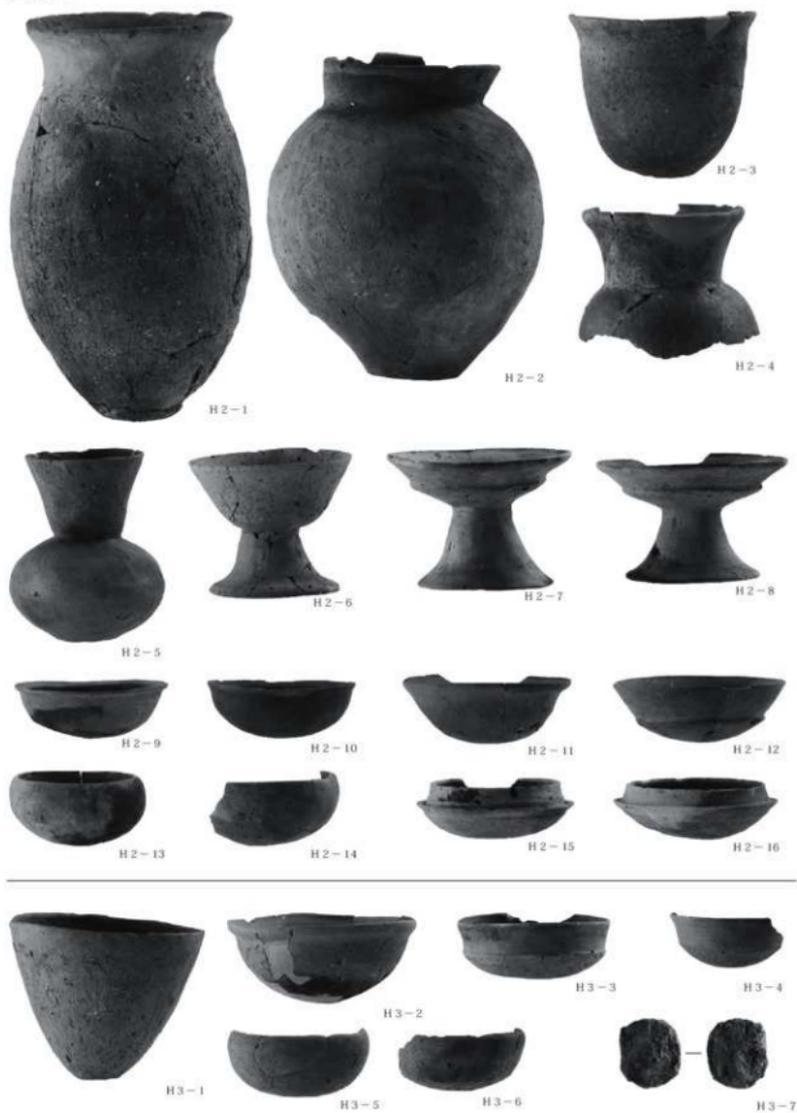


S-23号配石 (南西から)

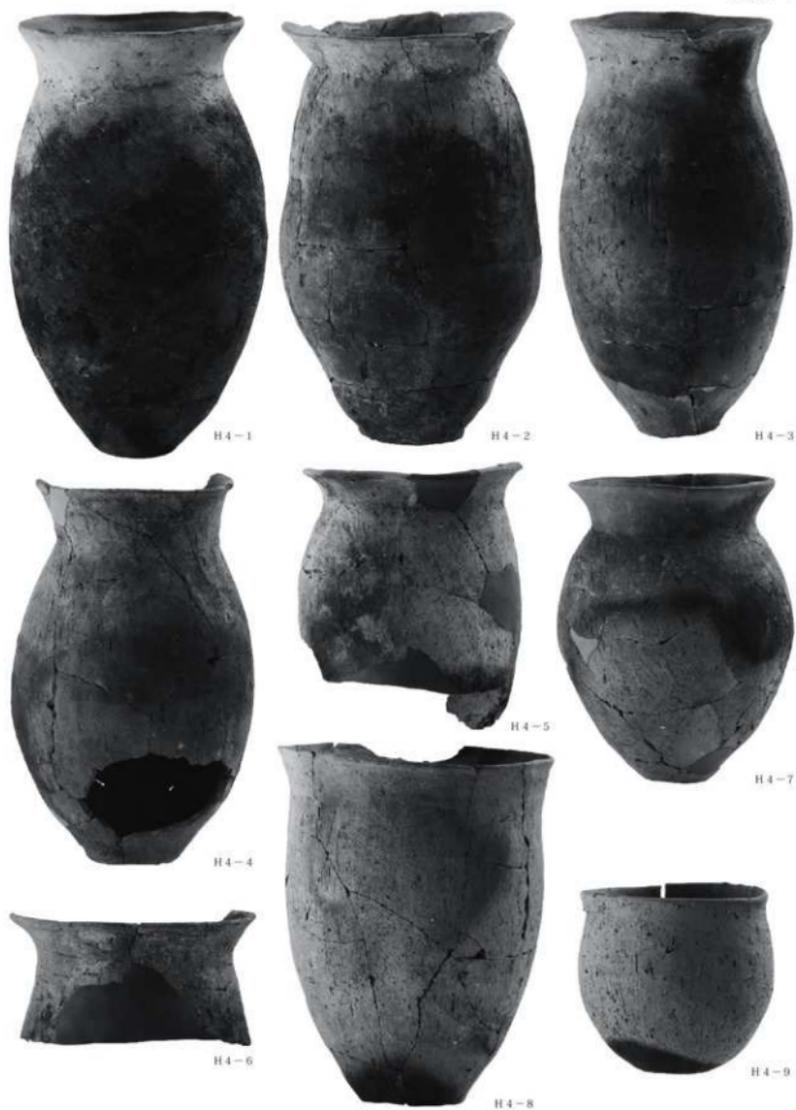


H-1号住居址出土遺物

图版 12

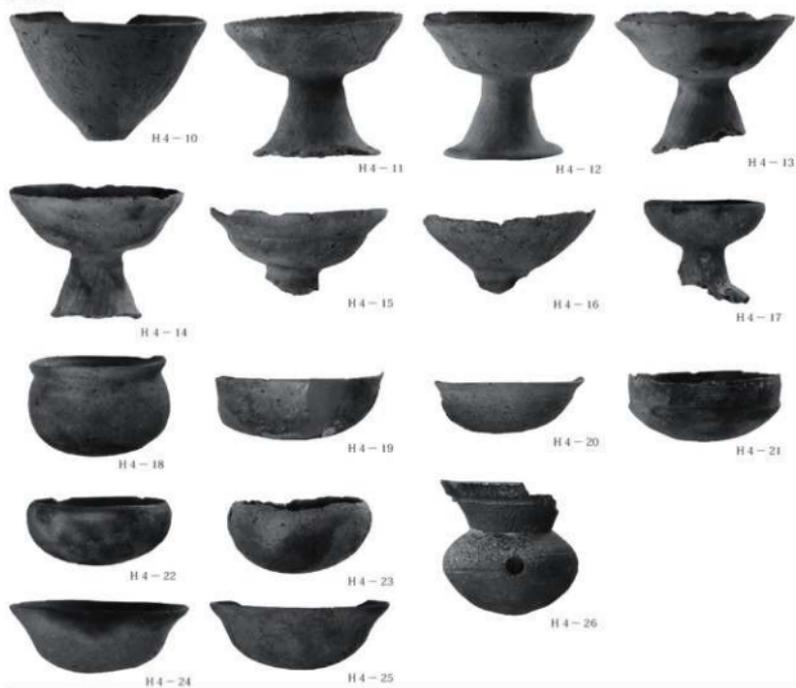


H-2・3号住居址出土遺物



H-4号住居址出土遗物(1)

图版 14



H-4号住居址出土遺物(2)・H-5号住居址出土遺物(1)



H5-4



H5-6



H5-8



H5-7



H5-9



H5-10



H5-11



H5-12



H5-13



H5-14



H5-15



H5-16



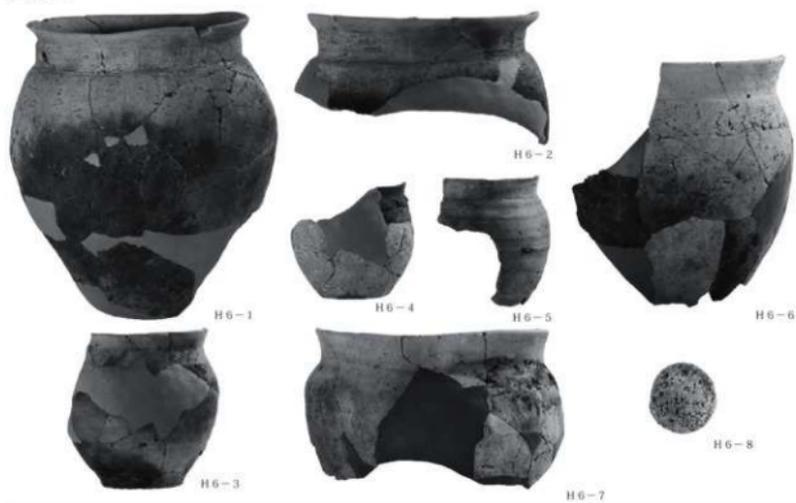
H5-17



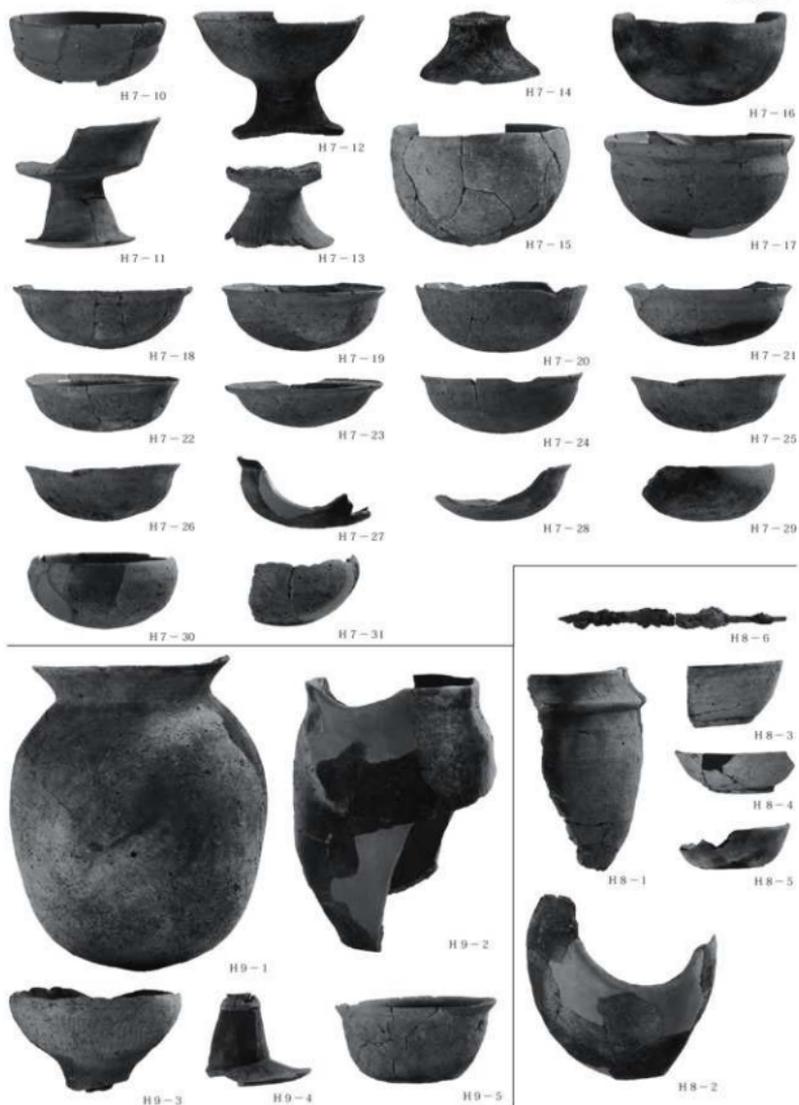
H5-18

H-5号住居址出土遗物(2)

図版 16

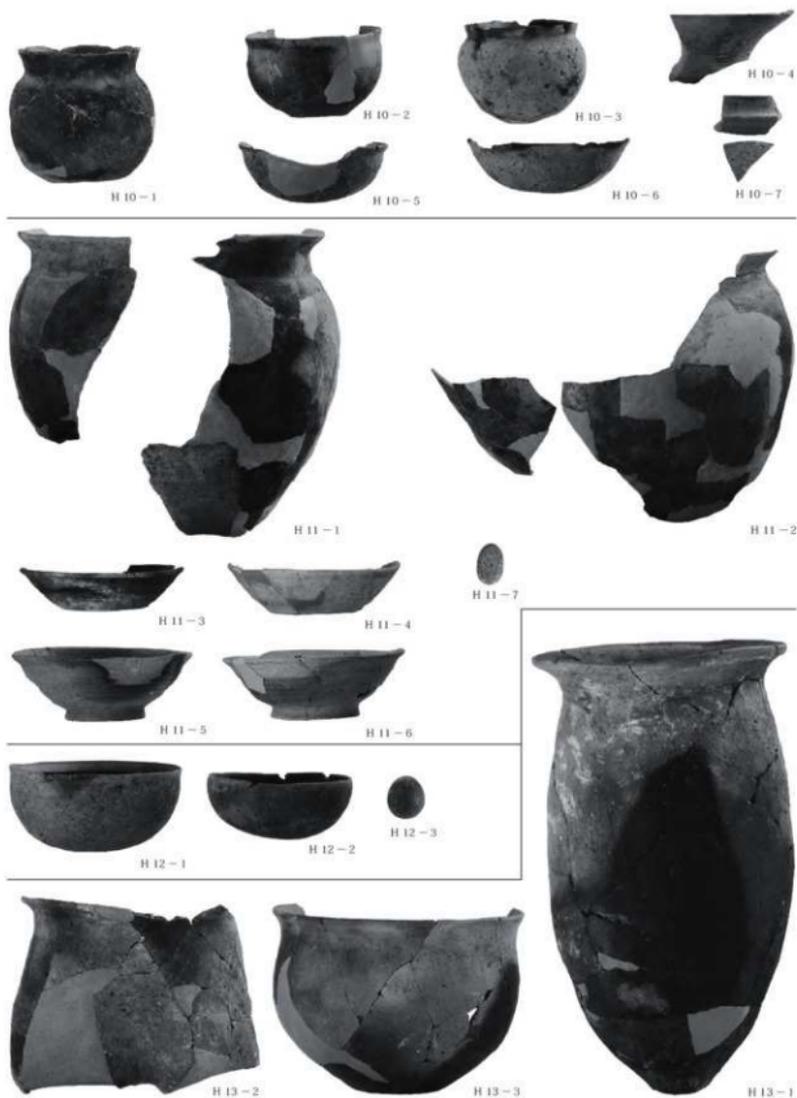


H-6号住居址出土遺物・H-7号住居址出土遺物(1)



H-7号住居址出土遗物(2)·H-8·9号住居址出土遗物

图版 18



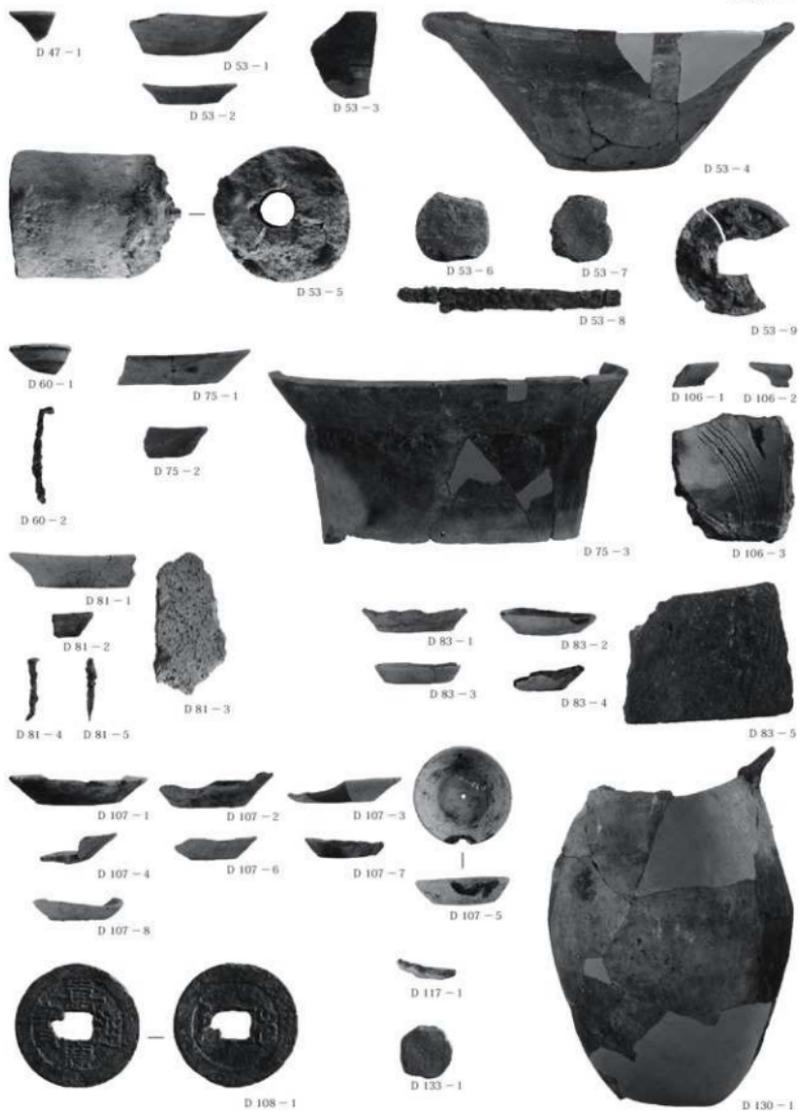
H-10 ~ 12 号住居址出土遺物・H-13 号住居址出土遺物 (1)



H-13号住居址出土遺物(2)



土坑出土遺物 (1)

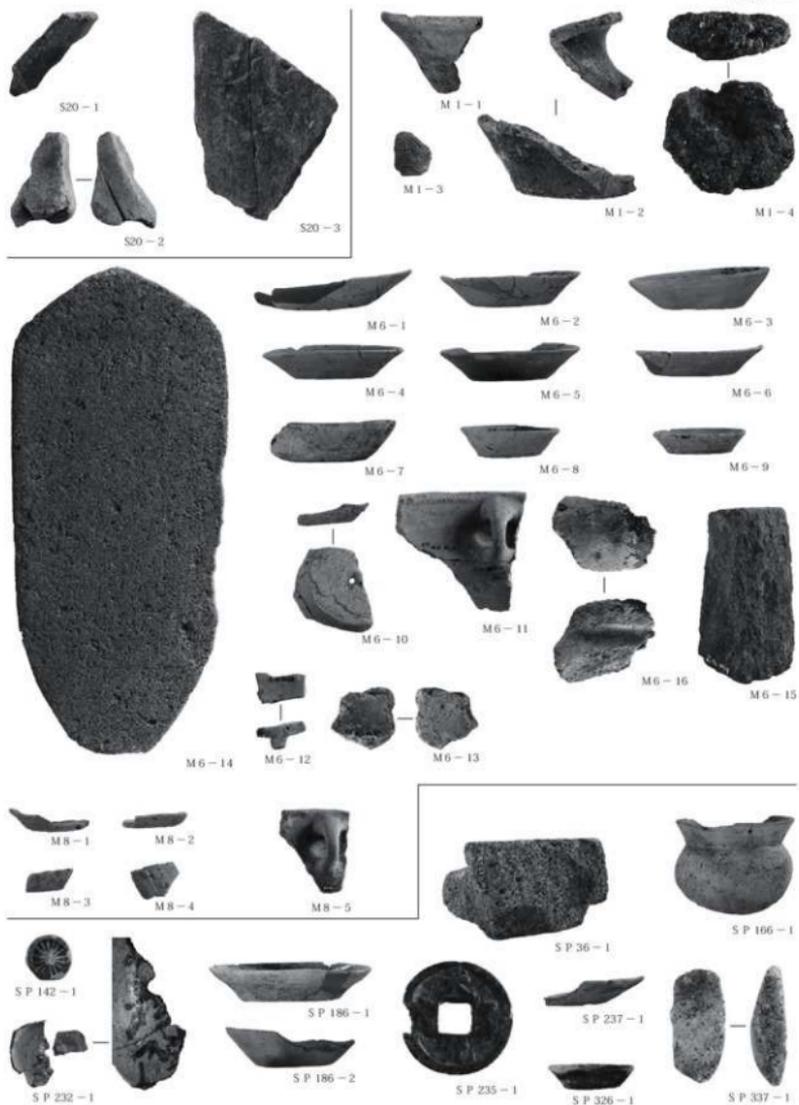


土坑出土遺物（2）

図版 22



配石遺構出土遺物 (1)



配石遺構出土遺物(2)・溝・ピット(掘立柱建物址)出土遺物

图版 24



道橋外-1



道橋外-2



道橋外-3



道橋外-4



道橋外-5



道橋外-6



道橋外-7



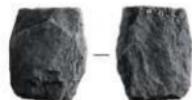
道橋外-8



道橋外-9



道橋外-10



道橋外-11



道橋外-12



道橋外-13



道橋外-14



道橋外-15



道橋外-16



道橋外-17



道橋外-18



道橋外-19

道橋外出土遺物

## 発掘調査報告書 抄録

ふりがな	かいりゅうじにいせき
書名	海竜寺Ⅱ遺跡
副書名	板鼻スポーツ広場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ番号	
編者名	伊藤順一・南田法正・有山径世・壁崇志・井上慎也
編集機関	有限会社 毛野考古学研究所
編集機関所在地	〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002番地1 TEL.027-265-1804
発行年	西暦2019年(平成31年)3月22日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
海竜寺Ⅱ遺跡	安中市板鼻字海竜寺1272-1,1273-1,1287-1	102113	369 (E7)	36°34'41"	138°92'73"	2017.11.13 ～ 2018.02.09	2,205㎡	板鼻スポーツ広場建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
海竜寺Ⅱ遺跡	集落 館址	縄文時代 古墳時代 平安時代 中世	古墳住居址 10軒 古代住居址 3軒 掘立柱建物址 12棟 ビット列 11条 配石遺構 9基 溝 6条 土坑 131基 ビット 479基	縄文土器、石器(石鏃・打製石斧)。 土師器、須恵器、土製品(土玉)。 石製品(紡錘車・滑石未成品・磨石)。 鉄製品(刀子)。 かわらけ、灯明皿、内耳鍋、陶器、磁器、瓦(丸・平)、土製品(土製円盤)、砥石、白(茶臼・穀物臼)、板碑、五輪塔、石塔、鍛冶関連遺物(椀形鍛治滓・鑿羽口)、鉄製品(刀子・釘・不明品)、銭貨。	5世紀後半から6世紀初頭に帰属する住居址において、良好な状態のカマドを検出。海竜寺に関連した施設と考えられる掘立柱建物址、溝(堀)を検出。溝からは朱墨で「永正三年八月廿九日 妙□禪尼」と書かれた石塔が出土。

### 海竜寺Ⅱ遺跡

—板鼻スポーツ広場建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行日 平成31年3月22日  
 編集・発行 有限会社毛野考古学研究所  
 前橋市公田町1002番地1  
 安中市教育委員会  
 群馬県安中市松井田町新堀245  
 印刷 朝日印刷工業株式会社  
 群馬県前橋市元総社町67番地